

令和8年9月3日

令和8年 第3回区づくり推進横浜市会議員会議 次第

日時：令和8年9月3日(木) 午前10時～

場所：都筑区役所5階特別会議室

1 議 題

- (1) 令和7年度 都筑区個性ある区づくり推進費 決算状況について
(資料1)
- (2) 令和8年度 都筑区自主企画事業の執行状況について (資料2)
- (3) 令和9年度 都筑区個性ある区づくり推進費 予算編成の考え方
について (案) (資料3)

2 報告事項

横浜グリーンエクスポに係る来場意欲醸成の取組について

令和 8 年第 3 回
区づくり推進横浜市会議員会議
会議資料

令和 8 年 9 月 3 日
都 筑 区

令和 7 年度
都筑区個性ある区づくり推進費
決算状況について

令和 8 年 9 月 3 日
都 筑 区

目 次

令和7年度 都筑区個性ある区づくり推進費 決算状況について	3
令和7年度 都筑区自主企画事業説明書	
施策1 子育て世代をはじめ、あらゆる世代が住みたいと思えるまち	
1 妊娠期から学齢期までの切れ目のない子育て支援事業 [新規] [拡充]	4
2 つづき健康づくりサポート事業 [拡充]	12
3 食と暮らしの安全推進事業	15
4 自治会町内会の地域運営応援事業	18
5 地域活動の活性化事業（区民活動センター・読書活動・青少年のボランティア） [拡充]	20
6 都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」推進事業	23
7 障害者交流啓発事業	27
8 地域で支える認知症支援事業 [新規]	30
9 まちづくり総合調整事業 [拡充]	31
10 広報・広聴事業 [拡充]	33
11 スムーズ区役所事業	35
施策2 誰もが安全・安心に暮らせるまち	
12 危機管理対策推進事業	38
13 災害にそなえる自助・共助の推進事業	41
14 安全・安心なまちづくり事業 [拡充]	44
施策3 活力とにぎわい、魅力あふれるまち	
15 スポーツチーム等との連携による地域貢献推進事業 [拡充]	46
16 文化とスポーツであふれるまちづくり推進事業	47
17 都筑区民まつり支援・地域の賑わいづくり事業	51
18 多様性にあふれるまちづくり推進事業（DEI推進事業）	52
19 メイドインつづき推進事業	56
施策4 花と緑にあふれ、豊かな環境を育むまち	
20 環境にやさしいまち推進事業	58
21 みんなで花と緑のまちづくり事業 [拡充]	60

令和7年度 都筑区個性ある区づくり推進費 決算状況について

<個性ある区づくり推進費総括表>

(単位：円)

区 分	予算額 (A)	予算現額 (B)	決算額 (C)	差引 (B-C)
1 自主企画事業費	99,873,000	99,873,000	95,444,617	4,428,383
2 統合事務事業費	40,682,000	40,682,000	38,078,149	2,603,851
(1) 統合事務費	22,218,000	22,218,000	20,346,343	1,871,657
(2) 統合事業費	18,464,000	18,464,000	17,731,806	732,194
3 区庁舎・区民利用施設管理費	858,565,000	869,805,000	872,178,360	△ 2,373,360
合 計	999,120,000	1,010,360,000	1,005,701,126	4,658,874

<内訳>

1 自主企画事業費

施 策 の 柱	予算額 (A)	予算現額 (B)	決算額 (C)	差引 (B-C)
(1) 子育て世代をはじめ、あらゆる世代が住み続けたいと思えるまち	53,273,000	53,273,000	48,755,699	4,517,301
(2) 誰もが安全・安心に暮らせるまち	22,709,000	22,709,000	24,211,696	△ 1,502,696
(3) 活力とにぎわい、魅力あふれるまち	17,861,000	17,861,000	16,755,742	1,105,258
(4) 花と緑にあふれ、豊かな環境を育むまち	6,030,000	6,030,000	5,721,480	308,520
合 計	99,873,000	99,873,000	95,444,617	4,428,383

2 (2) 統合事業費

区 分	予算額 (A)	予算現額 (B)	決算額 (C)	差引 (B-C)
広報よこはま発行事業	9,941,000	9,941,000	9,512,444	428,556
市民相談事業	1,555,000	1,555,000	1,551,894	3,106
クリーンタウン横浜事業	1,370,000	1,370,000	1,359,682	10,318
消費生活推進員活動事業	245,000	245,000	119,000	126,000
緊急時情報システム運用事業	433,000	433,000	438,996	△ 5,996
スポーツ推進委員支援費	1,959,000	1,959,000	1,958,700	300
青少年指導員事業	1,441,000	1,441,000	1,361,090	79,910
学校・家庭・地域連携推進事業	1,520,000	1,520,000	1,430,000	90,000
合 計	18,464,000	18,464,000	17,731,806	732,194

3 区庁舎・区民利用施設管理費

区 分	予算額 (A)	予算現額 (B)	決算額 (C)	差引 (B-C)
区庁舎等管理費 (光熱水費含む)	251,118,000	251,118,000	254,176,650	△ 3,058,650
区版市民活動支援センター	921,000	921,000	763,493	157,507
土木事務所管理費 (光熱水費含む)	7,393,000	7,393,000	8,166,719	△ 773,719
地区センター等管理費	192,776,000	198,064,000	201,184,546	△ 3,120,546
ログハウス管理費	9,836,000	10,123,000	10,123,000	0
公会堂管理費 (光熱水費含む)	33,939,000	33,939,000	28,936,529	5,002,471
老人福祉センター等管理費	114,420,000	117,924,000	117,898,135	25,865
コミュニティハウス管理費	60,883,000	61,307,000	61,303,000	4,000
区スポーツセンター管理費	42,989,000	44,529,000	44,315,798	213,202
都筑多文化・青少年交流プラザ管理費	8,286,000	8,286,000	8,286,000	0
区民文化センター管理費	129,220,000	129,417,000	129,417,000	0
その他 (広場・遊び場)	244,000	244,000	791,472	△ 547,472
区庁舎・区民利用施設修繕費	6,540,000	6,540,000	6,816,018	△ 276,018
合 計	858,565,000	869,805,000	872,178,360	△ 2,373,360

施策１ 子育て世代をはじめ、あらゆる世代が住み続けたいと思えるまち

1 妊娠期から学齢期までの切れ目のない 子育て支援事業 新規・拡充	R7 予算額	R7 決算額	差引
	1,577 万 3 千円	1,413 万 2 千円	164 万 1 千円

1 夫婦で子育て応援事業

就労をしている妊婦やパートナーが参加しやすく、また、妊娠期から子育てをサポートする施設を知り、出産後に地域の子育て関連の取組に繋がりをやすくするため、引き続き、地域子育て支援センターPopola（以下「ポポラ」）、ポポラサテライト及び、身近な場所で参加できるよう区内の全ての地域ケアプラザ（6 か所）において、休日両親教室を開催しました。

- ・ポポラ：毎月第4土曜日、年12回 参加延べ133組
- ・ポポラサテライト：毎月第2土曜日、年12回 参加延べ129組
- ・地域ケアプラザ：全6か所で開催、計11回 参加延べ43組



《休日両親教室の様子》

※休日両親教室の参加者の声：

- ・ほかの参加者の方と出産に向けての情報交換（準備しているもの等）ができてよかった。（プレママ）
- ・沐浴体験だけでなく、子どもが生まれた後の生活の話を聞けて、赤ちゃんのいる生活がイメージできた。協力してやっていきたい。（プレパパ）
- ・こういった子育て支援施設があることを今回初めて知ることができた。利用していきたい。（プレパパ・プレママ）

2 0歳児地域育児教室（赤ちゃん会）

転入者が多い都筑区の子育て世代からのニーズを踏まえ、地域ケアプラザや地区センター、自治会町内会館など地域の身近な場所（全18か所）で月1回（8月を除く）赤ちゃん教室を開催しました。乳児とその養育者が地域で互いに知り合える機会を確保し、不安軽減に繋がりました。

- ・18会場198回（8月を除く毎月実施）
参加人数延べ3,713人



《赤ちゃん会の様子》

※赤ちゃん会参加者のアンケート（自由意見）：

- ・同じ月齢のご家族と知り合える機会になった。毎回、楽しみにしている。
- ・第2子でも参加でき、友だちができてうれしい。
- ・専門職の方から育児のことが聞けて安心できる。手遊び歌を家でもやっている。

3 子育てネットワーク事業

地域の子育て支援の充実を図るため、保育園や親と子のつどいの広場などの関係機関と情報交換を行うほか、主任児童委員やこんにちは赤ちゃん訪問員など広く子育て支援に関わる方が参加する交流会を開催しました。

- ・子育てネットワーク会議：第1回5月30日 参加人数31人
第2回8年2月13日 参加人数27人
- ・子育てネットワーク交流会（テーマ 防災）：12月8日 参加人数97人



《子育てネットワーク交流会の様子》

※ネットワーク交流会のアンケート（自由意見）：

- ・防災にも普段のつながりづくりが大切と実感しました。活動に生かしていきたい。
- ・孤立しないよう、1施設だけでなく、協力し合えると良いと思った。ネットワークが生きると思った。

4 育児不安を抱える養育者への支援

育児不安を抱える養育者を対象に、電話や訪問等で継続的な支援を行うとともに必要に応じて心理士が個別の相談に対応しました。また、成長の道筋に合わせ、「イヤイヤ期の対応」や「子どもの心の育て方」等をテーマ別に学ぶことができるよう、「乳幼児期の子育て講座」を開催しました。

また、発達に不安を抱える2歳前の子と親を対象に、親子で参加し心理士のアドバイスを受けられる遊びの教室「たんぽぽクラブ」を引き続き開催しました。

- ・養育者向け心理士の個別相談 相談者 12 人

- ・乳幼児期の子育て講座

- イヤイヤ期への対応 第1回 5月30日 参加 25組

- 第2回 10月15日 参加 28組

- 子どもの心の育て方 第1回 8月6日 参加 32組

- 第2回 8年2月4日 参加 40組

※アンケート結果：

回答者の 84.8%が「とてもよい (117 人)」、13.8%が「よい (19 人)」と回答

※アンケート (自由意見)：

- ・子の年齢や場面にあった具体的な声かけを教えてもらった。
- ・ほめ方・しかり方が分かった。

- ・たんぽぽクラブ

- 計 9 回実施 参加延べ 55 組

- ※アンケート (自由意見)：

- ・育児に対する不安や悩みが軽減した。
 - ・家でもふれあい遊びを実践したい。
 - ・声のかけ方が参考になった。
 - ・同じような悩みの方がいて安心した。

5 乳幼児健診受診サポート事業

乳幼児健診における保護者の負担軽減や誰もが受診しやすい環境づくりに繋げるため、健診会場に保育ボランティアを配置し、妊娠中の方のサポートや同行したきょうだい児の見守りなどを行いました。

- ・見守りスペースの利用30組
- ・付き添い対応156組



《健診中の付き添い対応の様子》 《乳幼児健診会場の見守りスペース》

※アンケート結果：

回答した見守りスペース利用者の100%が「満足」と回答

※アンケート（自由意見）：

- ・利用できて助かった。
- ・子どもに楽しんでもらえた。

6 身近な拠点における子育てインクルーシブ交流事業【拡充】

転入世帯や外国出身者、障害児を養育する家庭を含め、多様な背景を持つ全ての家庭が地域で支え合いながら子育てできることが求められています。そこで、地域ケアプラザ等で行っていた多世代交流事業を、年齢や世代、国籍等の垣根を越えたインクルーシブ交流事業へ拡大することで、地域とのつながりを育む支援を行い、誰もが子育てしやすい地域づくりを促進しました。

- ・身近な拠点における子育てインクルーシブ交流事業19回実施（参加組数109組）
- ・インクルーシブなまちづくり講演会：9月2日
講演：「多様性は可能性～モノ・コト・マチは混ざるから生まれる～」
講師：上原 大祐氏（元パラアイスホッケー選手 バンクーバーパラリンピック銀メダリスト）
パネルディスカッション：「インクルーシブな社会を目指すために」



《多文化交流親子イベントの様子
(子育て支援センターPopola)》



《ボッチャイベントの様子
(横浜あゆみ荘)》



《多世代交流イベントの様子
(東山田エリア)》



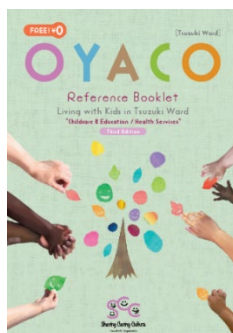
《インクルーシブ講演会の様子
(ボッシュ ホール)》

※アンケート（自由意見）：

- ・色々な文化を持つ家族と出会えて嬉しい。
- ・様々な世代、立場の人と交流ができて楽しかった。

7 外国出身者向け都筑区子育て情報誌の作成【新規】

外国につながる世帯の子育て支援に取り組む区内の支援団体等と連携し、外国出身家族のニーズを正確に捉え、実用的な外国語版子育て情報誌を作成しました。データ版をWEBに公開するとともに、特に必要とされる情報はリーフレットとして発行し、配付・配架しました（1,000部）。



《外国出身者向け子育て情報誌（都筑区版OYACO）》

※利用者の声：

- ・先月日本に来たばかりで、今後2人目の子どもが生まれる予定なので、良いタイミングで情報を知ることができてよかった。

8 おひさま広場（園庭開放）

市立保育所が、子育て中の保護者にとって地域の身近な子育て支援機関となるよう、園庭開放を行いました。子育て経験のある保育協力者を配置して見守りがある中で、季節の遊びを取り入れながら子どもを安全に遊ばせるとともに、保護者の育児相談などを行いました。

- ・おひさま広場：週5日（月～金曜日） 市立保育所4園 参加者延べ9,112人
- ・おひさままつり：5月16日 みどり保育園 37組81人
5月22日 茅ヶ崎南保育園 37組79人
10月22日 大熊保育園 雨天中止
10月23日 中川西保育園 22組24人



《おひさままつりの様子》



《保護者と保育者が話す様子》

※参加者の声：

- ・双子の子どもを私一人で遊ばせるとき、これほど安心安全なところはなく本当にありがたく感謝しております。
- ・先生方も悩み相談などフランクに乗ってくださるので、親子共にとってもありがたい環境でした。

9 積木交流（つみきのつづき）【拡充】

都筑区では、「つみきのつづき」をキャッチフレーズとして、市立保育所に合計2万個の積木を用意して積木遊びに力を入れています。積木遊びを地域の子育て世帯や民間保育・教育施設に広め、積木と親しんでいただけるように、区民ホールや子育て支援などで連携協定を締結しているノースポート・モールで親子向けの育児講座や施設への積木の貸出等を行い、子どもたちに豊かな体験を提供しました。

- ・積木であそぼう！～公民合同育児講座～：8年1月17日 参加者数135組352人
(区民ホール)
- ・積木であそぼう！～育児講座～：①7月25日 参加者数15組36人
②10月17日 参加者数17組36人
(ノースポート・モール)



《ノースポート・モールでの様子》



《区民ホールでの様子》

※アンケート（自由意見）：

- ・こんなにたくさん積木がある所に来たのは初めてで楽しかったです。保育士さんたちの心遣いも嬉しかったです。
- ・他の人が作っているものを見るのも新鮮でした。また来たいです。
- ・周りの子たちが組み立てる様子を見ながら真似しようとしていて、とても刺激になったと思います。

10 潜在保育士の保育士体験

将来的な保育士確保を目的として、保育士資格を持っていても現在は働いていない方や将来保育士資格を取得して働きたいと考えている方を対象に、市立保育所で保育士体験を行いました。

- ・ 6月～8年2月末まで実施
申込 13 人、実施 9 人



《保育士体験実施チラシ》

※アンケート（自由意見）：

- ・子どもが好きで保育士になりたいと思っています。もう少し家庭が落ち着いたらチャレンジしてみたいと思いました。
- ・しばらく仕事を離れていて久しぶりの保育園。こんな感じだったかと思い出しました。
- ・園庭開放や一時保育で利用している保育園でしたが、実際に入ってみるとまた違って楽しかったです。

11 地域が支える子ども達の居場所づくり事業

様々な課題を抱えた小中学生を対象に、生活習慣や学習習慣を身に付けられるきっかけとなるよう、地域の協力を得て、居場所づくり事業を実施しました（南部方面で実施、原則毎週火曜日）。

また、送迎の必要がある児童等の支援を行いました。

- ・参加人数延べ 103 人
- ・車両での送迎人数延べ 29 人

12 学齢期の子どもや保護者への支援

小学校入学を控え、学校生活やPTA、放課後の預け先などに不安を感じる、いわゆる「小1の壁」に直面する保護者も多くいます。こうした不安の軽減に繋がるよう、未就学児のいる保護者を対象とした講演会（動画配信を含む。）や、子どもが同じ小学校に通う予定の保護者や先輩保護者との情報交換会を各小学校 PTA 等の協力のもと開催し、インターネット等では収集しづらいリアルな情報を提供しました。

- ・「小学校入学前に知っておきたい大切なこと～新生活を安心して迎えるために～」(講演会及び情報交換会)：9月13日
- ・参加者 109 組 141 人



《講演会の様子》



《情報交換会の様子》

※アンケート（自由意見）：

- ・生活リズムの変化ばかりにとらわれておりましたが、小学生になる子どもの心などに着目いただき、改めて最も大切なのは子どもの心だと思い直しました。
- ・キッズクラブの様子、学童の様子の写真等でもう少し具体的に違いがわかると嬉しかったです。
- ・子どもの気持ちを考えながらの講演でよかったです。イメージがしやすかったです。

主な増減	育児不安を抱える養育者への支援等における局事業の活用などによる事業費の減
------	--------------------------------------

2 つづき健康づくりサポート事業 拡充	R7 予算額	R7 決算額	差引
	394 万 1 千円	368 万 7 千円	25 万 4 千円

1 働く世代の健康推進事業

市民意識調査でバランスよく食べている区民の割合が減ってきている結果が出たことから、健康的な生活習慣を身に付けていただくため、区内商業施設との連携や区内企業への健康経営支援機会を活用した健康づくりの支援を進めました。

《横浜健康経営認証の取得支援》

- ・健康経営合同説明会の開催：6月20日

《健康づくりネットワーク連絡会の開催》

- ・第1回：8月26日 第2回：令和8年2月10日

《ツズキベジタブルチャレンジの実施》

- ・区内コンビニエンスストア（ローソン）における POP 啓発（9月1日～30日）

- ・YouTube 広告の掲載（9月1日～30日）

表示回数：42 万 2,044 回

- ・商業施設における POP 掲出・デジタルサイネージ放映（9月1日～30日 3施設（港北 TOKYU S.C.、ノースポート・モール、ららぽーと横浜））

- ・映画館広告での啓発動画放映（9月12日～18日）

- ・横浜ビー・コルセアーズ試合会場でのベジチェック（11月9日）

- ・卓球 T リーグ試合会場でのベジチェック（8年1月11日）

※ベジチェック参加者の声：

- ・すぐにでも野菜を食べようと思った。前より意識するようになった。：97.8%
- ・昨年測定した時よりも結果が良くなっていて嬉しい。
- ・結果が悪いのは、想像どおりだった。もっと野菜を食べようと思う。



《健康経営合同説明会》



《都筑区医師会と作成したメンタルヘルスリーフレット》



《啓発動画イメージ》

2 がん予防啓発事業

区民ががんの早期発見・早期治療ができるよう、乳幼児健診や地域のイベント等でがんに関する知識や検診の必要性に関する啓発を行いました。あわせて健康づくりネットワーク連絡会と連携し、がん検診の普及啓発や検診の必要性に関する周知を行いました。

《3歳児健診保護者に対する乳がん・大腸がん検診普及啓発》

- ・27回 参加延べ357人

※体験者の声：

- ・しこりの大きさや硬さの感覚がわかってよかった。

《乳がん啓発イベント》

- ・ノースポート・モール DE&I FESTIVAL イベント内（10月5日）：127人参加



《乳がん啓発イベントの様子》

《保健活動推進員と連携した赤ちゃん会での乳がん検診普及啓発》

- ・ 8回 参加延べ 85 人

3 こどものお口の健康事業【拡充】

乳幼児のむし歯予防に関する知識を普及するため、歯みがきの方法やむし歯予防の知識や手法を伝える教室を毎月区役所で開催したほか、地域ケアプラザなどの地域会場でも開催しました。

また、日本語を母語としない養育者もこどものむし歯予防に取り組めるよう、むし歯予防リーフレットの多言語版（英語・中国語・韓国語・ベトナム語・やさしい日本語）を作成しました。（10月／各言語 100 部）



《はじめての歯みがき教室の様子》

《はじめての歯みがき教室》

- ・ 18 会場 参加延べ 104 組 219 人

※参加者の声：

- ・ 実践できてよかった。
- ・ 親の口腔ケアについても学べてよかった。

《多言語版リーフレット》

※利用者の声：

- ・ イラストがあり分かりやすい。
- ・ 自国では歯みがき指導を受ける機会がなかったため、ありがたい。



《多言語版リーフレット》

4 こどもの食育推進事業

こどもの食生活に関する不安を軽減し、安心して育児ができるよう地区センターや地域ケアプラザなどの地域会場で食事・歯科相談を実施しました。また、こどもの成長に応じた離乳食が進められるよう離乳食講座を開催しました。さらに、こどもの健全な食生活を啓発するため、小中学校・保育園等と連携し、情報交換会や研修を実施しました。

《子育て支援者会場等における相談》

- ・ 食事相談：11 回実施 参加延べ 72 組／歯科相談：4 回実施 参加延べ 24 組

《モグモグ離乳食とママ・パパの健康講座》

- ・ 6 回実施 参加延べ 74 組

《カミカミ・パクパク離乳食講座》

- ・ 4 回実施 参加延べ 44 組

《食育情報交換会》

- ・ 第 1 回：7 月 11 日 31 人参加 第 2 回：12 月 10 日 34 人参加

※アンケート結果：

- ・ 「離乳食講座の内容が参考になった」と回答した保護者：97%

5 地域の健康づくり応援事業【拡充】

保健活動推進員や食生活等改善推進員の活動支援や各推進員の合同の研修会を行うことにより、地区活動の連携を促し、地域の健康づくり活動の充実を図りました。

また、保健活動推進員が安心して地域活動を行い、地域における健康づくり活動が活性化されるよう、自宅のパソコンなどから定例会議や研修等の情報をいつでも自由に閲覧できるシステムを整えました。

さらに、区民の熱中症予防のため、熱中症対策グッズ（温度計カード）を配布しながら、民生委員・児童委員及び保健活動推進員とともに啓発を行いました。あわせて、同関係団体に冷却グッズを提供し、安全に熱中症啓発活動ができるよう支援しました。

・保健活動推進員・食生活等改善推進員合同研修：10月1日 33人参加



《合同研修会の様子》



《冷却グッズを身につけて活動する様子》

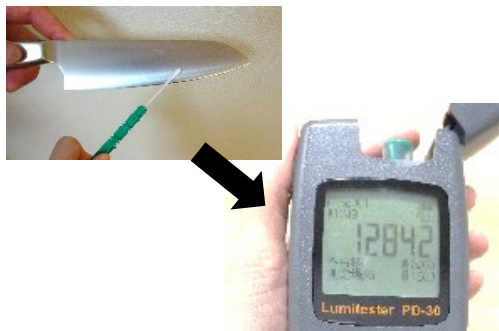
主な増減	地域の健康づくり応援事業における、保健活動推進員の情報共有手法の見直し（電子申請・届出システム活用）による委託料の減
-------------	---

3 食と暮らしの安全推進事業	R7 予算額	R7 決算額	差引
	69 万 6 千円	63 万 9 千円	5 万 7 千円

1 食の安全確保事業

(1) 大規模商業施設や大量調理施設への監視指導の実施

都筑区には大規模商業施設内の飲食店や大量調理施設が多く、食中毒が発生したときに被害が大きくなるリスクがあります。定期的な監視にあわせて、調理器具等の洗浄度を数値化できる機器を用いながら助言を行い、自主衛生管理の推進を促しました。



《洗浄度を数値化できる機器》



《監視指導の様子》

(2) 地域活動の担い手等への検査機器を用いた食品衛生に関する啓発

高齢者の見守りを目的とした配食サービスやこども食堂などのボランティアで食事を提供する団体に対し、食品を取り扱う企業から衛生管理の専門知識を持つ担当者を招き、調理をする際に参考となる衛生に関する講習会を実施しました。

※アンケート結果：

- ・衛生管理やノロウイルス対策について「理解が深まった」と回答した人：100%



《啓発講習会の様子》

また、区民に向けた食中毒予防啓発を実施しました。

- ・都筑区食品衛生協会と協力して行う食中毒予防キャンペーン（7月30日）
- ・区民ホールでのパネル展（7月25日～31日）
- ・広報よこはま都筑区版（6、7、11月号）

※アンケート（自由意見）：

- ・食中毒についての理解が深まったがもっと知りたい。
- ・暑い夏に傷みやすい食品や管理方法について知りたい。



《食中毒予防キャンペーン》



《食中毒予防パネル展》

2 暮らしの衛生確保事業

区民から猫のふん尿被害や、家屋へ侵入したねずみ、ハチの巣に関する相談が多く寄せられます。そのため、区民生活における猫・ねずみ・ハチの被害に対する支援として、被害防止器具の貸出しなどを行いました。

3 動物適正飼育推進事業

人と動物が共に快適に暮らせる環境づくりを目指し、動物愛護及び適正飼育の推進を図りました。動物愛護週間では長寿ペット表彰を実施しました。また、区民まつり等において、ペットの飼育マナー及び適正な飼育などに関する啓発を行いました。

- ・新たに「愛犬の安全な散歩マナー～リードは制御できる長さで！～」の啓発動画を作成し配信：7月から
- ・区民ホールにて長寿ペット表彰パネル及び飼育ルール等展示：9月19日～25日

※アンケート結果：

- ・飼い主のルールやマナーについての展示がわかりやすかったと回答した人：

9割以上

※アンケート（自由意見）：

- ・散歩の時、リードを適切な長さにしておくことがすごく大事だとわかった。



《ペット表彰パネル及び飼育ルール等展示》

《リードに関する動画》

主な増減	—
------	---

4 自治会町内会の地域運営応援事業	R7 予算額	R7 決算額	差引
	396 万 2 千円	291 万 7 千円	104 万 5 千円

1 自治会町内会加入促進

- ・自治会町内会への加入促進を図るため、区連会等と連携して区民まつりで自治会町内会 PR ブースを出店し、加入に関するアンケートを実施しました（アンケート 464 件）。
- ・自治会町内会魅力発信動画（区連会制作）を活用した PR
- ・区商連と連携して自治会の加入促進と商店街の周知のため、夏祭りに配布できるうちわを作成、配布（14,000 部、7 月）
- ・区連会等と連携した未加入世帯及び未設立・新築マンションへの働きかけ、加入取次



《区民まつりでの区連会等と連携した加入促進キャンペーン



《区商連と連携して製作した
《加入促進うちわ》

2 自治会町内会への情報提供

- ・区連会定例会資料を、毎月（8 月と 12 月を除く）、各自治会町内会あてに配送し、区連会ホームページに掲載しました。
- ・自治会町内会長研修について、これまでの講義方式から現役世代の会長等も参加しやすくするためオンライン方式に変更し、経験年数の浅い会長向けに「自治会町内会基礎研修」を実施しました。（6～8 月、視聴者数 89 件）

※1～5 年目の会長の受講：92%

※オンラインに変更したことによる

受講者からの声：

- ・大変参考になった、参考になった：84%
- ・自治会の仕組みがよくわかった。
- ・内容が豊富だが、動画なのでわかりやすい。



《新任自治会町内会長向けオンライン研修》

3 自治会町内会長感謝会

自治会町内会長感謝会を開催し、永年にわたり尽力された会長へ感謝状を贈呈するとともに各自治会町内会長へ、感謝の意を表しました。（令和8年3月2日）

主な増減

加入促進ツールについて啓発冊子をチラシに変更したことによる印刷製本費の減

5 地域活動の活性化事業（区民活動センター・読書活動・青少年のボランティア） 拡充	R7 予算額	R7 決算額	差引
	363 万 9 千円	323 万 9 千円	40 万円

1 区民活動センター運営事業

（1）講座・イベントの企画・運営

地域活動のきっかけづくりや地域で活動する団体同士のつながりづくりを目的に、年間を通じて様々な講座やイベント、交流会を実施しました。実施にあたり、区民利用施設や市民団体及び地域活動に関心を持つ区民と協働で企画運営に取り組むことで、地域と連携した地域活動の促進を図りました。また、幅広い世代に届けるため、区民活動センターの公式 LINE や Facebook 等を活用した情報発信を行いました。なお、「よこむすび」についても、登録団体数を増やすため区民活動センターに登録している団体への積極的な声かけや登録相談会等を行いました。

- ・地域活動のきっかけづくりや情報交換の場「交流サロン」（通年）
- ・地域活動団体のスキルアップ講座「縁（えん）ジンミーティング」（10月9日）
- ・地域活動の活動発表、交流会「つづき人(びと)交流フェスタ」（令和8年3月12日～15日）

※来場者（交流フェスタ）アンケート（自由意見）：

- ・気になる活動がみつかった。
- ・楽しかった、また参加したい。

（出展団体に対して）

- ・街をきれいにしてくれてありがたい。
- ・地域のおじいちゃん、おばあちゃんと楽しく遊べた。



《つづき人交流フェスタの様子》



《交流サロンの様子（左写真：5月実施、右写真：7月実施）》

(2) 自治会町内会支援の強化

市民活動団体やボランティア人材を自治会町内会につなげるため、情報提供や相談対応など自治会町内会支援の強化を図りました。また、「都筑スタイル」と連携し、相互の広報媒体による発信力強化や、地域で活動しているボランティアの紹介などを通じて、自治会町内会が多様な活動団体と連携できる場づくりを支援しました。

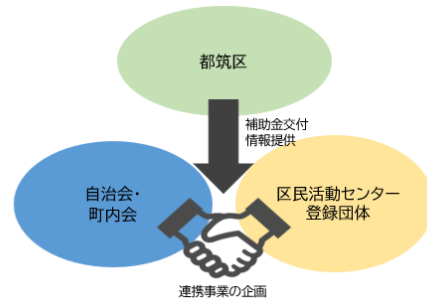
さらに、従来実施していた区民活動補助事業の内容を見直し、自治会町内会と連携・協力して実施する区民活動への補助を充実させることで、自治会町内会と市民活動団体がより結びつきやすくするきっかけづくりを支援しました。

- ・補助金申請団体数 9 団体



《補助金交付事業

(デフリンピック選手との交流)》



《補助事業の仕組み》

2 子どものボランティア体験事業【拡充】

夏休み期間を利用して、中・高校生がボランティア活動を体験し、日ごろ関わる機会が少ない年代や地域の方々と交流し、体験を通じて学ぶ「はあと de ボランティア～中高生のための夏休みボランティア体験～」及び小学校 5・6 年生向けの「はあと de ボランティアプレコース」を実施しました。

つづき MY プラザや青少年指導員が中心となり、施設や団体と連携して子どもと地域をつなぐことによって、地域で活動する大人にとっても、子どもと関わり新たな気づきの場となることを目指しました。さらに、令和 7 年度は年々拡大するニーズに対応するため、IT 等を活用した事業の効率化等を図りました。

また、同事業の発展形として、中・高校生が 1 年を通して活動し来夏の体験事業を企画する「STEP UP プログラム」(局予算事業)を支援しました。(通年)

- ・オリエンテーション (7 月 25 日～29 日)
- ・ボランティア体験 (8 月 1 日～22 日)

中高生コース… 83 プログラム (参加者 260 人)

小学 5・6 年生プレコース… 39 プログラム (参加者 84 人)

- ・振り返りと修了証授与 (8 月 23 日、9 月 8 日)

※振り返りアンケート (自由意見) :

- ・人と関わるのは大変だけど楽しいとわかった。
- ・自分から動いて積極的に楽しむことで、何かが変わりいい方向に動いていくと感じた。



《オリエンテーション》



《放課後キッズクラブでのイベント開催
(STEPUP プログラム)》



《センター南駅周辺の清掃》



《修了証授与》

3 読書活動推進事業

区民の読書活動を推進するために、都筑図書館と連携し、区内の各施設で読書をテーマにした、おはなし会、講演会及び展示会などを実施しました。なお、「つづきの本ばこ」（都筑南図書館取次所）の周知の一環として、都筑区民まつりにて「ロボットと絵本を探そう〜ぴたりえタッチ〜」を中央図書館と共同で出店しました。

- ・おでかけ図書館（通年）
- ・都筑区民まつりへの出店（11月3日）
ブース来場者数：102人
- ・つづきブックフェスタ（11月6日～8日）



《おでかけ図書館（DE&I FESTIVALの様子）》



《つづきブックフェスタ》

主な増減	都筑区民活動補助金の申請件数が当初見込みを下回ったことによる執行残
------	-----------------------------------

6 都筑区地域福祉保健計画 「つづき あい」推進事業	R7 予算額	R7 決算額	差引
	250 万 8 千円	250 万 3 千円	5 千円

1 地区別計画推進会議等への支援

第4期計画推進及び第5期計画策定に向けて、地域住民による課題共有・解決の体制を促進するため、地区別計画推進会議等の取組を支援しました。また、地域での取組に対して、「つづき あい基金」を通じて支援を行いました。

《令和7年度「つづき あい基金」》

申請期間 前期：6月2日～7月18日

後期：10月10日～11月21日

助成実績 4団体4件（広報紙やHP作成などに活用）



《地域懇談会の様子》



《完成した第5期地区別計画》

2 都筑区地域福祉保健計画推進委員会の運営

学識経験者や各種団体の代表者等 18 人の委員からなる都筑区地域福祉保健計画推進委員会を開催しました。推進委員会では第5期計画策定に向けて、第4期計画の振り返りや第5期計画の取組・評価方法等について、意見交換及び検討を行いました。



《推進委員会の様子》

《主な参加者》

- ・自治会町内会、社会福祉協議会関係者
- ・子育て、青少年育成、学校関係者
- ・障害児者支援団体等関係者
- ・多文化共生支援団体関係者
- ・地域活動者（委嘱委員含む）
- ・医療関係者
- ・大学教授 等

＜議題＞

- ・第1回（7月）：第5期計画素案（案）及び区民意見募集について
- ・第2回（8月）：第5期計画素案（修正案）について（書面開催）
- ・第3回（11月）：第5期計画最終案について

3 地域福祉保健の啓発・発信

区民まつりなどの若年層や子育て世代を含めた幅広い層が集まる場で、地域福祉保健計画の理念や地域福祉保健の活動拠点である地域ケアプラザの周知・啓発を行いました。

- ・区民まつりにおける啓発 : 11月3日
- ・広報よこはま都筑区版への記事掲載 : 12月号
- ・パネル展における啓発 : 令和8年2月18日～27日



《区民まつりにおける啓発》



《パネル展》

《広報よこはま 12月号

「地域ケアプラザを含む区民利用施設の周知」》

4 第5期地域福祉保健計画の策定

(1) 8年2月に第5期都筑区地域福祉保健計画を策定し、完成報告会を開催したほか、自治会回覧、施設配架等により区民へ広く周知を行いました。

＜第5期計画の内容 基本理念と目指す姿＞

○基本理念

誰もが安心を実感しながら 健やかに住み続けられるまち つづき♡(あい)を目指して

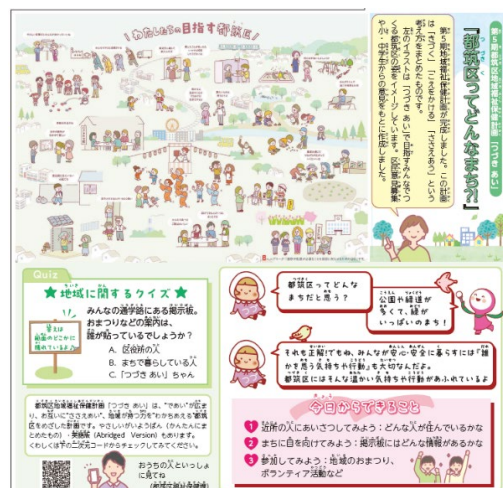
- ・目指す姿1
であいが広がり、つながる機会がたくさんある
- ・目指す姿2
ささえあい、健やかに生活できる
- ・目指す姿3
多様性が尊重され、その人らしく生活できる



《第5期区計画 本冊子》



《第5期計画 完成報告会の様子》



《地域情報誌子ども版への掲載
「地域福祉保健計画特別号」》

(2) 計画策定にあたっては、多様な意見の反映を行いました。

10月に素案の区民意見募集を行いました。素案は、より多くの区民に見て知っていただけるよう、本冊子の他、概要版、やさしい概要版、英語版の作成を行いました。いただいた意見については、第5期計画へ反映しました。



＜区民意見募集概要＞

- ・ 期間 : 10月1日～31日
- ・ 対象者: 区内在住、区内で活動しているすべての人
- ・ 意見提出方法
 - ①電子申請 (WEB 回答)
 - ②電子メール
 - ③郵便 (専用はがきまたは封書)
 - ④FAX
- ・ 意見数
80人 100件

※ 区民意見募集でいただいた意見：

(計画内容への意見)

- ・ 計画の推進主体の整理や明確さが必要。
- ・ イラストは多様な視点を取り入れてほしい。

(計画推進やその他意見)

- ・ だれでも集まれる場がたくさんほしい。
- ・ 学校以外でお友達ともっと関われる場所があるとよい。
- ・ 若い世代に向けて、SNS等を活用した情報発信や参加促進があると良い。

区民意見募集の他、多様な世代の意見反映に努めました。7月には、区内中学校において、地域福祉保健について授業を行ったのち、「身近な地域のだれかのために今(または将来の)自分にできること」「地域にあったほうがよいこと」について、グループワークを実施しました。いただいた意見については、第5期計画へ反映しました。



《授業の様子》

区内中学校の3年生（計8クラス、217人）
を対象に授業及びグループワークを実施

○テーマ：「地域福祉の視点」から
よりよい暮らしを考える

※ 中学生の意見、授業を受けた感想など：

- ・地域の人と交流するために、地域のイベントに参加してみたい。
- ・ボランティアに積極的に参加したい。
- ・年齢、性別など関係なしにどんな人でも楽しく過ごせる機会があるとよい。
- ・誰でも気軽に話せ、相談できる場がほしい。
- ・今回の授業のように中学生の意見を反映できる場があって嬉しかった。
- ・「地域」のことを考えるきっかけになった、地域の活動に参加してみようと思った。

主な増減

—

7 障害者交流啓発事業	R7 予算額	R7 決算額	差引
	101 万 7 千円	81 万 8 千円	19 万 9 千円

1 福祉農園事業

障害児・者の方が参加するさつま芋の収穫体験を実施しました（10月19日）。また、区民ホールとノースポート・モールで「障害者と地域の共生フェスタ 2025」を実施しました（12月2日～6日）。



《芋の収穫体験の様子》



《ノースポート・モールでの販売》



《農福連携関連ブース》

「障害者と地域の共生フェスタ 2025」

テーマ「“推しおし” つづき（都筑区の好きなもの、好きなところ）」

※アンケート結果：

- ・施設への理解が深まった。：43.5%
- ・テーマに共感できた。：31.8%
- ・共生社会の理解が深まった。：26.6%

※来場者の声：

- ・感性豊かで生き生きとした作品ばかりでみていて楽しかった。
- ・このような機会はとても大切だと思いますので来年も是非開催してください。



《紙皿アート》

【参考】地域で広がる共生の輪

都筑区では、障害福祉事業所の任意ネットワーク「てつなぎつづき」による地域交流を目的としたてつなぎまつりや、川和地区におけるアートイベント、自立支援協議会を中心としたグループホームとの地域交流会の実施など、区の自主事業のみならず地域の中で自発的な地域共生の輪が広がっています。



《川和艺术展》

2 障害者地域啓発事業

(1) 区民まつり福祉バザー (11月3日)

障害者と地域住民の交流のため、区民まつりに障害者団体が出店することを支援しました。

(2) 障害者グループホームの地域防災拠点防災訓練への参加支援 (9月～令和8年2月)

自立支援協議会の中でグループホームや拠点訓練の情報を共有し、基幹相談支援センター職員が訓練への付き添いを行うなど、グループホーム入居者が地域の訓練へ円滑に参加できるよう支援しました。



《区民まつり障害者団体自主製品販売》



《地域防災拠点防災訓練への参加支援の様子》

※地域防災拠点への同行支援を利用したグループホーム職員の声：

- ・一緒に参加していただきありがとうございました。
- ・職員数が限られているので助かりました。

3 障害者施設支援事業

区民ホール、駅構内等における障害者施設の自主製品の販売活動を支援しました。また、農福連携の取組を行う区内障害福祉事業所に対して、必要な物品購入費の補助を行いました。



《自主製品販売用のぼり旗》



《農家さん(左)からレクチャー(農福連携)》



《農福連携ロゴマーク》



《区民ホール B-COR i ビジョン
にて動画を放映》

※販売実績：延べ 668 回（区民ホール、各駅構内）

※農福連携実績：6 事業所から申請

※内容：農作業用空調服、麦わら帽子、草刈り機、長靴、ボードン袋、コンテナ、万能鋏、
野菜テープカッター、農福連携ロゴ入りシール、野菜販売用のぼり旗等活動に必要な
経費に対する支援

主な増減	福祉農園事業における、イベント経費（消耗品費や当日経費）の工夫による 補助金交付額の減
------	--

8 地域で支える認知症支援事業 新規	R7 予算額	R7 決算額	差引
	60 万円	55 万円 3 千円	4 万 7 千円
1 認知症 V R 体験会の開催 認知症の人の想いを知り、認知症の人とともに生きる社会を考えるきっかけとするため、錯視（※注 1）や幻視（※注 2）、空間を把握する能力の低下など認知症の症状を本人視点で体験することができるバーチャルリアリティ（VR）の技術を活用した体験会等を開催（9 月 2 日、11 月 20 日）しました。 ※注 1 目で見ているものが実際とは異なって見える症状 ※注 2 実際には存在していないものが見えてしまう症状 ・ 9 月 2 日 認知症パネル展において V R 体験ブース設置（区役所 1 階区民ホール） 参加者数 125 人 ※シールアンケート結果： ・「認知症の方の行動や気持ちについて、以前よりは理解できましたか？」では 「非常にそう思う」、「ややそう思う」：97.6% ・「今後、認知症の方と接する機会には、以前より関わっていけると感じますか？」では 「非常にそう思う」、「ややそう思う」：100% ・ 11 月 20 日 支援者向け認知症 V R 体験講座（区役所会議室） 参加者数 39 人 ※アンケート結果： ・「認知症の方の行動や気持ちについて、以前よりは 理解できましたか？」では 「非常にそう思う」、「ややそう思う」：96.6% ・「今後、認知症の方と接する機会には、以前より関わっていけると感じますか？」では 「非常にそう思う」、「ややそう思う」：93.3% ※アンケート（自由意見） ・気持ちや不安を理解できた。 ・VR 体験で、認知症の方の見え方など驚きと学びがあった。 ・これまでの考えや認識が変わった。 ・記憶障害だけでなく、見え方なども変わってしまうことを学んだ。			
主な増減	—		



《認知症 VR 体験の様子》



《認知症 VR 講座の様子》

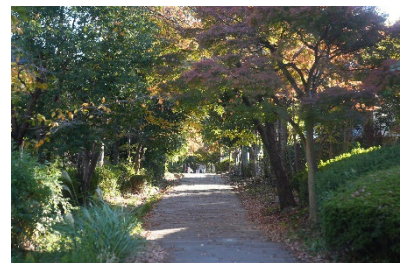
9 まちづくり総合調整事業 拡充	R7 予算額	R7 決算額	差引
	629 万 5 千円	455 万 4 千円	174 万 1 千円

1 まちづくり・企画調整【拡充】

(1) まちづくり調整

都市計画マスタープラン都筑区プラン^(※参考参照)の改定に向けて、他都市や他のニュータウンの状況との比較検討等から都筑区の現状を把握し、区別計画の素案作成に向けて、都筑区の将来像やまちづくりの方針等の検討に着手しました。

また、緑道の魅力アップを目的とした緑道等の土地の利活用のための民間事業者との対話に向けて、土地の要件や課題の整理を行いました。



《緑道（せきれいのみち）》

(2) 区内大学との連携

区内に所在する東京都市大学及びビューティ&ウェルネス専門職大学と、会議等の開催を通して、地域課題の解決に向けた連携を強化しました。

東京都市大学と意見交換会（地域連携協力会議）を行い、地域課題を解決するための連携につなげました。（5月30日）



《東京都市大学・地域連携協力会議の様子》

(3) 区内企業・区内大型商業施設との連携

区内企業による公立小・中学校出前講座（つづき博士倶楽部^{※1}）を行いました。

また、令和6年度に連携協定を締結した東急不動産株式会社、東急不動産 SC マネジメント株式会社をはじめ、区内の大型商業施設を運営する企業と連携し、商業施設を活用したイベントの開催や広報を行うことで、効果的な情報発信を行いました。

- ・のすば学校における地産地消の啓発及び推進^{※2}
（9月7日：ノースポート・モール）



《区内大型商業施設との連携（のすば学校）》

※1 つづき博士倶楽部とは

都筑区に立地する企業・事業所が、専門分野を生かした講座を都筑区内の公立小中学校へ出向いて講義するもの

（協力企業・事業所数：小学校9社、中学校8社
実施校数：小学校4校、中学校1校）

※2 のすぽ学校とは

ノースポート・モールにおいて、“学校では体験できない・学べない”をテーマに、多様な体験・学びの機会をこどもに提供するイベント

【参考】都市計画マスタープラン 都筑区プランの改定状況について

- ・都市計画マスタープラン 都筑区プランは、概ね20年後を見据えた、まちづくりの目標や土地利用の指針となるものです。都市計画に関する方針や情報等をまとめ、区民の皆様にお知らせする役割等もあります。
- ・全市プランである「横浜市都市計画マスタープラン全体構想」が令和7年5月に改定されたことを受け、地域別構想（区プラン）を都市整備局と区で連携しながら改定します。なお、改定後の地域別構想は、エリア別方針（都市整備局が主体）と区別計画（区が主体）により構成されます。
- ・エリア別方針については、都市整備局が都筑区と連携して地域の意見をお聴きした上で、素案の作成を進めます。

主な増減

都筑区プランの改定の検討について、入札残による委託費の減

10 広報・広聴事業 拡充	R7 予算額	R7 決算額	差引
	260 万 4 千円	248 万 7 千円	11 万 7 千円

1 情報発信事業【拡充】

(1) インターネットを活用した広報

区ウェブページや SNS (X、LINE) を活用し、区政情報や各種イベント情報の発信、広報よこはま都筑区版のオープンデータの提供などを行いました。

(2) PR ボックスを活用した広報

毎月 1 日、都筑区内全駅及びボッシュ ホールにある PR ボックスの見開き掲示板に広報紙の最新号を掲示するほか、毎月 15 日に広報印刷物の補充（計 46 か所）を行い、イベントやお知らせ等を周知しました。

また、利用者の多い駅の PR ボックス（計 2 か所）については、全体を横浜グリーンエクスポデザインにリニューアルし、PR ボックスの改善を行いました。



《センター南駅 PR ボックス》



《センター北駅の PR ボックス背面》

(3) 都筑の魅力発信

SNS、区ウェブページ、デジタルサイネージや「B-COR i ビジョン」を活用して写真や動画で都筑区の魅力を広く発信しました。

また、区のマスコットキャラクター「つづき あい」のイラストを新たに作成し（11 月）、チラシや広報よこはま都筑区版で活用しました。



《新規イラスト活用例》

(4) 広報研修の実施

区民へ向けて必要な情報をより伝わる形で発信できるよう、自治体広報に詳しい外部講師を招き区職員向けに広報マインドの向上・広報のスキルアップを目的とした研修を実施しました（9月24日：44人参加）。

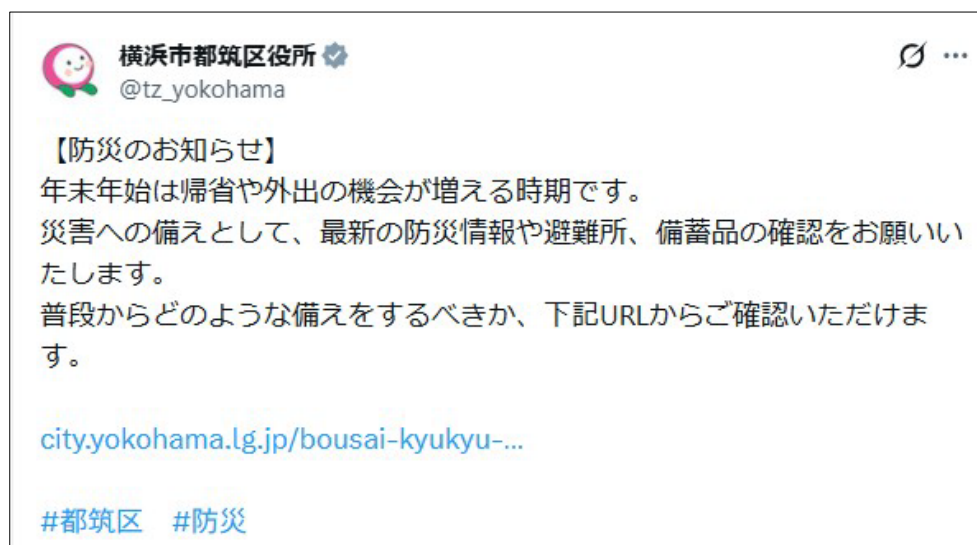
(5) 広報アンケートの実施

区民のニーズを把握し、効果的な広報を行うため、区の広報に関するアンケートを実施しました（7月1日～31日）。広報満足度に対して、「やや不満」、「不満」を選択した理由の一つである「知りたい情報が少ない」とのご意見を受け、区民の皆様の要望が高い防災情報のXでの発信など、広報の改善につなげました。また、都筑区の地域資源を活用した景品を用意することで、地域の魅力の認知度向上にもつなげました。

※広報アンケートの結果：

「満足」、「やや満足」と答えた方の割合：

- ・広報よこはま都筑区版：89%
- ・LINE：84%
- ・X：93%



《X 投稿画面》

2 広聴事業

各種広聴制度を活用し、区民の方や区内で活動する団体等の方から様々な意見を伺うことで、地域における課題やニーズの把握に努めました。

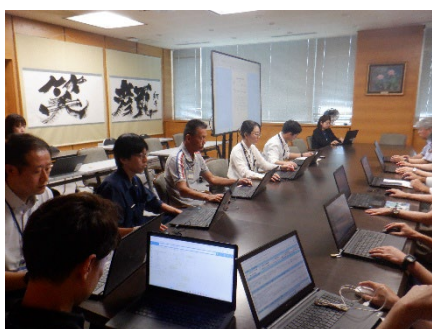
また、デジタルプラットフォームによる区民意見募集を行い、32人の区民の方から合計52件のご意見・アイデアをいただきました（実施期間：6月11日～7月10日）。

主な増減	データ活用をすることで、印刷枚数が減少したことによる消耗品費の減
------	----------------------------------

11 スムーズ区役所事業	R7 予算額	R7 決算額	差引
	1,223 万 8 千円	1,322 万 5 千円	△98 万 7 千円

1 デジタル環境推進事業

横浜 DX 戦略を踏まえ、区民サービス向上や区役所業務の効率化につながるペーパーレス化や区役所業務において AI 活用を進めるため、関係書籍を購入しました。また、会計年度任用職員の勤怠管理システムの試行実施に継続して取り組みました。さらに、区庁舎 1 階区民ホールに設置した「B-COR i ビジョン」を横浜グリーンエキスポや防災アプリ、農福連携事業等の広報に活用しました。



《会議室での会議の様子》



《AI 関係参考文献》



《「B-COR i ビジョン」の様子》

2 区庁舎環境改善

区民の皆様や職員が快適に利用できるよう、区庁舎の環境改善や整備を行いました。

具体的には女性用トイレの温水洗浄便座の整備を行い、このことで、区庁舎の全てのトイレにおいて温水洗浄便座の整備が完了しました。また、6階多目的スペースの環境改善を行いました。

なお、長年の課題となっていた土木事務所の女性職員用のシャワー室の整備を含む土木事務所休憩室の整備を市民局が中心となって行いました。



《多目的スペースに設置したソファ》

3 来庁者サービスアップ事業【拡充】

来庁者が利用しやすい窓口になるよう、こども家庭支援課に窓口案内員を配置するとともに（配置時間：8時45分～17時）、待ち時間にお子様と過ごせる場所を提供しました。また、窓口発券システムを導入することで、呼出通知機能や一部手続における事前WEB発券機能を追加し、区民の利便性向上につながりました。（令和8年2月）。

※区民の声：

- ・事前WEB発券を利用出来て便利になった。
- ・WEB混雑システムで、待ち時間の見通しがわかるようになった。



《お子様と過ごせるつづきっ子ランド》 《窓口発券機の様子・スマホで確認できる画面例》

4 人権啓発講演会

人権意識の向上を目的として、区民の皆様及び職員を対象とした人権啓発講演会を実施しました（８年２月１７日 都筑公会堂）。（参加者：３７２人）



《人権啓発講演会の様子》

講師：パッケンマッケン（吉田 眞氏、パトリック・ハーラン氏）

テーマ：パッケンマッケンと考える これからの多文化共生

※参加者アンケート（人権啓発講演会）結果：

- ・「とてもよかった」、「よかった」と回答：９６％

※アンケート（自由意見）：

- ・日本で外国人に会った時に、日本語で話しかけた方が良いというのは目から鱗でした。
- ・コミュニケーションの取り方をはじめ、異文化交流のいろはを学んだ、わかりやすく楽しい講演会でした。
- ・素晴らしい講演でした。コミュニケーションを取ろうとする人に勇気を与えるものでした。
- ・英語を教えていた者にとっても、新たな発見のあるものでした。

主な増減	区庁舎環境改善について、女性用トイレ温水洗浄便座設置による委託料の増
------	------------------------------------

施策2 誰もが安全・安心に暮らせるまち

	R7 予算額	R7 決算額	差引
12 危機管理対策推進事業	954 万 7 千円	983 万 5 千円	△28 万 8 千円

1 関係機関と連携した災害対応力の向上

(1) 「災害対策連絡協議会」や「帰宅困難者対策部会」を開催し、警察署等の関係機関・団体と情報共有や意見交換を行いました。

- ・災害対策連絡協議会（6月11日）
- ・帰宅困難者対策部会（令和8年1月19日）

(2) 災害医療に関する各種会議を開催し、区医師会等の関係機関・団体と、発災時の医療体制に関する情報共有や意見交換を行いました。

(3) 区医師会等と実施する災害医療対策訓練及び交通事業者や帰宅困難者一時滞在施設等と実施する帰宅困難者対策訓練等を通じて、関係機関・団体との連携強化を図りました。また、関係機関・団体の参加を得て多数遺体取扱訓練を実施しました。

- ・「診療中」の黄旗掲出訓練（9月5日、8年1月19日～21日、8年3月11日～13日）

参加機関：都筑区医師会、都筑区薬剤師会、昭和医科大学横浜市北部病院、つづき病院、山本記念病院、その他区内医療機関・薬局、都筑区役所

- ・市民医学講演会（8年1月17日）

主催：都筑区医師会 共催：都筑区三師会、都筑区役所

- ・仮設救護所運営訓練（8年3月7日）

参加機関：都筑区医師会、都筑区薬剤師会、都筑区歯科医師会、都筑区訪問看護連絡会、つづき病院、Yナース、都筑区役所

- ・多数遺体取扱訓練（12月11日）

参加機関：都筑区役所、横浜市医師会、都筑区医師会、都筑区歯科医師会、鶴見大学、神奈川県警察、海上保安庁、神奈川県、葬祭事業者など

- ・帰宅困難者対策訓練（8年2月18日）

参加機関：帰宅困難者一時滞在施設（15施設）、交通機関（3機関）、都筑警察署、都筑消防署、都筑区役所



《都筑区災害対策連絡協議会》



《帰宅困難者対策訓練》



《黄旗掲出訓練》



《区災害対策本部運営訓練》

(4) 区災害対策本部の運営のため、通信機能の確保や資機材の補充を行いました。また、区災害対策本部運営訓練（9月26日）を実施することで、区職員の災害対応能力の向上を図りました。



《ポータブル電源》



《温風機》

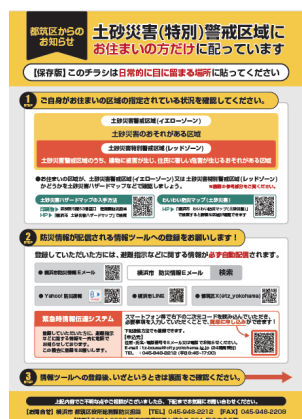
2 災害時における情報発信

災害発生時や災害発生が見込まれる際、区独自に設置の防災用スピーカーを活用し、河川沿いの住民に情報発信する他、緊急時情報伝達システムを活用し、区内の自治会・町内会長等へ避難情報等を一齐に電話で受伝達するシステムを引き続き運用しました。

- ・緊急時情報伝達システム受伝達訓練（6月6日）
- ・防災用スピーカーの試験放送（6月7日）

3 風水害対策の取組 【拡充】

(1) 土砂災害警戒区域及び特別警戒区域の世帯の方が、主体的に避難行動等をとることができるよう、居住区域の指定状況の確認方法、避難情報等が自動配信されるアプリやSNS、緊急時情報伝達システムへの登録勧奨などを記載した啓発チラシを対象世帯に全戸配付しました。（配付部数 2,711 部）



《啓発チラシ・表面》



《啓発チラシ・裏面》

(2) 土砂災害警戒情報発表時に避難指示が発令された区域以外の方が自主避難できるよう区役所を避難場所として開設します。また、区役所にコット（簡易ベッドの一種）20 台、簡易テント 10 張、冷風扇 2 台などを出水期（梅雨や台風など雨が多い時期：6 月から 10 月）に配備し、避難場所の環境を整備しました。



《冷風扇》



《コット》



《簡易テント》

(3) 土砂災害警戒区域及び特別警戒区域のがけ地を所有の方が、当該がけ地やよう壁等の不安・問題点について地盤の専門家に相談する事ができるがけ地相談会を 11 月 28 日、29 日に開催しました。（7 組 8 人参加）

※アンケート結果：

・「満足」と回答：相談者すべて

※アンケート（自由意見）

- ・地盤や規制などの認識が深まった。
- ・今後の対策の参考になった。



《がけ地相談会》

主な増減	区本部の災害対応力強化について、ポータブル電源を購入したことによる備品購入費の増
------	--

13 災害にそなえる自助・共助の推進事業 拡充	R7 予算額	R7 決算額	差引
	574 万 4 千円	731 万 7 千円	△157 万 3 千円

1 地域防災拠点の運営支援

地域防災拠点運営委員を対象として、地域防災拠点の開設・運営などに関する研修会（3回：6月、7月、10月）を開催するとともに、地域防災拠点における訓練を支援しました。また、地震防災戦略も踏まえ、女性の視点から安心安全な避難所生活を送るための備品（センサーライト・防犯ブザー（各8個））の配置を推進しました（11月）。（令和6年度はプライバシーテントを配備）

・都筑区地域防災拠点運営委員会連絡協議会（5月26日）

・地域防災拠点運営委員研修会

第1回 6月14日（出席者15人）（初任者向け研修）

第2回 7月6日（出席者22人）（訓練企画担当者向け研修）

第3回 10月5日（出席者22人）（災害ボランティアセンター連携訓練）



《運営委員研修会の様子》



《センサーライト》



《防犯ブザー》



《プライバシーテント》

2 自治会町内会等向け出前講座、防災・減災講演会の開催

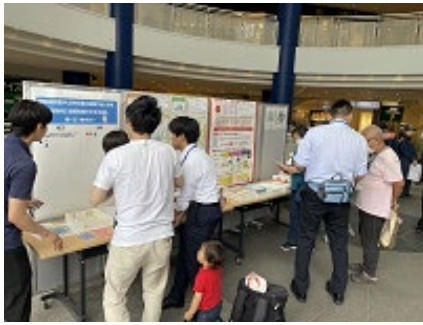
自治会町内会・小中学校等を対象とした出前講座（23回 773人）や区民向け防災・減災講演会（令和8年2月25日）を開催するとともに、商業施設での啓発イベントや地域情報誌を通じて、大規模地震や風水害への備えなどの知識の向上や防災・減災に関する意識啓発を図りました。（350人参加）



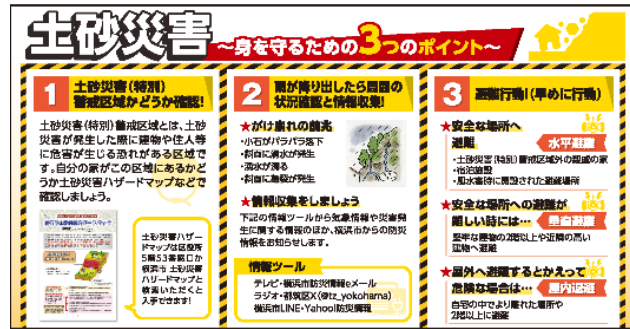
《防災・減災出前講座》



《都筑区防災・減災講演会 講師 依田司氏》
（テーマ 異常気象と向き合う）



《商業施設でのイベント》



《地域情報誌記事（6月掲載記事）》

3 防災マップの多言語化

災害に対する避難行動や事前の備えについて、外国人の方々の知識・理解の促進を図るため、都筑区防災マップの多言語化を進めました。6年度までに多言語対応した英語、中国語、韓国語、ベトナム語及びやさしい日本語に続いて、ドイツ語への翻訳を行いました。

なお、ドイツ語への翻訳は18区中初めてになります。（6か国語翻訳18区中2番目に多い）

4 災害時要援護者支援事業（つづき そなえ事業）

災害時要援護者支援に関する地域が取組が進むよう、希望する地域に行政が保有する災害時要援護者名簿の提供を行うほか、補助金の交付、取組の必要性の啓発や事例の紹介など、各地域の実情に合わせた支援を行いました。

・補助金の申請地区：13 地区、行政名簿の提供先：3 連合 3 自治会



《取組啓発のための冊子》



《地域が実施する意見交換会の様子》



《要援護者グッズ》

5 災害時の健康維持啓発事業【拡充】

健康づくりの観点から災害の備えを促すため作成した「食の備蓄」「口腔ケア」「衛生対策」に関する冊子「災害時にも役立つBOOK」の活用を地域防災関係者に促すとともに、保健活動推進員や食生活等改善推進員等と連携して啓発を行いました。

また、日本語を母語としない外国人や障害のある方にも情報を伝えるため、「災害時にも役立つBOOK」の一部内容を編集し、やさしい日本語で表現した「わかりやすい版 災害のときに見るリーフレット」を新たに発行しました。また、区内の障害福祉サービス事業所等(273施設)に配付しました(10月)。

※区障害者自立支援協議会からの声：

- ・これまでこのような視点で作成した区は他にはなかった。ぜひ対象者に周知したい。



《防災・救急フェアでの啓発》

6 災害時のペット対策事業

災害時のペット避難について、飼い主一人ひとりが適した方法を自ら考えられるよう、日頃からの備えに関する動画を配信するとともに、ペット用災害時持ち出しグッズ等の展示を行うなど、あらゆる機会をとらえて啓発を進めました。

また、地域防災拠点においてペット同行避難の受入れ体制が進むよう、防災備蓄庫にあるペット避難所開設キット（受付物品等）を活用した各拠点の取組を支援しました（15 拠点）。

- ・ペット防災対策セミナー：9月23日、区役所6階大会議室（27人参加）

※アンケート（自由意見）：

- ・避難する際の流れを知ることができた。
- ・まず飼い主同士が協力する関係を作る必要があると感じました。



《ペット避難所開設キット》



《ペット避難所開設キットの内容
（手順書、様式、文具、シート他）》



《ペット災害対策啓発》

主な増減	地域防災拠点の暑さ対策のため、スポットクーラー10台を追加導入したことによる備品購入費の増
-------------	--

14 安全・安心なまちづくり事業 拡充	R7 予算額	R7 決算額	差引
	741 万 8 千円	706 万	35 万 8 千円

1 交通安全運動【拡充】

都筑区交通安全対策協議会を中心に、都筑警察署等関係機関・団体と連携しながら交通安全運動の街頭キャンペーンや交通安全教室を実施しました。さらに、日々の交通安全運動に貢献された皆様を顕彰しました。

また、子どもたちの安全・安心のため、学校や警察と連携し、スクールゾーン標示の整備や交通安全啓発等を実施し、各小学校のスクールゾーン・防犯対策協議会の支援を行いました。加えて、交通安全協会と連携し、新小学1年生ヘランドセルカバーを贈呈しました。

- ・交通安全運動：緑道での自転車マナーアップ他10回実施。
- ・はまっ子交通あんぜん教室：9校実施。
- ・スクールゾーン・防犯対策協議会：24校（区内22校＋区外2校）で開催
- ・地域情報誌や広報よこはま（7月号、11月号、令和8年3月号に掲載）にて、自転車で事故に遭わない・起こさないための交通事故防止の啓発を実施
- ・新小学1年生ヘランドセルカバーを贈呈（8年3月9日）



《緑道での自転車マナーアップ啓発活動》



《はまっ子交通あんぜん教室》

2 放置自転車対策事業

駅周辺で啓発チラシ等を配布し、放置自転車防止等呼びかける放置自転車クリーンキャンペーンを行いました（10月2日）。



《放置自転車クリーンキャンペーン》

3 地域防犯活動推進事業【拡充】

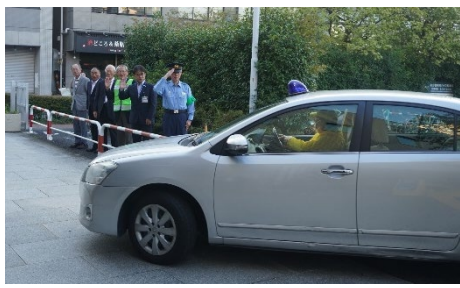
地域防犯活動を行う自治会町内会及び地域の自主防犯のための青色回転灯パトロール隊に対し助成金を交付しました。加えて、これまで自治会町内会等で防犯活動に取り組まれている方を主な対象としていた研修会を拡充し、近年のいわゆる「闇バイト」のような社

会的影響の大きな事件に対し、犯罪被害に合わないための具体的で分かりやすい防犯対策を学ぶことができる区民向け講演会を、都筑警察署や都筑防犯協会等と連携して実施しました。

また、都筑区防犯情報メーリングリストの発信（原則週1回、登録者数約2,500人）や、広報よこはまでの防犯啓発コラムの掲載（5、9、8年1月号）を行いました。



《防犯活動のための研修会の様子》



《青色防犯パトロール隊出陣式の様子》



《防犯メーリング
リスト登録サイト》

◇区民向け講演会実施内容（高齢者世帯向け防犯講座）

（1）日時・場所：8年2月12日 ボッシュ ホール

（2）一般参加者：145人

（3）講師

梅本 正行 氏（一般社団法人 日本防犯学校会長）

桜井 礼子 氏（一般社団法人 日本防犯学校学長）



《区民向け講演会の様子》

※高齢者世帯向け防犯講座アンケート結果：

- ・参加年齢：70歳代以上 約65%
- ・講座の情報入手方法：自治会町内会掲示板など紙媒体 約53%
HP等電子媒体 約6%
- ・「とてもよかった」「よかった」：96.9%
- ・関心のあるテーマは：詐欺被害防止（特殊詐欺など）52.8%
自宅の防犯対策 47.2%
SNS・ネットトラブル対策 37.1%

主な増減	スクールゾーンの電柱巻「文」マークの更新数が当初見込みより少なかったことによる残
------	--

施策3 活力とにぎわい、魅力あふれるまち

15 スポーツチーム等との連携による地域貢献推進事業 **拡充**

R7 予算額

R7 決算額

差引

40 万円

39 万 9 千円

1 千円

1 横浜ビー・コルセアーズホームタウン広報

「都筑区応援 Day」や「パネル展」等の地域貢献活動を通じて、スポーツ振興や街の賑わい創出等を進めました。



《応援 Day の様子》



《パネル展の実施》



《シーズン終了報告会》



《センター南駅前柱装飾》

2 都筑区と関わりの深いスポーツチーム等との連携事業

都筑区と関わりの深いスポーツチームによるスポーツ体験イベントや講演会等の地域貢献事業での連携を図り、区民がスポーツに触れる機会の更なる拡大や賑わいの創出、ウェルビーイングの向上を図りました。



《横浜 F・マリノス連携「都筑区はじめてのサッカー体験会」(令和8年2月7日) 参加者 30 人》

主な増減

—

16 文化とスポーツであふれるまちづくり 推進事業 新規	R7 予算額	R7 決算額	差引
	355 万 2 千円	345 万 5 千円	9 万 7 千円

1 つづきユースフェスティバル

地域で活動する青少年が主役となり吹奏楽やダンス等の文化活動を区民に向けて披露する第3回「つづきユースフェスティバル」を開催することで、青少年の自己表現機会の創出を図りました。

実施日：11月23日（ボッシュ ホール）

出演団体：11団体

出演者数：約400人

来場者数：約1,020人



《第3回つづきユースフェスティバルの様子》

2 都筑区民文化祭事業

区民及び区内活動団体が自主的に運営する「第30回都筑区民文化祭」の開催を支援し、区民が広く文化に親しむ機会を創出しました。

実施日：令和8年1月24日～2月8日間の土日実施

実施場所：ボッシュ ホール



《都筑区民文化祭 30 周年記念特別企画》

3 伝統芸能事業

地域や古来から伝わる伝統芸能・伝統文化を次世代へ継承するため、区内の伝統芸能関連団体の方々とともに普及活動を検討・実施しました。令和7年度は、区内で活動されている団体の調査を行うとともに、指定管理者等とも連携してボッシュ ホール等で関連イベントを開催し、子どもを中心として区民が広く伝統芸能等に親しむ機会を創出しました。

- ・ 伝統芸能（和太鼓・祭囃子・三曲・乙女文楽）体験イベント

実施日：8月9日

※参加者向けアンケート結果：

- ・「今回のイベントに参加し、伝統芸能・文化への興味関心についてどのような変化がありましたか。」 興味関心が高まった・興味関心がやや高まった：約95%

※アンケート（自由意見）：

- ・ 学校では使い方などを教えたりしてくれないから良い経験になった。
- ・ こどもが伝統芸能にふれる機会がほとんどなく、鑑賞するのもし子連れは行きにくいので、とても良い体験になった。



《伝統芸能体験イベントの様子》

- ・ 都筑区の伝統芸能・文化に関する活動団体の実態調査

実施期間：8年1月21日～2月27日

総回答数：127件

4 都筑スポーツ・文化賞事業

スポーツ・文化の分野においてめざましい活躍、顕著な功績のあった都筑区にゆかりのある方々を表彰し、さらなる活躍を期待するとともに、スポーツ・文化活動への関心を高めました。

実施日：「令和8年 都筑区新年賀詞交換会」と同日開催（8年1月6日）



《表彰式の様子》

5 スポーツ協会活動補助事業

各種スポーツ大会や講習会を開催する都筑区スポーツ協会に対し補助を行い、スポーツ、レクリエーション活動を振興し、区民の健康増進と相互の親睦を図りました。

6 都筑区グラウンドゴルフ大会

都筑区スポーツ推進委員連絡協議会主催の都筑区グラウンドゴルフ大会の開催により、地域間交流の促進や区民の健康増進、スポーツ振興を図りました。

実施日：11月30日



《都筑区グラウンドゴルフ大会の様子》

なお、ボッシュ ホールのネーミングライツの財源を活用し、SKO（ドイツのシュツットガルト室内管弦楽団）コンサートの開催をはじめ、和楽器体験ワークショップや都筑 DREAM & Culture FESTIVAL 2026 の充実など、ボッシュ ホールを中心とした文化振興と賑わいを創出しました。

・シュツットガルト室内管弦楽団のコンサート

※参加者アンケート結果：

・「今回の公演はいかがでしたか。」

【昼公演（親子コンサート）】大いに満足・満足：約 100%

【夜公演】大いに満足・満足：約 99%

※アンケート（自由意見）：

【昼公演（親子コンサート）】

- ・小さな子どもと一緒に参加できるコンサートは少なく大変ありがたい。
- ・子どもたちが音楽や楽器に興味を持つきっかけになった。

【夜公演】

- ・身近な場所で本格的なコンサートを聴くことができてうれしかった。
- ・演奏はもちろん、ホールの響きも素晴らしかったです。



《SKO コンサートの様子（11 月 26 日）》

主な増減	—
------	---

17 都筑区民まつり支援・地域の賑わいづくり事業	R7 予算額	R7 決算額	差引
	420 万円	419 万 3 千円	7 千円

1 都筑区民まつり支援事業

区民の皆様には地域に対する愛着やふるさと意識を醸成していただけるよう、都筑区ふるさとづくり委員会とともに、「第 31 回都筑区民まつり」を 11 月 3 日（月・祝）に都筑区総合庁舎及びセンター南駅周辺で開催しました。

※区民まつりアンケート結果（抜粋）：回答者数 102 名

- ・全体の満足度 とてもよかった。よかった。：約 91%
- ・回答者年代 10～30 代：34 人、40 代：30 人、50 代：16 人、60 代以上：22 人



《第 31 回都筑区民まつり》

2 商店街の魅力発信事業

都筑区商店街連合会と連携し、イベント支援に加え、地域や商店街の夏祭り等で配布するうちわや商店街 PR カードを作成・活用することで、商店街の魅力発信と認知度向上に取り組みました。これにより、地域の居場所である商店街の賑わいづくりを支援しました。



《仲町台・中川 乾杯フェスタ
（7 月 15・16 日実施）》



《区連会と連携して
製作した商店街 PR
うちわ》



《商店街 PR 用カード》

主な増減	—
------	---

18 多様性にあふれるまちづくり推進事業 (DEI 推進事業)	R7 予算額	R7 決算額	差引
	590 万 9 千円	580 万 8 千円	10 万 1 千円

1 在住外国人支援・国際交流事業

言語の壁が原因で学習に課題を抱える子どもたちに対し、学校と連携した学習支援及び相談の居場所を提供しました。また、学習支援だけでなく日頃の学習成果を発表する機会を作りました。

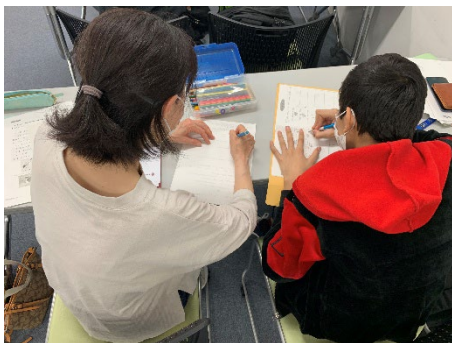
子育て支援センターポプラやNPO 団体に加えて、令和6年度に協定を締結したノースポート・モールとも連携し、DEI*の考えを区民に広く周知するため、多様な人が、公平な機会のもと、ともに楽しめる「DE&I FESTIVAL」を開催しました。さらに、7年度から外国人に対する防災啓発に向けた取組を本格的に実施しました。

8月に横浜にて第9回アフリカ開発会議が開催されたことから、アフリカとの次世代の交流に対する気運の高まりに乗じて、ボツワナ共和国との交流を継続し、子どもたちの多文化理解及びグローバル教育の推進を図りました。

※DEI：Diversity（多様性）、Equity（公平性）、Inclusion（包括性）の3つを合わせた言葉です。国籍や障害の有無にかかわらず、多様な人が、公平な機会のもと、違いを尊重しあい、力を発揮できる環境を実現するという概念です。

【在住外国人支援】

- ・外国につながる子どものための教育相談、日本語教室、学習補習教室（通年）
- ・日本語ボランティア連絡会の実施（月1回）、養成講座の実施



《外国につながる子どもの
学習支援の様子》



《日本語学習発表会の様子》

【都筑・ボツワナ交流事業】

- ・茅ヶ崎小学校3年生児童に向けたボツワナ国際理解教室（6月20日）
- ・ボツワナ共和国のベン・テマ小学校児童画アーカイブ展
（6月～7月：ボッシュ ホール、区内地区センター、コミュニティハウス）
- ・TICAD9テーマ別イベントでの展示（8月20日～22日：パシフィコ横浜）
- ・都筑・ボツワナ交流児童画展
（12月18日～25日：区民ホール、令和8年2月28日～3月29日：JICA横浜）

※来場者アンケート：

- ・ ボツワナのこどもたち生活の様子が分かって面白いです。
- ・ 都筑とボツワナがこどもたちの絵によって交流が深まるとよいと思います。



《 駐日ボツワナ大使館による国際理解教室の様子 》



《 ベン・テマ小学校児童画アーカイブ展の様子（ボッシュ ホール） 》



《 TICADテーマ別イベントの様子（パシフィコ横浜） 》



《 第12回都筑・ボツワナ交流児童画展の様子（区民ホール） 》

【多文化共生事業】

- ・外国人向け防災講座（9月14日）
- ・DE&I FESTIVALの開催（10月5日）



《DE&I FESTIVAL の様子》



《外国人向け防災講座の様子》

2 都筑・ドイツ交流イベント事業

在住ドイツ人の多い都筑区で日独の相互理解・交流の促進及び多文化共生社会の推進を目的に、地元商業振興会や自治会町内会、東京横浜独逸学園、ドイツ企業等と連携し、センター北駅前の芝生広場を会場に「ドイツクリスマスマーケット in 都筑 2025」を開催しました。（12月6日、7日開催）



《ドイツクリスマスマーケット in 都筑 2025》

3 都筑DEIスポーツ事業

多くの人が親しみを持ちやすいスポーツを通じて、地域全体の DEI への理解を推進しました。地域で開催する行事やスポーツイベント等において、どなたでも参加できるスポーツ種目があることを目指しました。7年度は、地域でのスポーツイベント等において中心的に活躍している青少年指導員、スポーツ推進委員、陸上競技協会等を対象に研修を実施し、インクルーシブに関する理解を深めました。また、障害児・者や外国につながる方々が共にダイバーシティスポーツを体験できる場を創出することで、多様な参加者が公平にスポーツを楽しむための手法について学びを深めました。

- ・インクルーシブなまちづくり講演会：9月2日、ボッシュ ホール
- ・都筑 DREAM & Culture FESTIVAL 2026 プラッツの部（ダイバーシティスポーツ体験エリア）
：8年3月15日、ボッシュ ホール



《都筑 DREAM & Culture FESTIVAL 2026 プラッツの部
(ダイバーシティスポーツ体験エリア)》

主な増減

都筑多文化・青少年交流プラザの施設管理に必要な経費における執行残

19 メイドインつづき推進事業	R7 予算額	R7 決算額	差引
	380 万円	290 万 1 千円	89 万 9 千円

1 メイドインつづき PR イベント

「環境にやさしいまち推進事業」と連携し、「メイドインつづき（中小製造業支援、地産地消の推進）」の PR 及びプラ資源分別拡大をはじめとする身近な行動変容を促すことにより、横浜グリーンエキスポで目指すサステナブルなグリーン社会の実現に向けた意識・行動変容の啓発を目的としたイベント「eco チャレ 2025〜知って・学んで・続けよう、環境にやさしいこと〜」を都筑区役所、都筑中央公園及び港北 TOKYU S.C. で開催しました。（11 月 29 日：参加者約 800 人）

参加者からは、「普段できないような体験ができた」といった声があり、メイドインつづき参加企業が行う地域貢献活動や環境への取組についての PR を行いました。



《eco チャレ 2025 の様子》

2 中小製造業支援

（1）販路開拓・企業間連携支援

県下最大級の工業技術見本市「テクニカルショウヨコハマ 2026」（令和 8 年 2 月 4 日～6 日）に「メイドインつづき」ブースを出展し、参加企業の技術・製品を PR しました（3 日間合計 18,032 人（昨年度比 430 人増））。

フリースペースの出展については、展示方法の工夫により「メイドインつづき」の効果的な PR を行うことで、参加企業に行ったアンケートでは約半数の企業から「商談につながった」との回答がありました。

また、参加企業の販促・広報用ツールを作成、展示会や各種催事で活用することで、販路開拓や人材確保の支援につなげました。



《テクニカルショウヨコハマ 2026 の様子》

(2) 地域貢献活動支援

都筑区役所での小学生向け廃材配布イベントの開催や、区内商業施設でのイベント及び区内大学文化祭への出展など、メイドインつづき参加企業の地域貢献活動について、企業紹介冊子等を使用した広報支援等を行いました。

- ・廃材配布イベント（8月4日：都筑区役所）（参加者約150人）
- ・東京都市大学横浜祭（9月14日、15日：同大学横浜キャンパス）（参加者約200組）

※参加者（小学生向け廃材配布イベント）の声：

- ・店舗ではなかなか購入できないような材料が多く、楽しむことができた。



《廃材配布イベントの様子》



《東京都市大学横浜祭の様子》

3 地産地消の推進

市内有数の農地面積、農家戸数を誇る都筑区ならではの特徴を生かし、「新鮮な野菜が手に入りやすいまち」を目指すことにより、区民一人ひとりのウェルビーイングにつなげました。

7年度は、都筑野菜朝市（概ね月4回）の開催のほか、小中学校と連携した地産地消の啓発などに取り組み、都市空間と農環境が共生する都筑区の魅力の再発見につなげました。

また、JA 横浜・区内商業施設との連携により、規格外野菜の販売等のSDGsに寄与するマルシェイベントを開催し、都筑野菜を含む新鮮な野菜を手に入れる機会の拡大を図りました。（9月7日@ノース・ポートモール、11月9日@港北 TOKYU S.C.、11月29日@都筑区庁舎）

さらに、関係者へのヒアリングやアンケート調査を行い、生活動線上における都筑野菜との接点の少なさ、畑や田んぼが身近にあることでリラックスできる、地域を応援したくなるなどの意見がありました。

これらを踏まえ、都筑区の「農」の魅力を区内外へ広く発信するための効果的な広報手法等の検討につなげました。



《マルシェイベントの様子》



《規格外野菜の販売》

主な増減

地産地消の推進における、啓発方法の見直しによる減

施策 4 花と緑にあふれ、豊かな環境を育むまち

20 環境にやさしいまち推進事業 拡充	R7 予算額	R7 決算額	差引
	171 万 5 千円	165 万 9 千円	5 万 6 千円

1 脱炭素化の推進

メイドインつづき推進事業と連携し、プラ資源分別拡大をはじめとする身近な行動変容を促すことにより、横浜グリーンエキスポで目指すサステナブルなグリーン社会の実現に向けた意識・行動変容の啓発及び「メイドインつづき（中小製造業支援、地産地消の推進）」のPRを目的としたイベント「eco チャレ 2025～知って・学んで・続けよう、環境にやさしいこと～」を都筑区役所、都筑中央公園及び港北 TOKYU S.C. で開催し、自宅でも脱炭素行動を続けてもらうきっかけを創出しました。（11月29日開催・参加者数：約800人・※1）

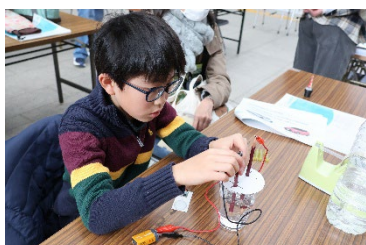
また、区庁舎に設置されている、窓際でつる性の植物をカーテンのように育て日光を遮る緑のカーテンの維持管理を行うとともに、区内市立小中学校（7校・※2）を対象に緑のカーテンの設置支援を行いました（～8月）。

※1 eco チャレ 2025 アンケート（参加者対象）結果：

・「イベントを通じて新たに実践しようと思った」と回答：100%

※2 緑のカーテンアンケート（実施校の子どもを対象）結果：

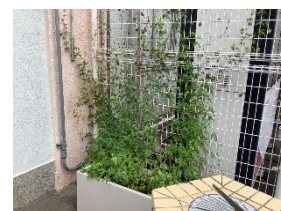
・緑のカーテンづくりについて、「とても楽しかった」「楽しかった」と回答：約95%



《eco チャレ 2025 の様子》



《山田小学校での様子》



2 クリーン推進事業

きれいな街を推進するため、自治会町内会等が実施する地域清掃の支援、農業専用地区等の不法投棄防止対策の支援を行いました。



《東京都市大学の学生との清掃活動》



《農業専用地区一斉清掃》

3 3R推進事業【拡充】

つづき3R週間イベント（6月21日・11月29日）をはじめとする各種イベントや、赤ちゃん会などにおける啓発活動、啓発用ノベルティグッズの製作・配付や地域情報紙による啓発など、様々な機会を活用して3R行動を推進しました。そのほか、「都筑区の子どもの読書活動支援」を目的とした市民団体と協働し、区民の皆様から読まなくなった本を回収し、区内の小学校へ配付しました。

また、資源循環局と連携してフードドライブを実施し、都筑区社会福祉協議会による「食のお渡し会」へ食品を寄贈するなど、食品ロス削減につながる取組を進めました。

さらに、4月から全市で実施されたプラスチックごみの分別・リサイクル拡大や、新たなグリーン社会を目指す横浜グリーンエキスポの開催PRを通じ、CO2排出削減による脱炭素社会の実現に向けて、意識変容・行動変容に結び付ける啓発を行いました。



《プラスチックごみ分別拡大に関する説明会の様子》



《食のお渡し会（区社協）の様子》

主な増減

—

21 みんなで花と緑のまちづくり事業 拡充	R7 予算額	R7 決算額	差引
	431 万 5 千円	406 万 2 千円	25 万 3 千円

1 身近な花と緑を通じた横浜グリーンエキスポの機運醸成【拡充】

区制 30 周年を記念に区民の憩いの場として整備したつづき彩りガーデンを区内の緑化活動団体と協力して管理するとともに、7 月 27 日に GREEN×EXPO 2027 開幕 600 日前を迎えたことを節目とし、植物と土の中の微生物が放出する電子を利用して発電するライトを導入し、多様な植物の機能への理解が進みました。（7 月 24 日）

また、身近な都筑区の花や緑、植物の多様な機能の発信を通じて、5 つの Village 等横浜グリーンエキスポのコンテンツへの興味関心や、開催都市としての期待感、高揚感の醸成につなげられるよう、開催 500 日前イベントの開催（10 月 26 日：第 19 回 つづき みどりと花のまち巡り）や、つづき彩りガーデンにおけるプロモーション、「トウネットウンクのおでかけ日記」による都筑区公式 X での PR、頒布品の庁内全体での配布等を通じて、より一層の機運醸成を行いました。（通年）



《横浜グリーンエキスポの PR》



《区民団体による管理》



《開催 500 日前イベント》

2 「^{はやぶちがわ}早 淵 川・^{ろうばやと}老 馬 谷 ガーデン (HRG)」の維持・管理

地域及び東京都市大学と連携し、早淵川沿いの緑の拠点である HRG の維持・管理に引き続き取り組み、区民の花や緑への関心を高めました。

また、地域との協働によるプロモーションを実施し、身近な自然や緑への理解促進を図るとともに、横浜グリーンエキスポへの期待感の醸成につなげました。（通年）

HRG で開催した地域主催のネモフィラ祭（4 月 12 日）とコキア祭（10 月 25 日）では、横浜グリーンエキスポの PR を行いました。



《地域と大学生による手入れ》



《ネモフィラ祭の様子》



《コキア祭の様子》

3 「都筑区水と緑の散策マップ」の活用

都筑区の貴重な水と緑の環境資源や歴史ある寺社などを巡る散策コースを計 15 コース収録した「都筑区水と緑の散策マップ」を、区ホームページへ掲載するとともに区役所 1 階売店等で販売（1 部 400 円・令和 7 年度 177 部販売）し、都筑区の環境資源の魅力を区民に PR しました。



《散策マップ》

4 みどりとみちのパートナーの推進

身近な道路や公園等を清掃、維持管理するボランティア団体（ハマロード・サポーター、公園愛護会、水辺愛護会）や個人に対して花苗や清掃用具等を提供しました。

また、パネル展（7 月 2 日～8 日）等での活動紹介や担い手を増やすための広報を行い活動の活性化を図るとともに、日頃からの活動により一年を通して横浜グリーンエキスポの機運醸成を行いました。

※パネル展アンケート結果：

「多くの方々が協力して道路や公園の美化に取り組んでいることが伝わった」「緑の大切さへの理解が促進された」など「印象がよかった」と回答した人：約 80%

団体数：208 団体（ハマロード・サポーター 52 団体、公園愛護会 153 団体
水辺愛護会 3 団体）※令和 8 年 3 月現在



《パネル展》



《横浜グリーンエキスポの機運醸成》



《ハマロード・サポーター》

主な増減	みどりとみちのパートナー推進事業について花苗購入費の減
------	-----------------------------



※都筑区地域福祉保健計画啓発ロゴ

左) 都筑区マスコットキャラクター「つづき あい」

右) 都筑区地域福祉保健計画キャラクター「つづちゃん」

令和 8 年度
都筑区自主企画事業の
執行状況について

令和 8 年 9 月 3 日
都 筑 区

目 次

令和 8 年度 都筑区自主企画事業の執行状況について

施策 1 子育て世代をはじめ、あらゆる世代が住み続けたいと思えるまち

1 妊娠期から学齢期までの切れ目のない子育て支援事業	新規	拡充	3
2 こどもたちの健やかな育ちを支える地域づくり事業	新規		10
3 つづき健康づくりサポート事業	拡充		14
4 食と暮らしの安全推進事業			16
5 自治会町内会の地域運営応援事業	拡充		19
6 地域活動の活性化事業（区民活動センター・読書活動・青少年のボランティア）			23
7 都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」推進事業			27
8 障害者交流啓発事業	拡充		31
9 地域で支える認知症支援事業			33
10 まちづくり総合調整事業			35
11 広報・広聴事業			37
12 スムーズ区役所事業			39

施策 2 誰もが安心・安全に暮らせるまち

13 危機管理対策推進事業	拡充		40
14 災害にそなえる自助・共助の推進事業	拡充		44
15 安心・安全なまちづくり事業	拡充		48

施策 3 活力とにぎわい、魅力あふれるまち

16 スポーツチーム等との連携による地域貢献推進事業			50
17 文化とスポーツであふれるまちづくり推進事業	拡充		52
18 都筑区民まつり支援・地域の賑わいづくり事業			56
19 多様性にあふれるまちづくり推進事業（DEI推進事業）	拡充		57
20 メイドインつづき推進事業			60

施策 4 花と緑にあふれ、豊かな環境を育むまち

21 環境にやさしいまち推進事業			62
22 みんなで花と緑のまちづくり事業	新規		64

施策１ 子育て世代をはじめ、あらゆる世代が住み続けたいと思えるまち

1 妊娠期から学齢期までの切れ目のない 子育て支援事業 新規・拡充	R8 予算額	R7 予算額	増△減
	1,449 万 8 千円	1,564 万 1 千円	△114 万 3 千円

地域、関係団体、保育・教育施設、学校と連携し、育児不安を抱える養育者への支援、地域の親子の仲間づくりや身近な相談ができる環境の提供など、妊娠期から学齢期までの切れ目のない子育て支援に取り組みます。また、就学前児童の子育て世帯に対し、適切な保育・教育サービスを紹介します。これらの取組によって、都筑区で子育てしてよかったと実感できるまちを目指します。

1 夫婦で子育て応援事業

就労をしている妊婦やパートナーが参加しやすく、また、妊娠期から子育てをサポートする施設を知り、出産後に地域の子育て関連の取組に繋がりをやすくするため、引き続き、地域子育て支援センターPopola（以下「ポポラ」）、ポポラサテライト及び、身近な場所で参加できるよう、区内の全ての地域ケアプラザ（6 か所）において、休日両親教室を開催します。

- ・ポポラ：毎月第4土曜日、年12回 参加延べ34組（7月末）
- ・ポポラサテライト：毎月第2土曜日、年12回 参加延べ42組（7月末）
- ・地域ケアプラザ：全6か所で年2回ずつ開催 計4回 参加延べ22組（7月末）



《休日両親教室の様子》

2 0歳児地域育児教室（赤ちゃん会）

転入者が多い都筑区の子育て世代からのニーズを踏まえ、地域ケアプラザや地区センター、自治会町内会館など地域の身近な場所（全18か所）で月1回（8月を除く）赤ちゃん会を開催し、乳児とその養育者が地域で互いに知り合える機会を確保し、不安軽減に繋がります。

参加人数延べ1,122人（7月末）



《赤ちゃん会の様子》

3 育児不安を抱える養育者への支援

育児不安を抱える養育者を対象に、電話や訪問等で継続的な支援を行うとともに必要に応じて心理士が個別の相談に対応します。また、成長の道筋に合わせ、「イヤイヤ期の対応」や「子どもの心の育て方」等をテーマ別に学ぶことができるよう、「乳幼児期の子育て講座」を開催します。

また、1歳6か月児健診を経て、こどもの発達に課題や不安を抱える2歳前の子と親を対象に、親子で参加し、子どもの様子を見ながら集団形式と個別相談を組み合わせ心理士からアドバイスを受けられる「つづきっこ教室」を開催します。

・乳幼児期の子育て講座：

「子どもの心が育つ関わり方」第1回 7月17日 (18組)、第2回 12月4日

「子育て中の怒りとの向き合い方」第1回 9月11日、第2回 令和9年2月26日

・つづきっこ教室：年10回（6月～9年3月 月1回）2回実施 延べ15組



《乳幼児期の子育て講座の様子》

4 区民による子育て情報冊子の作成（つづきチルコロ MAP）

区民から寄せられた外遊びや公園、子育て支援に関する情報等を掲載した冊子（つづきチルコロ MAP）を様々な団体との協働により更新し、令和8年度末に発行・WEB 公開します。



5 身近な拠点における子育てインクルーシブ交流事業

転入世帯や外国出身者、障害児を養育する家庭を含め、多様な背景を持つ全ての家庭が地域で支え合いながら子育てできることが求められています。

そこで、関係団体や関係機関の自律的な連携を強化し、地域ケアプラザ等において、年齢や世代、国籍等の垣根を越えた交流イベントやスポーツイベントを実施するなど、地域とのつながりを育む支援を行うことで、誰もが子育てしやすい地域づくりを促進します。

・ 未就学児向け日本語教室、多文化交流親子イベント 等

3回実施 参加延べ19組（7月末）



《未就学向け日本語教室及び多文化交流親子イベントの様子（ポポラ）》

6 おひさま広場（園庭開放）【拡充】

市立保育所が、子育て中の保護者にとって地域の身近な子育て支援機関となるよう、園庭開放を行います。子育て経験のある保育協力者を配置して見守りがある中で、季節の遊びを取り入れながら子どもを安全に遊ばせるとともに、保護者の育児相談などを行います。

また、夏季の開催においては、毎年熱中症の危険性が高まっていることから、室内における開催増加に備え、冷風機の購入（4園×2台を6月設置済み）など、各園の環境整備を実施します。

・ おひさま広場：週5日（月～金曜日） 市立保育所4園

・ おひさままつり：5月14日：みどり保育園 33組 68人

5月28日：茅ヶ崎南保育園 38組 80人

10月20日：大熊保育園

10月21日：中川西保育園



《おひさままつりの様子》

7 積木交流（つみきのつづき）

都筑区では、「つみきのつづき」をキャッチフレーズとして、市立保育所に合計2万個の積木を用意して積木遊びに力を入れています。

地域の子育て世帯に積木と親しんでもらえるように、区役所及び子育て支援などで連携協定を締結しているノースポート・モールで親子向けの育児講座を実施することにより子どもたちに豊かな体験を提供します。

また、積木の貸出などを行うことで、民間の保育教育施設にも積木遊びを広める取組を進めます。

- ・ ノースポート・モール（3階のすぽひろば）：①7月10日 参加者数18組41人
②10月16日
- ・ 都筑区役所（1階区民ホール・多目的室）：9年1月16日



《ノースポート・モールでの育児講座の様子》

8 潜在保育士の保育士体験

将来的な保育士確保を目的として、保育士資格を持っていても現在は働いていない方や将来保育士資格を取得して働きたいと考えている方を対象に、市立保育所で保育士体験を行います。

- ・ 申込期間：5月から9年1月
- ・ 体験期間：6月から9年2月（原則平日）
- ・ 実施場所：市立保育所4園



《保育士体験チラシ》

9 地域が支える子ども達の居場所づくり事業

様々な課題を抱えた小中学生を対象に、生活習慣や学習習慣を身に付けられるきっかけとなるよう、地域の協力を得て、居場所づくり事業を実施します（南部方面で実施、原則毎週火曜日）。

また、送迎の必要がある児童等の支援を行います。

- ・ 参加人数延べ39人（7月末）
- ・ 車両での送迎人数延べ11人（7月末）

10 学齢期の子どもや保護者への支援

小学校入学を控え、学校生活やPTA、放課後の預け先などに不安を感じる、いわゆる「小1の壁」に直面する保護者も多くいます。こうした不安の軽減に繋がるよう、未就学児のいる保護者を対象とした講演動画の配信や、子どもが同じ小学校に通う予定の保護者や先輩保護者との情報交換会を各小学校 PTA 等の協力のもと開催し、インターネット等では収集しづらいリアルな情報を提供します。

- ・ 9月12日 区役所にて開催

「もうすぐ小学生！新生活を安心して迎えるために」



《講演会スライド》



《情報交換会（7年度）の様子》

11 命の大切さを知る事業【新規】

子どもの成長発達においては、乳幼児期からの大人から愛される体験を通じて、「自分がかげがえのない存在」と感じる事が、自己肯定感や他者への尊重へと繋がります。そこで、親と子の愛着を育み、また、自分自身がかげがえのない存在とすることができるよう、未就学期及び学齢期の子どもが命の大切さについて学べる機会を提供します。赤ちゃん会等の既存事業の機会を活用し、親と子に向けた講座や絵本・パネルを活用した啓発等を実施します。

- ・ 親子向け講座・啓発

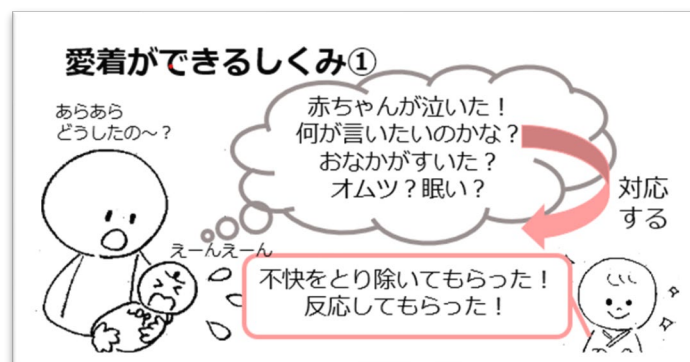
内容：愛着形成を促す関わり 赤ちゃん会 3回実施（7月末）、拠点での講座・啓発等

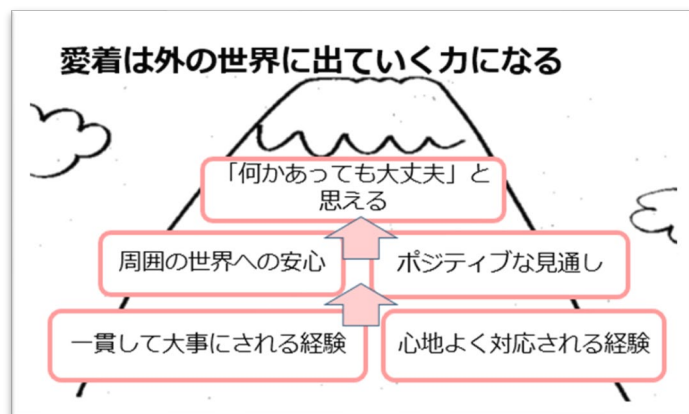
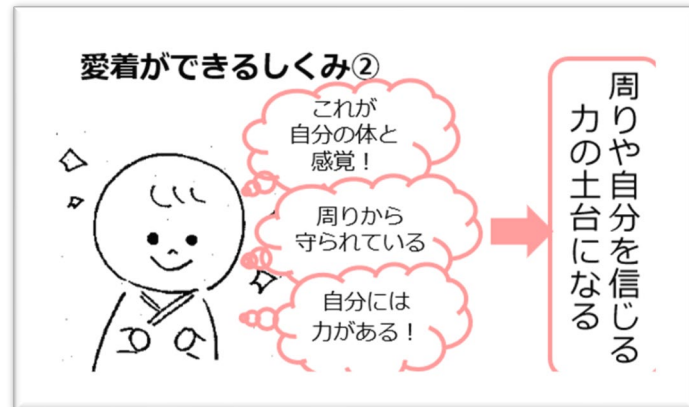
- ・ 学齢期向け啓発

こどもの持つ権利や他者との境界線（バウンダリー）等について、小学校高学年向けに学校での講話（秋以降実施予定）

- ・ 養育者、支援者向け研修会 年1回（秋頃）

《赤ちゃん会資料抜粋》





【再配当事業】母親（両親）教室（こども青少年局）

妊娠・出産・育児について正しい知識を身につけるために母親（両親）教室（平日月1コース3回）を実施します。

【再配当事業】子育て支援拠点ポポラ・ポポラサテライト（こども青少年局）

就学前の親子が遊び、交流する「ひろば」の提供や子育て相談、休日両親教室、子育て情報の提供などを行います。都筑区ではポポラ（センター北・あいたい5階）、ポポラサテライト（池辺・ららぽーと横浜3階）の2拠点を設置しています。

《利便性が高く様々な資源をもつ商業施設等とも連携し、施策の充実を図っています》

ポポラ：連携協定をもとにノースポート・モールとの連携を進めています。

ポポラサテライト：連携協定をもとにららぽーと横浜の各テナントや、ららぽーと横浜内の図書取次所（つづきの本ばこ）との連携を進めています。

【再配当事業】保育所・幼稚園・認定こども園子育てひろば事業（こども青少年局）

施設の地域開放、子育て相談、育児講座、園児との交流保育等を実施します。

【再配当事業】放課後児童健全育成事業（こども青少年局）

すべての子どもたちに豊かな放課後を過ごせる場所と機会を提供するとともに、増加する留守家庭の子ども達の居場所を充実させるため、小学校施設を活用した放課後キッズクラブや放課後児童クラブ（学童）の運営を支援します。

【再配当事業】寄り添い型生活支援事業（こども青少年局）

養育環境に課題がある世帯の子どもとその保護者を対象に、生活指導による日常生活習慣の改善や、学習支援による学力定着を図るための支援を行います。（区内北部で実施）

2 こどもたちの健やかな育ちを支える 地域づくり事業 新規	R8 予算額	R7 予算額	増△減
	373 万 2 千円	18 万 2 千円	355 万円

都筑区は、年少人口比率が市内で最も高く、こども、保護者、支援者それぞれからの学齢期のこどもの居場所へのニーズがあることがアンケートなどから分かっています。また、こどもは、異年齢や家族以外の大人と関わる経験を持つことで自己肯定感が高まることが各種調査で示唆されています。都筑区はこども支援に関する地域人材が豊富で、協働による効果的な施策展開を行いやすい強みがあるため、令和8年度から地域の中で多様な世代と交流できるこどもたちの健やかな育ちを支える地域づくりを進めます。

特に、学校との連携によるこどもたちの「地域」への関心の喚起や地域にある小中学生の居場所（場・体験機会）の見える化、子育て支援者の連携強化に向けたネットワーク構築・交流促進に取り組みます。また、既存施設の有効活用を通じて、こどもたちが地域に支えられながら、のびのびと成長できる環境づくりを進め、「安心できる地域の居場所（場・体験機会）」が十分にある」という実感を持てるこどもの増加につなげます。

小中学生の居場所づくり（地域のネットワーク形成、既存資源の活用、啓発）

1 地域とつながる出前授業【新規】

小中学生へ自分たちが暮らす地域への関心を持ち、地域の中の自分たちの居場所を具体的にイメージできるよう、地域にある様々な居場所・体験機会や自分たちを見守ってくれている様々な人・活動団体を知る機会を作るための授業や、地域福祉保健の計画の分かりやすい啓発を行います（5月から順次開始）。

・小中学校4校9クラス 286人（8月末）



《区内小学校における授業の様子》

※アンケートの（自由意見）：

- ・あいさつや地域の行事に参加したり、交流を深めることが大切だと思った。
- ・今まで恥ずかしくてできなかったけど、話を聞いて、地域の人へ積極的にあいさつをやってみようと思った。
- ・色々な人がボランティアとして緑道を掃除したり、登下校を見守っていることを知ることができた。

2 小中学生の居場所等ネットワーク交流事業【新規】

(1) 居場所（場・体験機会）の情報提供ツールの作成

地域の支援者や小中学生自身が地域にある居場所（場・体験機会）を認識できるよう、地域の居場所に関する情報をデータベース化します。また、データベース化した情報を基に（WEB サイト）を作成することにより、小中学生が自ら過ごしたいと思える居場所を選ぶためのサポートをします。情報提供ツールの作成にあたっては、機能やデザイン等について、小中学生を対象にインターネットを用いたアンケートを実施し、意見を取り入れます。

・事業スケジュール（予定）

6～7月 小中学生・保護者を対象としたアンケート実施

（小学生 2,386 人、中学生 2,202 人、保護者 1,059 人から回答）

小中学生に居場所（場・体験機会）を提供する団体について自治会町内会の協力のもと調査を実施

～令和9年3月 情報提供ツール（WEB サイト）作成

(2) 「小中学生の居場所等ネットワーク交流会（仮称）」の開催

小中学生の居場所（場・体験機会）に日頃から関わる現場スタッフ同士のネットワーク化を進めるほか、各支援者が小中学生との適切な関わり方を身につけられるようサポートするため、新たに「小中学生の居場所等ネットワーク交流会（仮称）」を開催します。

・9年1月開催予定

3 地区センターにおける小中学生の居場所づくり事業【新規】

地区センターにおける小中学生の居場所機能の充実を図るため、地区センタースタッフの人材教育、見守り体制の強化、他施設との連携支援を行います。

・地区センタースタッフへの人材育成研修（初回7月13日：65人参加）

・北山田地区センターでは、自主事業の開催頻度を拡大し、新たにこどもの居場所「みんなの広場」として毎週水曜日実施（4月～）



《地区センタースタッフ研修の様子》

4 都筑区こどもの居場所推進会議の開催【新規】

小中学生の居場所に関する施策について、地域のこども関連活動団体代表者等と意見交換する場として、新たに、「都筑区こどもの居場所推進会議」を開催します（年2回）。こどもの意見を取り入れながら、地域と行政が一体となってこどもの居場所に関する課題や取組を議論することで、こども自身の声や現場の実情を踏まえた施策につなげます。

- ・ 第1回：7月7日 （都筑区役所）
- ・ 第2回：9年2月



《第1回都筑区こどもの居場所推進会議の様子》

【参考】

第1回都筑区こどもの居場所推進会議 委員構成内訳（11人）

- ・ 学識経験者
- ・ こども関連団体活動代表者
- ・ 地域代表者（自治会町内会等）
- ・ 区内市立小中学校代表者

未就学期からのネットワーク形成

5 子育て支援ネットワーク事業

地域の子育て支援の充実を図るため、保育園や親と子のつどいの広場などの関係機関と情報交換を行うほか、主任児童委員やこんにちは赤ちゃん訪問員など広く子育て支援に関わる方が参加する交流会を行います。また、未就学期から学齢期までを接続し、こどもを地域全体で見守る地域づくりが切れ目なく行われるよう、未就学の「子育て支援ネットワーク」と「小中学生の居場所等ネットワーク交流会（仮称）」の連携を図ります。

- ・子育て支援ネットワーク会議：第1回6月5日(32人参加)、第2回9年2月12日
- ・子育て支援ネットワーク交流会：12月7日



《子育て支援ネットワーク会議の様子》

【再配当事業】こどもの居場所（場・体験機会）利用促進の取組（市民局）

小中学生自身が地域の居場所を知り、選択できるよう、情報提供ツール等の作成や、こどもの意見を反映した地区センターの環境づくりを行います。

・小中学生・保護者を対象としたアンケート実施（6～7月）（再掲）

（小学生 2,386 人、中学生 2,202 人、保護者 1,059 人から回答）

【局事業】青少年の地域活動拠点づくり事業（こども青少年局）

中・高校生世代を中心とした青少年が安心して気軽に集い、仲間や多世代との交流、社会参加プログラム等の体験活動の機会を提供する、青少年の地域活動拠点を7か所で実施します。

また、青少年にとって身近で安心できる居場所の充実に向けて、公共施設等を活用したモデル事業を実施します。併せて、体験活動や居場所等に関するニーズ調査及び検討会等を行い、青少年関係施設や居場所の方向性を検討します。

3 つづき健康づくりサポート事業 拡充	R8 予算額	R7 予算額	増△減
	292 万 4 千円	394 万 1 千円	△101 万 7 千円

区民の皆様が生涯にわたり健康であり続けられるよう、区民の自主的な健康づくりを促す啓発を行います。また、地域の健康づくりを支援する各種団体が活動に取り組みやすくなるような環境づくりを進めます。

1 働く世代の健康推進事業【拡充】

市民意識調査でバランスよく食べている区民の割合が減ってきている結果が出たことから、健康的な生活習慣を身に着けていただくため、働く世代をターゲットに、職場等を通じて健康づくりの支援を進めます。

また、横浜健康経営認証の取得支援では、各事業所の健康課題に合わせたヒアリング・個別支援を実施します。

《横浜健康経営認証の取得支援》

- ・横浜健康経営認証申請支援：5 事業所／年

《健康づくりネットワーク連絡会の開催》

- ・8 月、令和 9 年 1 月

《ツツキベジタブルチャレンジの実施》

- ・商業施設（港北 TOKYU S.C.、ノースポート・モール、モザイクモール港北、ららぽーと横浜）等における POP 等啓発：9 月
- ・YouTube 広告の掲載：9 月



《啓発ポスター》

2 がん予防啓発事業

区民ががんの早期発見・早期治療ができるよう、乳幼児健診や地域のイベント等でがんに関する知識や検診の必要性に関する啓発を行います。啓発においては、健康づくりネットワーク連絡会とも連携して行います。

《3 歳児健診保護者に対する乳がん・大腸がん検診普及啓発》

《乳がん啓発イベント》

- ・港北 TOKYU S.C.（10 月）

《保健活動推進員と連携した赤ちゃん会での乳がん検診普及啓発》

- ・2 回 20 人（7 月時点）



《赤ちゃん会での乳がん啓発》

3 こどものお口の健康事業

乳幼児のむし歯予防に関する正しい知識を広めるため、歯みがきの方法や予防のポイントを学べる「はじめての歯みがき教室」を毎月開催します。開催場所は、区役所及び区内市立保育所 4 園です。

また、日本語を母語としない養育者にも情報を伝えるため、令和7年度に作成した多言語のむし歯予防リーフレットを活用した啓発も行います。

《はじめての歯みがき教室》

・4回実施、22組（7月時点）

《2026 みんなで楽しむ！健口フェスティバル in TSUZUKI》

・6月7日、348人



《はじめての歯みがき教室リーフレット（多言語版）》



《イベントの様子》

4 こどもの食育推進事業

こどもの食生活に関する不安を軽減し、安心して育児ができるよう地区センターや地域ケアプラザなどの地域会場で食事相談を実施します。

また、こどもの成長に応じた離乳食が進められるよう、成長・発達の段階に応じた離乳食講座を開催します。

さらに、こどもの健全な食生活を啓発するため、区内市立小中学校・保育園等と連携し、情報交換会や研修を実施します。

《子育て支援者会場等における相談》

・食事相談：5回実施、33組

・歯科相談：5回実施、26組（7月時点）

《モグモグ離乳食とママ・パパの健康講座》

・2回実施、27組（7月時点）

《カミカミ・パクパク離乳食講座》

・1回実施、7組（7月時点）



《離乳食講座の様子》

5 地域の健康づくり応援事業

保健活動推進員や食生活等改善推進員の活動支援や各推進員の合同の研修会を行うことにより、地区活動の連携を促し、地域の健康づくり活動の充実を図ります。また、各保健活動推進員が安心して地域活動を行い、地域における健康づくり活動が活性化されるよう支援します。

さらに、区民の熱中症予防のため、熱中症対策グッズ（温度計カード）を配布しながら、関係団体とともに啓発を行います。

・保健活動推進員・食生活等改善推進員合同研修会：9月24日



《熱中症対策グッズ》

【再配当事業】がん検診啓発事業（医療局）

がんを早期発見・早期治療できるよう、リーフレット等を活用してがん予防啓発を行います。

【再配当事業】各区における市民に届く情報発信（健康福祉局）

働く世代の将来的な病気のリスクを防ぐためのプロモーションを展開します。

4 食と暮らしの安全推進事業	R8 予算額	R7 予算額	増△減
	68 万 6 千円	69 万 6 千円	△1 万円

食中毒予防をはじめとする食の安全を確保するため、大量調理施設などの監視指導を行うとともに、食事を提供しているボランティア団体に向けて食品衛生の啓発を行います。

また、住まいの衛生確保について支援できるよう、特に相談が寄せられる猫のふん尿やねずみ・ハチの被害を防止するための器機等の貸出しを行います。さらに、人と動物がともに快適に暮らせる環境づくりを推進するため、動物愛護や適正飼育の啓発等を行うことにより、安全で衛生的な暮らしの普及啓発を推進します。

1 食の安全確保推進事業

(1) 大規模商業施設や大量調理施設への監視指導の実施

都筑区には大規模商業施設内の飲食店や給食等の大量調理施設が多く、食中毒が発生したときに被害が大きくなるリスクがあります。定期的な監視にあわせて調理器具等の洗浄度を数値化できる機器を用いながら助言を行い、自主衛生管理の推進を促します。



《厨房のシンクを拭きとっている様子》



《洗浄度を数値化できる機器で測定した様子》

(2) 地域活動の担い手等への食品衛生に関する啓発

高齢者の見守りを目的とした配食サービスやこども食堂などのボランティアで食事を提供する団体に対し、令和7年度に実施した講習会のアンケート結果により、受講者のニーズをふまえて、食中毒や感染症といった関心の高いテーマにそって講習会を行います。関係部署の担当者や外部講師を招聘するなどして、受講者にとって実のある、衛生知識の向上につながる啓発を行います。



《啓発講習会の様子》

また、市民に向けた食中毒予防啓発を実施します。

- ・ 都筑区食品衛生協会と協力して行う食中毒予防キャンペーン（7月29日）
- ・ 区民ホールでのパネル展（7月31日～8月6日）
- ・ 広報よこはま都筑区版（6、7月号）（11月号予定）



《謎解きを取り入れた食中毒予防キャンペーン》



《食中毒予防パネル展》

2 暮らしの衛生確保事業

区民から猫のふん尿被害や、家屋へ侵入したねずみ、ハチの巣に関する相談が多く寄せられます。そのため、区民生活における猫・ねずみ・ハチの被害に対する支援として、被害防止器具の貸出しなどを行います。

3 動物適正飼育推進事業

人と動物が共に快適に暮らせる環境づくりを目指し、動物愛護及び適正飼育の推進を図ります。9月の動物愛護週間では長寿ペット表彰を実施します。また、区民まつり等において、ペットの飼育マナー及び適正な飼育などに関する啓発を行います。

- ・区民ホールにて長寿ペット表彰等展示：9月24日～30日



《長寿ペット表彰展示》



《リードに関する動画》

【局事業】食品衛生監視指導事業・食の安全強化対策事業（医療局）

食品関係施設への立入検査や食品などの検査により食中毒や違反食品の流通を防止するとともに、食品の適正表示を推進して食の安全・安心を確保します。

- ・肉を原因とする食中毒対策 ・社会福祉施設等の食品衛生対策
- ・アニサキスをはじめとする魚介類による危害発生防止対策
- ・検査による違反食品等の排除（残留農薬、アレルギー、食品添加物等）
- ・食中毒予防キャンペーン
- ・普及啓発、リスクコミュニケーション推進事業 など

【局事業】動物愛護普及啓発事業（医療局）

動物愛護思想や適正飼育の普及啓発を積極的に行うことで、飼い主不明の犬や猫の減少を目指し、人と動物との共生を推進します。

- ・動物の愛護及び正しい飼い方の普及啓発
- ・不妊去勢手術補助事業・地域猫活動支援事業 など

5 自治会町内会の地域運営応援事業 拡充	R 8 予算額	R 7 予算額	増△減
	770 万 6 千円	396 万 2 千円	374 万 4 千円

地域コミュニティの核として重要な役割を担う自治会町内会の運営力を高めるため、都筑区連合町内会自治会（以下「区連会」）と連携しながら夏祭りなどの機会を捉えた効果的な PR 活動を行い、自治会町内会への加入促進に取り組みます。また、日頃より市政及び区政運営への協力や地域に貢献されている自治会町内会長を対象とした感謝会を開催するほか、自治会町内会活動の課題解決や魅力づくりを総合的に支援する自治会町内会応援事業（都筑スタイル+（プラス））を実施します。

1 自治会町内会加入促進

区連会と協力して実施した区民まつりでの自治会町内会ブースにおけるアンケート結果等を踏まえて、自治会町内会が担っている役割の周知や加入促進を区連会等と連携しながら行います。

- ・自治会町内会魅力発信動画（区連会制作）を活用した PR
- ・令和 7 年度区連会と連携実施し、好評だった新任自治会町内会長向けのオンライン研修の内容をリニューアルし公開（4 月 23 日～）（視聴数：51 回（7 月 23 日時点））
- ・区商連と連携して自治会町内会加入促進 PR 用ペーパークラフト作成、配布（7 月）
- ・不動産業者等と協力し、未加入世帯及び未設立・新築マンションへの働きかけ、加入取次



《区連会等と連携した加入促進キャンペーン》



新任自治会町内会長のためのスタートガイド
～ 知っておきたい5つのポイント～

都筑区連合町内会自治会・都筑区地域振興課

《新任自治会町内会長向けオンライン研修》



《商店街及び区連会と連携した自治会町内会加入促進 PR 用ペーパークラフト》

2 自治会町内会への情報提供

区連会定例会資料を、毎月（8月と12月を除く）、各自治会町内会宛に配送し、区連会ホームページに掲載します。

3 自治会町内会長感謝会

自治会町内会長感謝会を開催し、永年にわたり地域振興に尽力された会長へ感謝状を贈呈するとともに各自治会町内会長へ、感謝の意を表します。（令和9年3月）

4 都筑スタイル 都筑の自治会町内会応援事業（名称：都筑スタイル+（プラス））【拡充】

組織運営の見直しや多様な活動主体との連携等による自治会町内会の「新しい運営スタイル」を創出するため、5年度に都筑区が自主企画事業費で開始し、6年度及び7年度は市民局と連携して、全市共通の課題解決に取り組む3年間のモデル事業として実施しました。8年度は改めて都筑区の自主企画事業として継続実施します。

個々の課題解決に向けて伴走支援する「アドバイザー派遣」や「イベント実施サポート」、また自治会町内会と多様な地域活動主体との連携が進むようにマッチングを図る「まちづくり交流会」については、これまでも多くの成果を創出できたことを踏まえ、引き続き実施します。また、8年度は新たに自治会町内会同士の情報共有・意見交換の機会を増やし、活動における共通課題の解決等を目的とした少人数の交流の場として「自治会町内会交流ラボ」を常設の都筑区民活動センターで実施します。加えて、自治会町内会活動における様々な好事例をウェブサイトに掲載し、実践内容の横展開を図ります。これらの取組を通じて、自治会町内会活動を総合的にサポートします。

- ・自治会町内会交流ラボ 開催場所：都筑区民活動センター

第1回 6月13日 「LINE 公式アカウント活用のコツ」、参加者数23人

第2回 8月29日 「自治会活動の負担を軽くするAI活用のコツ」

第3回 11月28日

第4回 令和9年3月頃

- ・好事例紹介：年3回掲載（7月21日、11月頃、令和9年3月頃）
- ・アドバイザー派遣及びイベント実施サポートの実施：5月～令和9年3月
- ・まちづくり交流会 9月27日開催 開催場所：都筑区役所

※自治会町内会交流ラボ 第1回参加者アンケート結果：・「とてもよかった/よかった」と評価した人：94%

※アンケート（自由意見）：

- ・具体的な事例や運用方法を聞けて良かった。
- ・知りたかった情報が手に入った。
- ・他自治会の事例が聞けて良かった。



《自治会町内会交流ラボ》



横浜市都筑区

横浜市トップ | Language | チャットボット |  Google 提供 | 検索

「広報」ではなく「マーケティング」の考え方

中川西町内会では活性化プロジェクトでの議論を通じて、「町内会を地域の人にどう理解してもらうか」「誰にどのような価値を届けるか」といった視点を重視するようになりました。

そこで目指したのが、「今の時代に合った、関わりやすい町内会」です。その実現に向けて、VISION（存在意義）、MISSION（理想の未来）VALUE（行動指針）を定義し、組織の方向性を一致させ、役員や会員のモチベーションや生産性を高めるために、発信内容や表現方法を見直しました。

また、これまでの回覧板では情報が届きにくかった、40～50代や子育て世代など、町内会との接点が少ない人にも情報を届けることを意識。noteでは活動の背景や思いを伝え、LINE公式アカウントでは地域の話題や生活に役立つ情報を発信しています。

単に情報を届けるのではなく、「誰に、どんな価値を届けたいのか」を考える。中川西町内会では、そんなマーケティングの視点を取り入れながら、住民にとって身近で分かりやすい町内会づくりを進めています。

わたしたちのVISION



わたしたちのMISSION



わたしたちのVALUE



中川西町内会が定めたVISION・MISSION・VALUE。活動の目的や目指す姿を地域住民と共有している

「やらされる」ではなく、「やってみたい」へ

町内会運営では、担い手不足が大きな課題として語られることがあります。

しかし、中川西町内会では「人手を集める」という発想だけでは、活動は長続きしないと考えています。

大切にしているのは、「何をやってもらうか」ではなく、「その人が何を『愉しめる』か」という視点です。

例えば、焼き鳥イベントであれば、単に「焼き鳥を焼く人手」を集めるものではありません。焼き鳥が好きな人、イベントが好きな人、人との交流を楽しみたい人など、それぞれが自分らしく参加できる「やる側が愉しむ」場を目指しています。

また、ITが得意な人はデジタル活用を担当し、発信が好きな人は広報に関わるなど、一人ひとりの興味や強みを生かせる環境づくりを進めています。役員の任期が終わった後も、専門部会などを通じて関わり続ける人がいるのも特徴です。

中川西町内会が目指しているのは、人を単なる労働力として集める組織ではありません。一人ひとりが主役となり、自分らしく地域と関わりながら、その過程としての「道中」そのものを愉しめるコミュニティです。

だからこそ、「人材が足りない」のではなく、「人が活躍し、愉しめる場をつくれるか」が何より大切だと考えているのです。

《好事例紹介》



【再配当事業】自治会町内会館整備費補助事業（市民局）

自治会町内会が整備する会館の建設費等の一部を補助します。補助メニューは、新築・増築・耐震補強工事・修繕で、整備費の2分の1を補助します。

【再配当事業】地域活動推進費補助金（市民局）

自治会町内会等が実施する防犯、防災、環境美化など公益性の高い活動やレクリエーション活動などの事業費、総会開催費などの事務費に対して補助を行います。

【再配当事業】自治会町内会館脱炭素化推進事業（市民局）

脱炭素社会の実現に向け、地域の皆さまとともに温室効果ガスの削減に取り組んでいくため、地域活動の拠点である自治会町内会館へのLED照明やエアコン等の省エネ設備導入費用の3分の2を補助します。

6 地域活動の活性化事業（区民活動センター・ 読書活動・青少年のボランティア）	R 8 予算額	R 7 予算額	増△減
	347万 9 千円	363 万 9 千円	△16 万円

近年では個人と地域の関わり合いが希薄になっている一方、ボランティアや市民活動の社会的な重要性は高まっている状況です。そのため、都筑区民活動センターにおいて、区民による自主的な課題解決や市民活動を通じた地域との繋がりづくりを支援します。また、都筑多文化・青少年交流プラザと連携し、小学校高学年及び中・高校生向けボランティア事業の実施を支援することで、青少年が日常で関わる機会の少ない年代や地域の方々との交流が増え、社会性及び自主性の向上を図ります。読書については、都筑図書館や市民活動団体と連携しながら子どもを中心とした区民の読書活動推進を図ります。

このように、区の施設や市民団体等と連携しながら、子どもからシニア層まで幅広い世代を対象とした地域活動支援事業を実施します。

1 区民活動センター運営事業

（1）講座・イベントの企画・運営

地域活動のきっかけづくりや地域で活動する団体同士のつながりづくりを目的に、年間を通じて様々な講座やイベント、交流会を実施します。実施にあたり、区民利用施設や市民団体及び地域活動に関心を持つ区民と協働で企画運営に取り組むことで、地域と連携した地域活動の促進を図ります。また、幅広い世代に届けるため、区民活動センターの公式 LINE や Facebook 等を活用した情報発信を行います。

- ・地域活動のきっかけづくりや情報交換の場「交流サロン」（通年）
- ・地域活動の担い手づくり講座「大人の部活動」（全6回：7月～令和9年3月）
- ・まちの先生講座体験イベント（7月11日 参加者：34人）
- ・地域活動団体のスキルアップ講座「縁（えん）ジンミーティング」（年2回）
- ・地域活動の活動発表、交流会「つづき人(びと)交流フェスタ」（3月）



《交流サロンの様子》



《大人の部活動の様子》



《縁ジンミーティングの様子（7年度）》



《つづき人交流フェスタの様子（7年度）》

(2) 自治会町内会支援の強化

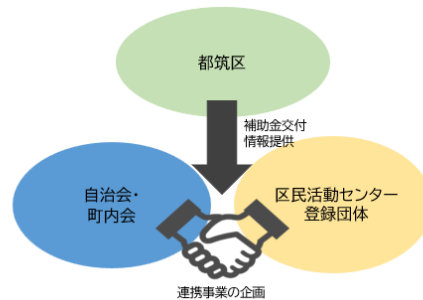
市民活動団体やボランティア人材を自治会町内会につなげるため、情報提供や相談対応など自治会町内会支援の強化を図っていきます。また、「都筑スタイル+（プラス）」と連携し、相互の広報媒体による発信力強化や、地域で活動しているボランティアの紹介などを通じて、自治会町内会が多様な活動団体と連携できる場づくりを支援します。

さらに、従来実施していた区民活動補助事業の内容を見直し、自治会町内会と連携・協力して実施する区民活動への補助を充実させることで、自治会町内会と市民活動団体がより結びつきやすくするきっかけづくりを支援します。



《補助金交付事業

(デフリンピック選手との交流)》



《補助事業の仕組み》

2 子どものボランティア体験事業

夏休み期間を利用して、中・高校生がボランティア活動を体験し、日ごろ関わる機会が少ない年代や地域の方々と交流し、体験を通じて学ぶ「はあと de ボランティア～中高生のための夏休みボランティア体験～」及び小学校5・6年生向けの「はあと de ボランティアプレコース」を実施しました。

つづきMYプラザや青少年指導員が中心となり、施設や団体と連携して子どもと地域をつなぐことによって、地域で活動する大人にとっても、子どもと関わり新たな気づきの場となることを目指しています。さらに、年々拡大するニーズに対応するため、7年度に引き続きIT等を活用した事業の効率化等を図りました。

また、同事業の発展形として、中・高校生が1年を通して活動し来夏の体験事業を企画する「STEP UP プログラム」(局予算事業)を支援します(通年)。

(プログラム数：90件(うち小学生も参加可能なプログラム：53件))

- ・募集期間(6月11日～7月8日)
- ・オリエンテーション(7月24日～27日)
- ・ボランティア体験(8月1日～21日)
- ・振り返りと修了証授与(8月22日)

参加者数：336人



《オリエンテーション》



《荏田南小キッズクラブでの様子》



《センター南駅周辺の清掃》



《修了証授与》

3 読書活動推進事業

区民の読書活動を推進するために、都筑図書館と連携し、区内の各施設で読書をテーマにした、おはなし会、講演会及び展示会などを実施します。

- ・おでかけ図書館（通年）
- ・つづきブックフェスタ（11月12日～14日）



《おでかけ図書館（DE&I FESTIVALの様子）》



《つづきブックフェスタ》

【局事業】市民活動情報のデジタル化事業（市民局）

地域活動の促進や、新たな担い手の創出につなげるため、スマートフォンなど市民の皆様の手元に、自治会町内会やNPOなど地域で活動している団体のイベント情報やボランティア募集情報等を届ける、横浜地域活動・ボランティア情報サイト「よこむすび」を7年4月に青葉区、都筑区で先行オープンし、8年6月に全区展開しました。区では、対象団体への周知とともに、閲覧者へのチラシの配架、SNSでの広報・PRを実施しています。



【再配当・局事業】青少年の地域活動拠点づくり事業（こども青少年局）

中・高校生世代を中心とした青少年が安心して気軽に集い、仲間や異世代との交流、社会参加プログラム等の体験活動を行う「青少年の地域活動拠点」を実施し、青少年の社会参画に向かう力を育みます。

【局事業】地域図書館・図書取次業務委託事業（教育委員会事務局）

「つづきの本ばこ」（都筑南図書取次所、7年3月「ららぽーと横浜」に開設）では、市立図書館の予約した本の貸出し・返却ができます。

また、本だな、読書・展示・イベントスペース、AIによる絵本紹介システム「ぴたりえタッチ」もあります。



《エントランス》



《本だな》



《おはなし会》



《ぴたりえタッチ》

【局事業】地域図書館のリノベーション（教育委員会事務局）

居心地向上に向けて、レイアウト変更などによる地域図書館のリノベーションを実施します。

- ・8年度 都筑図書館など5館の設計ほか

7 都筑区地域福祉保健計画 「つづき あい」推進事業	R 8 予算額	R 7 予算額	増△減
	226 万円	245 万 8 千円	△19 万 8 千円

第 5 期都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」（計画期間：令和 8 年度～12 年度）に基づき、福祉保健の取組への住民参加を促進し、地域活動団体や事業者等と行政が協働して、地域づくり、支えあいの仕組みづくりを進めます。

<第 5 期都筑区地域福祉保健計画の基本理念と目指す姿>



《第 5 期 区計画 本冊子(左)と概要版 (右)》

《第 5 期 地区別計画》

※地域福祉保健計画とは

誰もが安心して自分らしく健やかに暮らせる地域づくりを目指し、地域の皆さまや事業者、行政・社会福祉協議会・地域ケアプラザ等が協働して策定・推進する計画です。計画期間は 5 年間としており、横浜市では、「市計画」「区計画」「地区別計画」の 3 層で構成されます。

1 地区別計画推進会議等への支援

第5期計画推進に向けて、地域住民による課題共有・解決の体制を促進するため、地区別計画推進会議等の取組を支援します。また、地域での取組に対して、「つづき あい基金」を通じて支援を行います。

令和8年度「つづき あい基金」募集期間：10月13日～11月20日



《地域懇談会の様子》

2 都筑区地域福祉保健計画推進委員会の運営

学識経験者や各種団体の代表者等 18 人の委員からなる都筑区地域福祉保健計画推進委員会を開催します。推進委員会では、第5期計画の推進状況や啓発方法等について意見交換及び検討を行います。（令和9年3月）



《推進委員会の様子》

《主な参加者》

- ・自治会町内会、社会福祉協議会関係者
- ・子育て、青少年育成、学校関係者
- ・障害児者支援団体等関係者
- ・多文化共生支援団体関係者
- ・地域活動者（委嘱委員含む）
- ・医療関係者
- ・大学教授 等

3 地域福祉保健の啓発・発信

新たに都筑区に住み始める人や計画をまだ知らない人も含め、より多くの人に情報が届くように、区民まつりなどの若年層や子育て世代を含めた幅広い層が集まる場で、地域福祉保健計画の理念や地域福祉保健の活動拠点である地域ケアプラザの周知・啓発を行います。

学齢期の子どもへ出前授業を通じ、地域福祉保健の啓発活動にも取り組みます（再掲）。

- ・小中学校への出前授業を通じた啓発活動 : 通年
小中学校4校9クラス286人の参加（8月末時点）
- ・区民利用施設や横浜市PRボックスで計画冊子の配架 : 8年3月～
- ・広報よこはま都筑区版への掲載 : 7月号
- ・転入者への計画冊子（概要版）の配付 : 7月～
- ・区民まつりにおける啓発 : 11月
- ・パネル展における啓発 : 9年2月



▲地域福祉保健計画ロゴ

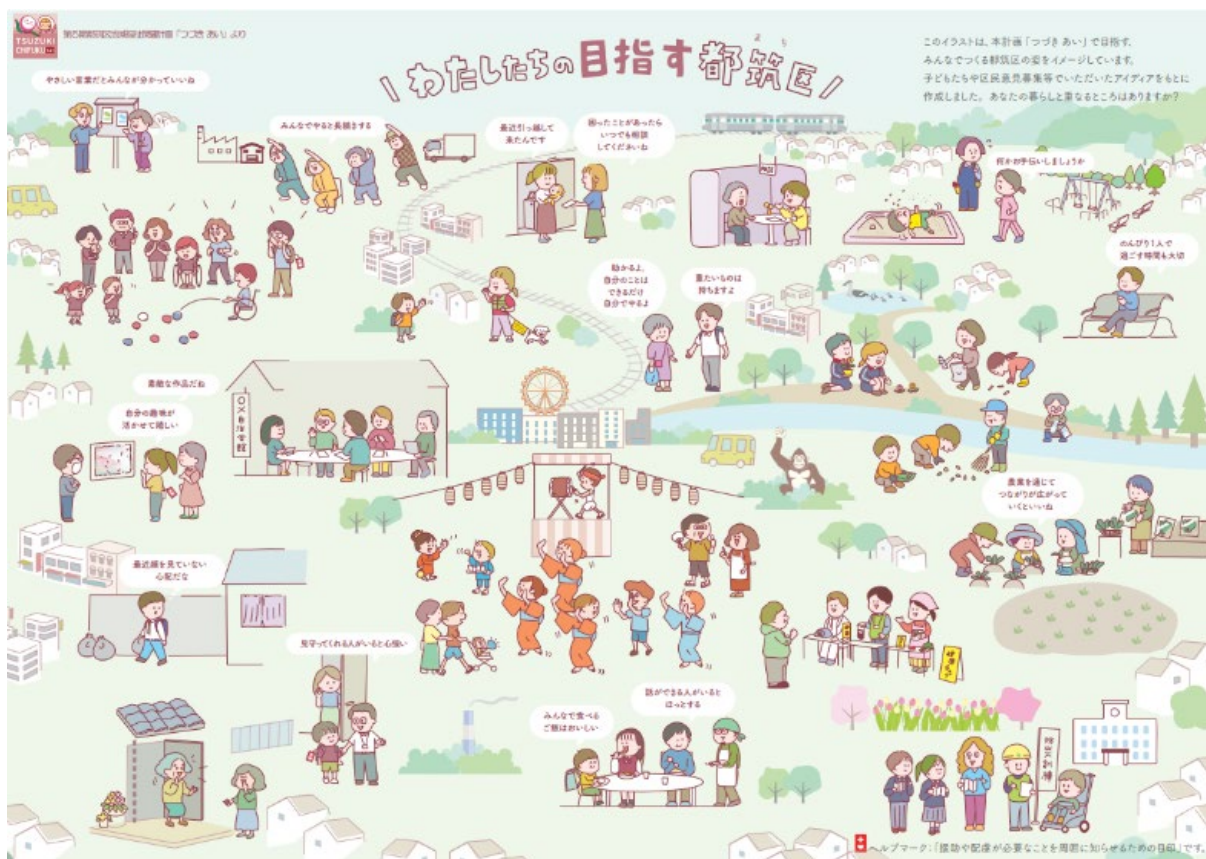


左)都筑区マスコットキャラクター「つづき あい」▲

《第5期計画冊子

右)都筑区地域福祉保健計画キャラクター「つづちゃん」▲

「やさしい概要版」》



《計画冊子に掲載している絵》

計画で目指す都筑区の姿や「地域福祉保健」を分かりやすく表したもの

【局事業】地域福祉保健計画推進事業（健康福祉局）

誰もが安心して自分らしく健やかに暮らせる地域づくりを目指し、住民、事業者、行政、社会福祉協議会、地域ケアプラザ等が福祉保健などの地域の課題解決に協働して取り組み、身近な地域の支え合いの仕組みづくりを進めることを目的として、地域福祉保健計画を推進します。

8 障害者交流啓発事業 拡充	R8 予算額	R7 予算額	増△減
	100 万 5 千円	101 万 7 千円	△ 12 千円

障害者の社会参加や地域住民等との交流を促進し、障害のある方もない方も、誰もが人格と個性を尊重し合いながら一緒に暮らせる地域共生のまちを目指します。各種事業を通じて、障害のある方が社会参加の機会を得て、生きがいを感じられるようにします。また、地域の人に障害のある方の活動や都筑区農福連携の取組への理解が深まったと実感していただけるよう取組を更に進めていきます。

1 福祉農園事業【拡充】

障害福祉関係施設、区社会福祉協議会、JA 横浜等と連携し、障害児・者の方が参加する芋の収穫体験を実施します。(10 月 17 日、10 月 18 日(予備日))

また、12 月の障害者週間に併せて区民ホール及びノースポート・モールで実施する「障害者と地域の共生フェスタ」は、テーマを「一人ひとりの花が咲く 共生のまち都筑」とし、花をモチーフとした障害者の方による作品パネル展示をおこない、横浜グリーンエキスポへの来場意欲の醸成も図ります。

昨年度の来場者の約 9 割が『イベントをきっかけに障害福祉や共生社会についてもっと知りたいと思った』とあり、引き続き障害者施設の事業所紹介のパネル展や農福連携の取組紹介などを行います。(12 月 1 日～4 日)



《芋の収穫体験の様子》



《共生フェスタ 自主製品の販売》



《農福連携関連ブース》

2 障害者地域啓発事業

(1) 区民まつり福祉バザー (11 月 3 日)

地域住民が参加する区民まつりにおいて、障害者団体が出店し、障害者と地域住民の交流の機会とします。

(2) 障害者グループホームの地域防災拠点訓練への参加支援 (9 月～令和 9 年 2 月)

障害者が地域防災拠点の訓練に参加し、地域住民とお互いに顔の見える関係を築くとともに、障害者自身が拠点の役割や機能を理解していただく機会とします。



《区民まつり障害者団体
自主製品販売》



《地域防災拠点訓練の参加支援》

3 障害者施設支援事業

障害者の社会参加につなげるため、区民ホール、駅構内等において障害者施設の自主製品の販売活動を支援します。また、区民に福祉事業所の活動や障害のある方の働く姿を身近に感じていただき、自主製品を「買うこと」が応援につながることを知ってもらうため、販売にあわせて紹介パネルを区民ホール販売場所へ設置しました。

農福連携※の取組を行う区内障害福祉事業所に対して、農作業に必要となる物品購入費の補助を行うとともに、「障害者と地域の共生フェスタ」で、都筑区の農福連携で作った野菜や加工品などの販売を通じて農福連携の取組や成果を区民の方に周知し、理解促進を図ります。(12月)



《区民ホール販売での様子》



《紹介パネル》



《農福連携関連商品》



《区民ホール B-CORPS ビジョンにて動画を放映》



《農福連携ロゴマーク》

※農福連携とは

農福連携とは、障害者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組です。農福連携に取り組むことで、障害者等の就労や生きがいづくりの場を生み出すだけでなく、担い手不足や高齢化が進む農業分野において、新たな働き手の確保につながる可能性もあります。(出典：農林水産省ホームページより)

【局事業】農作業受注促進モデル事業（健康福祉局、みどり環境局）

令和6年度から「障害のある方に対して農作業の指導を行う指導者の育成」等を通じて、受注作業として「農作業」を行うことのできる障害福祉事業所を増やし、よこはま障害者共同受注総合センター「わーくる」へ作業内容「農作業」での登録を促しています。

9 地域で支える認知症支援事業	R8 予算額	R7 予算額	増△減
	60 万円	60 万円	0 万円

いつまでも住み慣れた地域で、互いに支えあい、安心して暮らし続けることができるまち“都筑”の実現を目指し、認知症基本法（令和6年1月施行）の基本理念に則り、急速な高齢化が進む都筑区において、認知症に対する正しい知識及び認知症の人への対応等に関する正しい理解が深まったと実感していただけるよう普及啓発に関する取組を推進します。

○ ジュニア向け認知症 VR 講座（7月29日）、認知症 VR だれでも体験会（9月16日）の開催

認知症の人の想いを知り、認知症の人とともに生きる社会を考えるきっかけとするため、錯視（※注1）や幻視（※注2）、空間を把握する能力の低下など認知症の症状を本人視点で体験することができるバーチャルリアリティ（VR）の技術を活用した体験会について、7年度の体験ブース（参加125人）及び区内関係者向け研修会（参加39人）において『理解が向上した』と回答した割合はいずれも約97%と高く、認知症への理解促進に効果が認められたことから、今年度も継続して開催します。

今年度は、認知症本人の周囲の関係者としてこれからの地域を支える「小さな協力者」（小学校高学年）向けの講座を実施することで、同伴の親も含め若い世代をターゲットとして実施しました（参加者：親子計20人）。他に昨年度好評だった、だれでも参加できる体験会を9月16日に区民ホールにて実施します。

※（注1）目で見ているものが実際とは異なって見える症状

（注2）実際には存在していないものが見えてしまう症状

また、認知症について普段からの地域の見守りにつなげられるよう、認知症の人と接する際のポイント、認知症の相談先、サポーター養成講座について、広報よこはま都筑区版8月号に掲載しました。



《ジュニア向け認知症 VR 講座の様子》



《認知症 VR 体験会の様子（7年度）》



《広報よこはま都筑区版8月号》

【再配当事業】認知症フォーラム（健康福祉局）

認知症の症状や治療方法、相談先、経過等、関連する情報を広く提供し、認知症だけでなく認知症の方や家族等への対応等について、理解を深めるための講演会やパネル展等を開催します。9月12日都筑公会堂 「がんばりすぎない認知症介護」工藤広伸氏

【局事業】認知症サポーター養成講座（健康福祉局）

認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守り、自分のできる範囲で活動する応援者である「認知症サポーター」を養成する講座を開催し、地域における認知症に対する普及啓発を推進します。

【再配当事業】認知症サポート連絡会（健康福祉局）

地域の方や認知症に関わる団体、キャラバンメイト等が集まり、認知症普及啓発活動の企画や課題検討、勉強会の実施、各グループの活動に関する情報交換等を行います。

【再配当事業】認知症高齢者等SOSネットワーク事業（健康福祉局）

認知症により行方不明になる恐れのある高齢者等について事前登録することにより、本人が行方不明になった時に速やかに発見・保護する制度を運用します。

【再配当事業】認知症高齢者保健福祉相談事業（健康福祉局）

嘱託医師による高齢者のもの忘れ、認知症、こころの病などの相談を原則として毎月第2金曜日に区役所において実施します。

【局事業】認知症初期集中支援チーム（健康福祉局）

認知症の知識をもつ専門職が、認知症又は認知症が疑われる人を訪問し、専門医療機関への受診、介護サービスに関する説明や利用支援、認知症の状態に応じた助言等を行います。都筑区は、「横浜新都市脳神経外科病院」にチームを設置し、月1回定例会を開催します。

【局事業】チームオレンジ（健康福祉局）

認知症の人や家族の希望や願い、困りごとなどの声をもとに、その実現や解決に向けた取組を、認知症の人や家族とともに地域住民や団体、企業、関係機関等が連携して進める活動です。各地域ケアプラザが中心になり、活動のコーディネートを行っています。

10 まちづくり総合調整事業	R 8 予算額	R 7 予算額	増△減
	604 万 5 千円	629 万 5 千円	△25 万円

まちづくりに関する区民の皆様の声を聴き、区内企業・教育機関等との連携、地域の実情に応じたきめ細やかなまちづくりの普及・啓発、区民主体のまちづくりの支援等により、地域の課題解決等を図るための検討や取組を進めます。

また、まちの魅力を活かしたにぎわいの創出などのまちづくりに取り組みます。

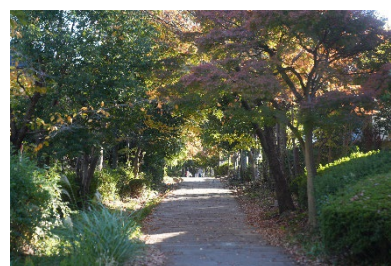
1 まちづくり・企画調整

(1) まちづくり調整

都市計画マスタープラン都筑区プラン^(※参考参照)の改定に向けて、都筑区の将来像やまちづくりの方針等の検討を進め、地域の意見を聴きながら、区別計画の素案の作成を進めます（アンケート実施：7月21日～8月31日）。

また、緑道の魅力アップを目的とした緑道等の土地の利活用に向けて、地域への情報提供等を行った上で、民間事業者との対話を行います（秋頃）。

さらに、区民の生活意識・行動、区民目線のニーズ等を把握し、区政運営に活かすことを目的とした区民意識調査の実施に向けて、調査内容の企画・検討を行います。



《緑道（せきれいのみち）》

(2) 区内大学との連携

区内に所在する東京都市大学及びビューティ&ウェルネス専門職大学と、会議等の開催を通して、地域課題の解決に向けた連携を強化します。

地域住民、東京都市大学及び区役所職員で構成された委員会により運営される横浜グリーンエクスポ応援イベント「ネモフィラ祭」を開催しました（4月11日）。また、地域課題に関する意見交換会（地域連携協力会議）を東京都市大学と行い、環境学等の専門性を活かした助言を受けて実施する中川西保育園の園庭づくりに関することなど、更なる連携に向けて検討しました（6月12日）。



《ネモフィラ祭の様子》

(3) 区内企業・区内大型商業施設との連携

区内企業による公立小・中学校出前講座（つづき博士倶楽部※¹）を行います。

また、令和6年度に連携協定を締結した東急不動産株式会社、東急不動産 SC マネジメント株式会社をはじめ、区内の大型商業施設を運営する企業と連携※²し、多くの方が訪れる商業施設を活用したイベントの開催や広報を行い、さらなる区民サービスの向上につなげます。



《区内大型商業施設との連携イベントの様子（のすば学校）（7年度）》

※1 つづき博士倶楽部とは

都筑区に立地する企業・事業所が、専門分野を生かした講座を都筑区内の公立小中学校へ出向いて講義するもの

※2 大型商業施設と連携した主な取組

- ・ ツヅキベジタブルチャレンジPR（9月1日～30日：ららぽーと横浜等）
- ・ 防災救急フェア（9月5日：港北 TOKYU S.C.）
- ・ DE&I フェスティバル（10月4日：ノースポート・モール）
- ・ 都筑野菜出張朝市（通年：IKEA 横浜）

【参考】都市計画マスタープラン 都筑区プランの改定状況について

- ・都市計画マスタープラン 都筑区プランは、概ね20年後を見据えた、まちづくりの目標や土地利用の指針となるものです。都市計画に関する方針や情報等をまとめ、区民の皆様にお知らせする役割等もあります。
- ・全市プランである「横浜市都市計画マスタープラン全体構想」が7年5月に改定されたことを受け、地域別構想（区プラン）を都市整備局と区で連携しながら改定します。なお、改定後の地域別構想は、エリア別方針（都市整備局が主体）と区別計画（区が主体）により構成されます。
- ・エリア別方針については、都市整備局が都筑区と連携して地域の意見をお聴きした上で、エリア別方針の素案の作成を進めます。

11 広報・広聴事業	R8 予算額	R7 予算額	増△減
	252 万円	260 万 4 千円	△8 万 4 千円

広報よこはまや区ウェブページ、SNS、デジタルサイネージ、行政情報モニターを活用し、区政情報や区の見どころなどを広く発信します。

また、市民からの提案やデジタルプラットフォーム等の各種広聴事業を活用し、こどもから高齢者までの多様化する区民ニーズや地域の課題を受け止め、事業への反映を検討し、区民目線・利用者目線による施策の充実を図ります。

1 情報発信事業

(1) インターネットを活用した広報

区ウェブページや SNS（X、LINE）を活用し、区政情報や各種イベント情報の発信、広報よこはま都筑区版のオープンデータの提供などを行います。

また、X のフォロワー増加を目的として都筑区公式 X フォロー&リポストキャンペーンを実施しました（キャンペーン後のフォロワー数：4,396 人増（令和 8 年 6 月末時点））。引き続き、地域の魅力や行政サービスを効果的に伝える投稿を増やすなど、投稿内容の充実を図ります。



《X フォロー&リポストキャンペーン》



《X 投稿例》

(2) PR ボックスを活用した広報

毎月 1 日、都筑区内全駅及びボッシュ ホールにある PR ボックスの見開き掲示板に広報紙の最新号を掲示するほか、毎月 15 日に広報印刷物の補充（計 46 か所）を行い、イベントやお知らせ等を周知します。

また、7 年度に引き続き利用者の多い区内地下鉄駅（仲町台駅、北山田駅、都筑ふれあいの丘駅）の PR ボックスを横浜グリーンエクスポデザインにリニューアルし（8 月 18 日）、開催に向けた PR を行います。



《仲町台駅・北山田駅・都筑ふれあいの丘駅設置のPRボックス》



《都筑ふれあいの丘駅のPRボックス背面》

(3) 都筑の魅力発信

SNS、区ウェブページやデジタルサイネージを活用して写真や動画で都筑区の魅力を広く発信します。また、7年度に区のマスコットキャラクター「つづき あい」が生誕20周年を迎えました。同年度に新たに作成した「つづき あい」イラスト等を活用し、より区民に親しみやすい広報を展開します。



《X投稿写真》



《生誕20周年を迎えた「つづき あい」》

(4) 広報研修の実施

区民に必要な情報をよりわかりやすく効果的に発信できるよう、自治体広報に精通した外部講師を招き、区職員を対象に広報マインドの向上及び広報スキルの強化を目的とした研修を実施しました（7月10日：受講者32人）。

(5) 広報アンケートの実施

区民ニーズを把握し、効果的な広報につなげるため、区の広報に関するWebアンケートを実施しました（7月：回答者1,099人）。景品を用意することで回答数の増加を図り、得られた意見を区の事業や広報施策に反映させます。

2 広聴事業

各種広聴制度を活用し、区民の方や区内で活動する団体等の方から様々な意見を伺うことで、地域における課題やニーズの把握に努めます。

また、デジタルプラットフォームによる区民意見募集を行い、35人の区民の方から合計50件のご意見・アイデアをいただきました。（実施期間：6月1日～6月30日）

12 スムーズ区役所事業	R 8 予算額	R 7 予算額	増△減
	391 万 6 千円	1,223 万 8 千円	△832 万 2 千円

庁舎内のデジタル環境整備や、来庁者へのサービスを向上することにより、業務の効率化と区民の皆様が利用しやすいスムーズな区役所を実現します。また、人権啓発講演会を通じて多様性が尊重される社会を目指します。これらについては、D E I の視点をもって取り組んでいきます。

1 デジタル環境推進事業

横浜D X戦略を踏まえ、区民サービス向上や区役所業務の効率化につながるよう生成A I の積極的活用を進めます。具体的には、区役所内の全課を対象に生成A I 研修を7月から12月にかけて実施します。引き続き、ペーパーレス化やA I の積極的活用を推進し、来庁者や働く人の利便性の向上を目指します。

あわせて、区民の利便性向上や窓口運用の効率化を目指し、令和8年2月24日から戸籍課、子ども家庭支援課、高齢・障害支援課、税務課及び保険年金課の5課で新たな窓口発券機を設置しました。このことで、一部手続きにおける事前W E B 発券機能等を追加し区民の待ち時間の削減を図るとともに、発券件数など各種データ収集・集計業務を効率化します。



《生成A I 研修》



《戸籍課の窓口発券システムの様子》

2 区庁舎環境改善

区民の皆様が快適に利用できるよう、区庁舎の環境改善や整備を行います。

3 人権啓発講演会

人権意識の向上を目的として、区民の皆様及び職員を対象とした人権啓発講演会を実施します。(12月21日 都筑公会堂 講師：鎌田 實氏(諏訪中央病院名誉院長))

施策2 誰もが安心・安全に暮らせるまち

13 危機管理対策推進事業 拡充	R8 予算額	R7 予算額	増△減
	965 万 6 千円	954 万 7 千円	10 万 9 千円

令和7年3月に改定された本市地震防災戦略を踏まえ、一層の各種災害対策を推進します。引き続き、関係機関・団体と各種会議を開催し、意見交換及び情報共有を行うほか、各種訓練を実施することで、区本部における災害対応力の向上並びに連携強化を図ります。

また、7年度に続き、8年度においても土砂災害警戒区域及び特別警戒区域にお住まいの世帯に対し、がけ地に関する啓発を行うほか、がけ地等の不安や問題点について、地盤の専門家へ相談することができるがけ地相談会を開催します。

1 関係機関と連携した災害対応力の向上【拡充】

(1) 「災害対策連絡協議会」、「帰宅困難者対策部会」を開催し、警察署等の関係機関・団体と情報共有や意見交換を行います。

- ・災害対策連絡協議会（6月11日）
- ・帰宅困難者対策部会（9年1月）

(2) 災害医療に関する各種会議を開催し、区医師会等の関係機関・団体と、発災時の医療体制に関する情報共有や意見交換を行います。

(3) 区医師会等と実施する災害医療対策訓練及び交通事業者や帰宅困難者一時滞在施設等と実施する帰宅困難者対策訓練等を通じて、関係機関・団体との連携強化を図ります。【参考】7月12日に開催された災害医療講演会（主催：都筑消防団 共催：区医師会）に区職員も参加しました。

- ・「診療中」の黄旗掲出訓練（9月16日～18日、9年1月18日～20日、9年3月10日～12日）
- ・帰宅困難者対策訓練（9年2月）

(4) 区災害対策本部の運営のため、通信機能の確保や資機材の補充を行います。また、区災害対策本部運営訓練を実施することで、区職員の災害対応能力の向上を図ります。

- ・区災害対策本部運営訓練（9月11日）



《都筑区災害対策連絡協議会》



《災害医療対策訓練
（仮設救護所訓練）の様子》



《区災害対策本部運営訓練（7年度）》

2 災害時における情報発信

災害発生時や災害発生が見込まれる際、区独自に設置の防災用スピーカー（13基）を活用し、河川沿いの住民に情報発信する他、緊急時情報伝達システムを活用し、区内の自治会・町内会長等へ避難情報等を一齐に電話で受伝達するシステムを引き続き運用します。

- ・緊急時情報伝達システム受伝達訓練（5月29日）
- ・防災用スピーカーの試験放送（6月5日）

3 風水害対策の取組

（1）土砂災害警戒区域及び特別警戒区域の世帯の方が、がけ地に対する正しい認識を持ち、主体的に避難行動等をとることができるよう、居住区域の指定状況の確認方法、避難情報等が自動配信されるアプリや SNS、緊急時情報伝達システムへの登録勧奨などを記載した啓発チラシを対象世帯に全戸配付しました。

- ・啓発チラシの全戸配付（6月10日までに該当住戸 2,710戸へ配付済）

《8年度配付の啓発チラシ》



《表面》

《裏面》

（2）区が避難指示を発令する場合、区民の皆様が自主避難できるよう引き続き、区役所を避難場所として開設します。また、空調設備が未整備の指定緊急避難場所（小・中学校）へ暑さ対策にかかるスポットクーラー2台を6月に配備しました。

このことにより、区内の全指定緊急避難場所において、空調設備整備済み、又はスポットクーラーが整備済みの状況となりました。



《スポットクーラー》

（3）5月29日から新たな防災気象情報の運用が全国で開始され、本市における避難情報発令の基準等に変更が生じたことに伴い、避難場所開設の考え方を整理し、区民の皆様が安心して避難行動が取れるよう適切な避難場所の開設を実施しています。

《 8 年度における避難場所開設状況 》

開設日	開設した避難場所	避難者
6 月 2 日～6 月 3 日 台風 6 号接近 レベル 4 大雨 危険警報	<u>7 か所開設</u> 【6 月 2 日～3 日】市本部の指示により開設 都筑区役所 【6 月 3 日】レベル 4 大雨危険警報等により開設 中川西中学校、山田小学校、勝田小学校、都田小学校、 折本小学校、川和小学校	2 世帯 3 名 折本小学校
6 月 26 日～27 日 台風 7 号・8 号接近	<u>1 か所開設</u> 【6 月 26 日～27 日】市本部の指示により開設 都筑区役所	なし
7 月 17 日 レベル 4 大雨 危険警報 レベル 4 土砂災害 危険警報	<u>7 か所開設</u> 【7 月 17 日】レベル 4 大雨危険警報、レベル 4 土砂 災害危険警報等により開設 都筑区役所、中川西中学校、山田小学校、勝田小学校、 都田小学校、折本小学校、川和小学校	なし

(4) 7 年度に新たに行ったがけ地相談会が好評だったため、8 年度も引き続き土砂災害警戒区域及び特別警戒区域のがけ地を所有する方が、当該がけ地やよう壁等の不安・問題点について地盤の専門家に相談することができるよう、相談会を開催します。

(11 月 27 日、28 日 都筑区役所)



《 がけ地相談会（7 年度） 》

【局事業】 横浜市がけ地相談会（建築局）

横浜市内に宅地等を所有する方を対象に、ご自宅のがけ地やよう壁等の不安・問題点について、専門家に無料で相談することができる「横浜市がけ地相談会」を開催します。

【局事業】 令和 8 年度横浜市総合防災訓練の実施（防災・危機管理統括本部）

横浜市（防災・危機管理統括本部）では、市民や防災関係機関の連携強化と地域防災力の向上を目的に、毎年度、各関係機関と連携した「横浜市総合防災訓練」を実施しています。令和 8 年度は、都筑区を会場とします。

・実施日時

10 月 4 日（日） 9 時 00 分～12 時 00 分

・実施場所

荏田南中学校（都筑区荏田南 2－5－1）実動訓練（一部プログラムにおいて、各連合町内会長や地元である荏田南連合自治会が参加する訓練が行われます。）

牛ヶ谷公園（都筑区荏田南 2－27）展示会場

荏田南小学校（都筑区荏田南 2－5－2）関係者専用駐車場

14 災害にそなえる自助・共助の推進事業 拡充	R8 予算額	R7 予算額	増△減
	680 万 7 千円	574 万 4 千円	106 万 3 千円

令和 7 年 3 月に改定された本市地震防災戦略を踏まえ、次のような取組を進めてまいります。

広報よこはまや防災・生活マップ等を活用した啓発活動に加えて、地域防災拠点運営委員向けの研修会、防災・減災講演会の開催、及び災害時要援護者支援事業(つづき そなえ)による地域の取組支援等を実施することで、自助・共助の取組を推進し、地域防災力の向上を図ります。

1 地域防災拠点の運営支援をはじめとした避難所環境の整備【拡充】

地域防災拠点運営委員を対象として、地域防災拠点の開設・運営などに関する研修会（3 回：6 月 21 日・7 月 5 日・10 月実施で調整中）を開催するとともに、地域防災拠点における訓練を支援します。

また、今年度、空調整備が予定されている地域防災拠点（5 か所）を除く、すべての空調整備未実施の地域防災拠点（14 か所）に対し、避難生活における暑さ対策として、6 月までにスポットクーラー（14 台）などを配備しました。

さらに補足的避難所に指定されている施設に対し、備蓄庫の設置及び備蓄品の配備を進めます。

・都筑区地域防災拠点運営委員会連絡協議会（5 月 27 日）

《都筑区地域防災拠点
運営委員会連絡協議会》



2 自治会町内会等向け出前講座、防災・減災講演会の開催

自治会町内会・小中学校等を対象とした出前講座（年 20 回程度実施予定）や区民向け防災・減災講演会を開催するとともに、商業施設での啓発イベント（9 月 5 日港北東急 S.C. で防災・救急フェアを開催）や地域情報誌（6 月・9 月）を通じて、大規模地震や風水害への備えなどの知識の向上や防災・減災に関する意識啓発を図ります。

なお、防災・減災講演会については、令和 7 年度同講演会のアンケート結果を踏まえ、開催します。（11 月 17 日 都筑公会堂 講師：鎌田 浩毅氏（京都大学名誉教授））



《防災・減災出前講座》



《商業施設でのイベント》



《地域情報誌記事（7年8月掲載記事）》

3 マンション防災アドバイザー派遣事業【拡充】

令和6年度都筑区防災・減災講演会のアンケート結果などから、区民のマンション防災への関心が高いことが確認されています。また、令和5年住宅・土地統計調査によると、都筑区における住宅戸数の63.4%がマンションなどの共同住宅です。こうした状況を踏まえ、集合住宅が抱える防災上の課題に対応するため、集合住宅の管理組合や集合住宅を含む自治会町内会等向けに防災の専門家を派遣し、防災マニュアルの作成や訓練実施などにおける課題解決を支援します。

- ・マンション防災アドバイザー派遣事業（9月～9年3月）

4 災害時要援護者支援事業（つづき そなえ事業）

災害時要援護者支援に関する地域の取組が進むよう、希望する地域に行政が保有する災害時要援護者名簿の提供を行うほか、補助金の交付、取組の必要性の啓発や事例の紹介など、各地域の実情に合わせた支援を行います。

- ・第1回都筑区地域防災拠点運営委員研修会での周知（6月21日）
- ・広報よこはま9年1月号での記事掲載



《広報よこはま7年4月号》



《取組啓発のための冊子》



《地域における要援護者グッズの一例》



《地域が実施する意見交換会の様子》

5 災害時の健康維持啓発事業

健康づくりの観点から災害の備えを促すため作成した「食の備蓄」「口腔ケア」「衛生対策」に関する冊子「災害時にも役立つBOOK」の活用を地域防災関係者に促すとともに、保健活動推進員や食生活等改善推進員等と連携して啓発を行います。

また、日本語を母語としない外国人や障害のある方にも情報を伝えるため、7年度に作成した「わかりやすい版 災害のときに見るリーフレット」を活用した啓発も行います。

- ・地域防災拠点運営委員会連絡協議会での周知：5月27日
- ・防災・救急フェアでの啓発：9月5日 港北 TOKYU S.C.



《災害時にも役立つBOOK》



《わかりやすい版災害のときに見るリーフレット》



6 災害時のペット対策事業

災害時のペット避難について、飼い主一人ひとりが適した方法を自ら考えられるよう、日頃からの備えに関する動画を配信するとともに、ペット用災害時持ち出しグッズ等の展示を行うなど、あらゆる機会をとらえて啓発を進めます。

また、地域防災拠点においてペット同行避難の受入れが進むよう、防災備蓄庫にあるペット避難所開設キット（受付物品等）や避難所運営ゲーム（HUG）横浜市ペット版を活用した各拠点の取組を支援します。

- ・地域防災拠点運営委員向けのHUG訓練体験会（7月2日、7月13日）
参加者：20人（地域防災拠点運営委員（5拠点）7人、防災参与等関係者13人）

※参加者の声：

- ・一時飼育場所は決まっていたが運用は決まっておらず課題を認識した。
- ・ペット用の掲示板の必要性を認識した。



《地域防災拠点でのペット災害対策啓発》



《ペット同行避難訓練》



《HUG訓練体験会》

【局事業】地域防災拠点の機能強化（防災・危機管理統括本部）

大地震発生時に、自宅で生活できない際等に避難する地域防災拠点において、配慮が必要な方も含めた様々な避難者の生活を支援するため、必要な備蓄品の配備の強化や拠点の環境整備を行うとともに、本市の物資を備蓄する倉庫等の整備を進めます。

【局事業】地域の防災担い手育成事業（防災・危機管理統括本部）

町の防災組織のメンバーや地域防災拠点運営委員を対象とした研修を通じて、地域防災の担い手を育成します。「よこはま防災研修」では、オンライン形式で気軽に参加できるウェブ研修の実施や、災害時に行動に結び付く体験型研修を充実し、地域における担い手の裾野を広げます。

【再配当事業】災害時要援護者支援事業（健康福祉局）

発災時、自力で避難することが難しい高齢者や障害者等の避難を地域が支援できるよう、日頃から顔の見える関係作り等を進めていただくため、災害時要援護者名簿の作成や、支援方法等に関する周知・啓発を行います。

15 安心・安全なまちづくり事業 拡充	R8 予算額	R7 予算額	増△減
	773 万千円	741 万 8 千円	31 万 2 千円

安全で安心を実感できる「ふるさと都筑」を実現するため、交通安全、スクールゾーン協議会支援、放置自転車対策、防犯パトロール支援等を行います。また、区内での交通死亡事故や多様化した犯罪の発生を踏まえ、交通安全や防犯にかかる施策を強化し、市民局や警察等と連携しながら区民の安全・安心に対する意識啓発をより一層推進します。

1 交通安全運動【拡充】

都筑区交通安全対策協議会を中心に、都筑警察署等関係機関・団体と連携しながら交通安全運動の街頭キャンペーンや交通安全教室を実施します。さらに、日々の交通安全運動に貢献された皆様を顕彰します。

また、子どもたちの安全・安心のため、学校や警察と連携し、スクールゾーン標示の整備や交通安全啓発等を実施し、各小学校のスクールゾーン・防犯対策協議会の支援を行います。加えて、安協や区連会と連携し、新小学1年生へランドセルカバーを贈呈します。

- ・交通安全運動：緑道での自転車マナーアップ他4回実施済、4回実施予定
- ・はまっ子交通あんぜん教室：区内小学校7校実施済、2校実施予定
- ・スクールゾーン・防犯対策協議会：22校（区内20校＋区外2校）で開催予定
- ・地域情報誌や広報よこはま（8月掲載済、12月、令和9年3月号予定）にて、自転車で事故に遭わない・起こさないための交通事故防止の啓発を実施
- ・青切符導入に関するチラシを区連会と連携して掲示板に掲出（6月～）
- ・自転車の安全運転啓発チラシを区内中学全校へ配布（中川中は除く）（7月）
（中川中では3月に上記チラシを配布し、啓発効果を確認）
- ・区役所内デジタルサイネージにて自転車の安全運転啓発画像を掲載（7月～）
- ・新小学1年生へ区連会と連携してランドセルカバーを贈呈（9年3月頃）



《緑道での自転車マナーアップ啓発活動》



《はまっ子交通あんぜん教室》

2 放置自転車対策事業【拡充】

駅周辺で啓発チラシ等を配布し、放置自転車防止等と呼びかける放置自転車クリーンキャンペーンを行います（10月）。



《放置自転車クリーンキャンペーン》

3 地域防犯活動推進事業【拡充】

地域防犯活動を行う自治会町内会及び地域の自主防犯のための青色回転灯パトロール隊に対し助成金を交付します。加えて、引き続き高い防犯意識と近年の凶悪化する犯罪発生状況を受け、特に、子どもが犯罪被害に合わないための具体的で分かりやすい防犯対策を学ぶことができるワークショップ型の講座を開催します（8月29日。区役所6階大会議室）。

また、都筑区防犯情報メーリングリストの発信（原則週1回、登録者数約2,800人）や、広報よこはまでの防犯啓発コラムの掲載（5月掲載、9月、9年1月号掲載予定）を行います。



《青色防犯パトロール隊出陣式の様子》



《防犯メーリング
リスト登録サイト》

【再配当事業】地域防犯活動支援事業（市民局）

防犯に関する物品などを自治会町内会等に配付することにより、地域での防犯活動を支援します。

施策3 活力とにぎわい、魅力あふれるまち

16 スポーツチーム等との連携による地域貢献推進事業	R8 予算額	R7 予算額	増△減
	40 万円	40 万円	0 万円

都筑区では、平成 29 年 3 月に横浜ビー・コルセアーズ、都筑区連合町内会自治会、区役所の三者で締結した「ホームタウン活動の協力に関する基本協定」に基づき、チームによる地域貢献活動等を通じて、連携を進めています。

これに加え、都筑区と関わりの深いスポーツチームによる地域貢献事業での連携も図り、スポーツ振興や子どもたちの心身の健全育成、街の賑わい創出等を進めます。

1 横浜ビー・コルセアーズホームタウン広報

「都筑区応援 Day」やビーコルパネル展等の地域貢献活動を通じて、スポーツ振興や街の賑わい創出等を進めます。



《ビーコルパネル展》



《センター南駅前柱装飾》



《応援 Day の様子》



《B-COR シーズン終了報告会》

2 都筑区と関わりの深いスポーツチーム等との連携事業

都筑区と関わりの深いスポーツチームによるスポーツ体験イベントや講演会等の地域貢献事業での連携を図り、区民がスポーツに触れる機会の更なる拡大や賑わいの創出、ウェルビーイングの向上を図ります。また、令和9年7月から横浜市にホームタウンを移転し、横浜国際プールをホームアリーナとして都筑区に拠点を構える女子バレーボールチーム「Astemo リヴァーレ茨城」との交流を深め、スポーツの力で地域活性化と都筑区の新たな魅力の発信を進めます。



《Astemo リヴァーレ茨城による表敬訪問（7月14日）》

後援事業：横浜F・マリノス「サッカースペシャルキャラバン（6月8日～6月12日）」
（区内の希望する2校の小学校を対象に「スポーツで身体を動かす楽しさを体験する」「プロ選手のプレーを間近で体験し夢を持ってもらう」「サッカーを通じて仲間の大切さ（チームワーク）を知る」ことを趣旨に、体育授業として横浜F・マリノストップチームの選手が訪問し、授業を実施しました。）



《横浜F・マリノス連携事業 「サッカースペシャルキャラバン」（6月12日）》

17 文化とスポーツであふれるまちづくり 推進事業 拡充	R8 予算額	R7 予算額	増△減
	371 万 2 千円	355 万 2 千円	16 万円

都筑区を拠点とした文化・スポーツの活動を支援することで、広く区民が文化・スポーツに親しむ機会を提供します。

つづきユースフェスティバル・都筑区民文化祭等を通じて区民が活動を発表する機会や文化に触れる機会を創出し、多様な文化活動の振興を図ります。また、スポーツ協会活動補助事業・グラウンドゴルフ大会等を通じて、スポーツ活動の普及・振興を図ります。

これらの取組を着実に進めることで、区内の文化・スポーツ活動の総合的な活性化を促します。

1 つづきユースフェスティバル

地域で活動する青少年が主役となり吹奏楽やダンス等の文化活動を区民に向けて披露する第4回「つづきユースフェスティバル」を開催することで、青少年の自己表現機会の創出を図ります。

実施日：11月23日（都筑公会堂）



《第3回つづきユースフェスティバルの様子》

2 都筑区民文化祭事業

区民及び区内活動団体が自主的に運営する「都筑区民文化祭」の開催を支援し、区民が広く文化に親しむ機会を創出します。

実施日：令和9年1月23日～2月7日（区民ホール、都筑公会堂）



《第30回オープニングセレモニー・ステージ》

地域や古来から伝わる伝統芸能・伝統文化を次世代へ継承するため、区内の伝統芸能関連団体の方々とともに普及活動を検討・実施していきます。指定管理者等と連携したボッシュホールにおける関連イベントの開催、また、地域の身近な場所における普及活動等を通し、子どもを中心として区民が広く伝統芸能に親しむ機会を創出します。また、7年度の区内伝統芸能・文化関連団体の調査結果について、積極的な情報発信と活用を行い、区民の関心の向上に取り組みます。

- 参加予定者数：73 人

ひとりできいてふれて！

小・中学生のみなさんに新しい出会いを 五感がよろこぶ体験イベント

2026 伝統芸能 につづき







お申し込みはこちら
お申し込み先: 050-3535-1111 (受付時間: 9時~17時)

受付期間:
2月7日(金)9時~10時
2月8日(土)9時~17時
※お申し込みは、お申し込みフォームからお願いいたします。

2026年 9月6日(日)

①午前部: 9時55分~12時00分ごろ
②午後部: 13時35分~15時45分ごろ

場所: ボッシュ ホール (都営線中央中央1-9-33)

対象: 都営線在住、在学の小・中学生 **定員:** 各年30名 **料金:** 500円/人

3つの体験が楽しめるメイン体験プログラムに加え、親子でも楽しめるサイドプログラムもご利用！

🎌 日本舞踊 (にほんぶう)

場所: ホール 講師: 影松の文 (花柳あま)

🎌 日本舞踊のくさくさを体験してみよう！

🎌 祭歌 (まつびうた)

場所: リハーサル室 講師: 都立東区立芸術文化推進会

🎌 お祭りをめざめる音楽や踊りを体験してみよう！

🎌 浴衣着付け

場所: 会議室 講師: 都民区民交流ふれあい委員会

🎌 浴衣を着て、しなやかな動きをほじてみよう！

🎌 (タイムスケジュール)

午前の部	午後の部	内容
9:50	13:35	音楽・鑑賞(パフォーマンス)
10:20	14:05	体験会(日本舞踊、祭歌、日本舞踊)
11:40	15:25	祭歌体験(華やかさと一瞬に魅了される舞)※参加自由

主催: 都民区民交流ふれあい委員会 協力: 都民区民交流推進委員会 後援: 文部科学省、東京都教育委員会 TEL: 045-645-2282

[illegible]

《伝統芸能体験イベントのチラシ》



《伝統芸能体験イベントの様子（7年度）》

4 都筑スポーツ・文化賞事業

スポーツ・文化の分野においてめざましい活躍、顕著な功績のあった都筑区にゆかりのある方々を表彰し、さらなる活躍を期待するとともに、スポーツ・文化活動への関心を高めます。

実施日：「令和9年 都筑区新年賀詞交換会」と同日開催予定



《表彰式の様子》

5 スポーツ協会活動補助事業

各種スポーツ大会や講習会を開催する都筑区スポーツ協会に対し補助を行い、スポーツ、レクリエーション活動を振興し、区民の健康増進と相互の親睦を図ります。

6 都筑区グラウンドゴルフ大会

都筑区スポーツ推進委員連絡協議会主催の都筑区グラウンドゴルフ大会の開催により、地域間交流の促進や区民の健康増進、スポーツ振興を図ります。

実施日：11月29日（JAきたグラウンド）

※雨天時、12月13日 順延



《都筑区グラウンドゴルフ大会の様子》

【再配当事業】文化施設運営事業（にぎわいスポーツ文化局）

ボッシュ ホールのネーミングライツ料を活用し、ボッシュ ホールと連携した子育て世帯向けの文化体験型参加イベントを開催します。あわせて、ボッシュ ホール周辺の文化施設や地域の文化関係者とのつながりづくりを進め、文化振興と賑わい創出の輪をボッシュ ホール周辺地域へと広げていきます。

18 都筑区民まつり支援・地域の賑わいづくり事業	R8 予算額	R7 予算額	増△減
	420 万円	420 万円	0 万円

笑顔にあふれ活気ある都筑区民まつりの開催を支援することで、地域の賑わいづくりとふるさと意識の向上を図ります。また、地域の活力向上及び地域コミュニティの核として重要な役割を担っている商店街（区商連加盟店舗等）と連携して、魅力を発信することにより、街全体の活性化を目指します。

1 都筑区民まつり支援事業

区民の皆様に地域に対する愛着やふるさと意識を醸成していただけるよう、都筑区ふるさとづくり委員会とともに、「第 32 回都筑区民まつり」を 11 月 3 日（火・祝）に都筑区総合庁舎及びセンター南駅周辺で開催します。



《第 31 回都筑区民まつり》

2 商店街の魅力発信事業

都筑区商店街連合会とともに、商店街の魅力を効果的に発信する事業を進めます。

イベント支援を通じて地域と商店街のつながりを深めるとともに、広報ツールを活用した商店街の認知度向上と魅力発信に取り組み、地域の居場所である商店街の賑わいづくりを支援します。



《仲町台えんいち（6 月）》



《区連会の自治会加入促進と連携した商店街 PR 用ペーパークラフト》

19 多様性にあふれるまちづくり推進事業 (DEI 推進事業) 拡充	R 8 予算額	R 7 予算額	増△減
	656 万円	590 万 9 千円	65 万 1 千円

国籍や障害によらず、誰もが地域の一員として、自分らしく暮らし、活動できるまちづくりを推進します。都筑多文化・青少年交流プラザ（つづきMYプラザ）による在住外国人に寄り添った日本語学習・生活支援や、国際交流を通じた多文化理解の促進に加えて、ドイツクリスマスマーケットやDEI※スポーツの取り組みを実施することで、子どもたちが地域に愛着を持ち、活躍できるよう支援します。

※DEI：Diversity（多様性）、Equity（公平性）、Inclusion（包括性）の3つを合わせた言葉です。国籍や障害の有無にかかわらず、多様な人が、公平な機会のもと、違いに尊重しあい、力を発揮できる環境を実現するという概念です。

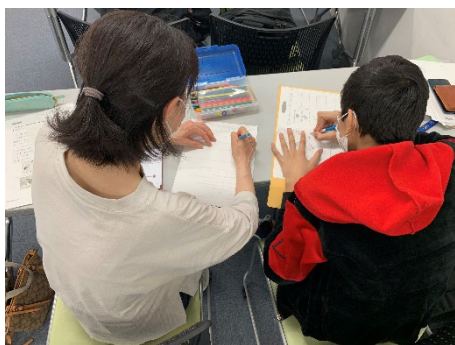
1 在住外国人支援・国際交流事業

言語の壁が原因で学習に課題を抱える子どもたちに対し、学校と連携した学習支援及び相談の居場所を提供します。また、学習支援だけでなく日頃の学習成果を発表する機会を作ります。さらに、ボツワナ共和国との交流を継続し、子どもたちの多文化理解及びグローバル教育の推進を図ります。

子育て支援センターポポラや NPO 団体に加えて、令和 6 年度に協定を締結したノースポート・モールとも連携し、DEI の考えを区民に広く周知するため、多様な人が、公平な機会のもと、ともに楽しめる「DE&I FESTIVAL」を開催します。また、外国人に対する防災啓発に向けた取組を実施します。

【在住外国人支援】

- ・多言語による生活相談・情報提供（通年）
- ・外国につながる子どものための教育相談、日本語教室、学習補修教室（通年）



《外国につながる子どもの
学習支援の様子》



《日本語学習発表会の様子》

【都筑・ボツワナ交流事業】

- ・茅ヶ崎小学校3年生児童に向けたボツワナ国際理解教室（6月24日）
- ・都筑・ボツワナ交流児童画展（12月17日～25日：区民ホール）



《ボツワナ大使館による国際理解教室の様子》



《第12回都筑・ボツワナ交流児童画展の様子（区民ホール）》

【多文化共生事業】

- ・外国人向け防災講座（9月13日）
- ・DE&I FESTIVALの開催（10月4日）



《DE&I FESTIVAL の様子》

2 都筑・ドイツ交流イベント事業

在住ドイツ人の多い都筑区で日独の相互理解・交流の促進及び多文化共生社会の推進を目的に、地元商業振興会や自治会町内会、東京横浜独逸学園、ドイツ企業等と連携し、センター北駅前の芝生広場等を会場に「ドイツクリスマスマーケット in 都筑 2026」を開催します。（12月5～6日）

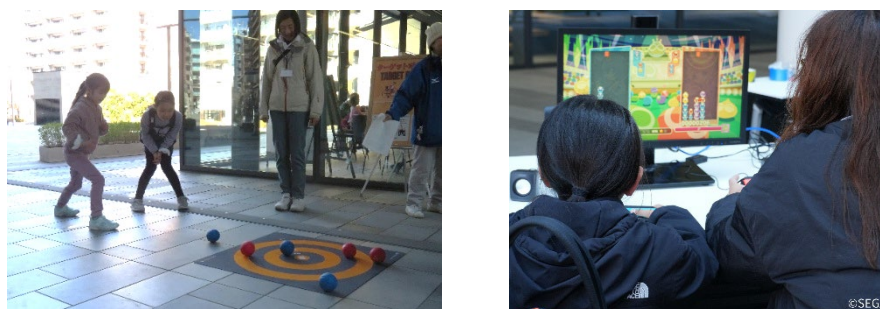


《ドイツクリスマスマーケット in 都筑 2025》

3 都筑DEIスポーツ事業【拡充】

多くの人が親しみを持ちやすいスポーツを通じて、地域全体の DEI への理解を推進します。地域で開催する行事やスポーツイベント等において、どなたでも参加できるスポーツ種目があることを目指します。8年度は、地域でのスポーツイベント等において、障害児・者、外国につながる方を含めたすべての区民が気軽に参加できるようなスポーツについて、備品貸出等の支援を行うことで、DEI スポーツ及び DEI の考え方の普及を目指します。

また、インクルーシブなスポーツ体験の機会として、DE&I FESTIVAL で新たに e スポーツの体験会を提供します。



《都筑 DREAM & Culture FESTIVAL 2026 プラッツの部
(ダイバーシティスポーツ体験エリア)》

【再配当事業】外国人材受入・共生推進事業（市民局）

地域の外国人支援及び国際交流の拠点として、多言語での情報提供や相談対応、日本語教室、日本人と外国人の交流事業などを実施する国際交流ラウンジを運営します。

20 メイドインつづき推進事業	R 8 予算額	R 7 予算額	増△減
	441 万 2 千円	380 万円	61 万 2 千円

都筑区の特徴である「製造業の集積」、「豊かな農環境」を活かし、区内製造業の持つ高度なものづくり技術や独創的な製品、新鮮な都筑野菜などの「メイドインつづき」をPRすることにより、販路開拓や地産地消につながる支援を実施するとともに、PRを通して「都筑愛」の醸成につなげます。

1 メイドインつづきPRイベント

「環境にやさしいまち推進事業」と連携し、「メイドインつづき（中小製造業支援、地産地消の推進）」のPRを行うとともに、プラ資源分別拡大をはじめとする身近な行動変容を促すことにより、横浜グリーンエキスポで目指すサステナブルなグリーン社会の実現に向けた意識・行動変容の啓発を目的とした「eco チャレ 2026」を開催します。（10月10日）



《eco チャレ 2025 の様子（7年度）》

2 中小製造業支援

（1）販路開拓・企業間連携支援

県下最大級の工業技術見本市「テクニカルショウヨコハマ 2027」に「メイドインつづき」ブースを出展し、参加企業の技術・製品をPRします。（令和9年2月3～5日）

また、販路開拓や人材確保等の観点から、参加企業の販促・広報用ツールを作成し、展示会や各種催事で活用します。（12月以降）



《テクニカルショウヨコハマ 2026（メイドインつづきブース）》

（2）地域貢献活動支援

都筑区役所での小学生向け廃材配布イベントの開催や、区内商業施設でのイベント及び区内大学文化祭への出展など、メイドインつづき参加企業の地域貢献活動について、小中学校や地域団体などの区民をターゲットとする事業紹介リーフレットを作成し、広報支援等を行います。

- ・廃材配布イベント（7月29日：都筑区役所 約150人程度）
- ・東京都市大学横浜祭（9月12日、13日：東京都市大学横浜キャンパス）



《廃材配布イベントの様子》



《ドイツクリスマスマーケット in 都筑 2025の様子（7年度）》



《事業紹介リーフレット》

3 地産地消の推進

市内有数の農地面積、農家戸数を誇る都筑区ならではの特徴を生かし、「新鮮な野菜が手に入りやすいまち」を目指すことにより、区民一人ひとりのウェルビーイングにつなげます。

8年度は、都筑野菜朝市（概ね月4回）の開催のほか、小中学校と連携した地産地消の啓発などに引き続き取り組みます。また、JA 横浜・区内商業施設との連携により、規格外野菜の販売等の SDGs に寄与するマルシェイベントを開催し、都筑野菜を含む新鮮な野菜を手に入れる機会の拡大を図ります。

また、7年度に実施した事業関係者へのヒアリングやアンケート調査の結果に基づき、都筑区の「農」の魅力を区内外へ広く発信するとともに、農という都筑区の強みを活かし、都筑区の住み心地や、定住意識の向上につながる取組を実施します。（10月以降）

さらに、9年3月に開幕する横浜グリーンエキスポに向け、朝市と連携したPRなど、都市空間と農環境が共生する都筑区の特性を生かした効果的な広報を行うことで、来場促進につなげていきます。



《都筑野菜朝市で販売した
区内産の焼き芋（7年度）》



《規格外野菜の販売（7年度）》

【再配当事業】ものづくり魅力発信事業（経済局）

中小製造業の販路開拓とものづくりの魅力発信を推進するため、テクニカルショウヨコハマにおけるメイドインつづきのPRや区の垣根を越えた企業間連携などを支援します。

【再配当事業】身近に農を感じる地産地消の推進事業（みどり環境局）

農畜産物直売所の整備等を支援するとともに、市内で生産される苗木や花苗の配布、地産地消に関わる情報の発信など、身近に農を感じる取組を推進します。

施策４ 花と緑にあふれ、豊かな環境を育むまち

21 環境にやさしいまち推進事業	R 8 予算額	R 7 予算額	増△減
	186 万 5 千円	171 万 5 千円	15 万円

2050 年までのカーボンニュートラルの実現に向けて、環境にやさしい身近な取組の普及啓発等を通じて、区民に脱炭素化への行動変容を促すとともに、循環型社会に向けてプラスチック対策や食品ロスの削減などを進めます。

また、区民一人ひとりが温暖化をはじめとする環境問題への理解及び脱炭素の重要性を認識し、環境にやさしい行動をとるライフスタイルの定着につなげます。

さらに、生活に身近な地域清掃活動の支援や不法投棄対策等により街の美化を推進すると共に、資源とごみの正しい分別及び 3 R の普及啓発等により「ヨコハマ プラ 5.3(ごみ計画)」の推進に取り組みます。

1 グリーン社会に向けた普及啓発

メイドインつづき推進事業と連携し、プラ資源分別拡大をはじめとする身近な行動変容を促すことにより、横浜グリーンエキスポで目指すサステナブルなグリーン社会の実現に向けた意識・行動変容の啓発及び「メイドインつづき（中小製造業支援、地産地消の推進）」の PR を目的とした「eco チャレ 2026」を開催します（10 月 10 日）。

また、SNS を活用した「YOKOHAMA GO GREEN 10Action」の啓発を行います。

さらに、区庁舎に設置されている、窓際でつる性の植物をカーテンのように育て日光を遮る緑のカーテンの維持管理を行うとともに、区内公立小中学校を対象に緑のカーテンの設置を行います（5 月～）。また、成果報告の場として「緑のカーテンパネル展」を環境科学研究所パネル展と同時開催し、それぞれの展示の相乗効果により、より多くの区民に対して環境保全や脱炭素行動に関する普及啓発を行います（11 月）。



《eco チャレ 2025 の様子》



《川和東小学校での様子》

2 クリーン推進事業

自治会町内会等が実施する地域清掃の支援（通年）、駅周辺のポイ捨て防止啓発（9年2月頃予定）、農業専用地区等の不法投棄対策の支援（夏～冬）を行い、街の美化を推進します。



《駅前のポイ捨て防止啓発》



《農業専用地区一斉清掃》

3 3R推進事業

つづき3R週間啓発イベント（6月20日（約200人）・10月10日予定、会場：区民ホール）をはじめとする各種イベントにおける啓発活動、啓発用ノベルティグッズの製作・配付など、様々な機会を活用して3Rを推進します。また、「都筑区の子どもの読書活動支援」を目的とした市民団体と協働し、区民の皆様から読まなくなった本を回収し、「リユース図書」として区内の小学校（18校）等へ配付しました（7月1日、2,151冊）。

さらに、食品ロス削減のため、資源循環局と連携してフードドライブを実施し、都筑区社会福祉協議会を通じて、地域の福祉施設や食を必要としている方に寄贈します（通年）。

これらの取組により、7年4月から全市で実施されたプラスチック資源の分別・リサイクル拡大や、新たなグリーン社会を目指す横浜グリーンエキスポの開催PRを通じて区民の行動変容を促し、CO2排出削減による脱炭素社会の実現につなげます。



《リユース図書選書会の様子》



《食のお渡し会（区社協）の様子》

【再配当事業】地域に根差した緑や花の楽しみづくり事業（身近な公共施設・公有地での緑の創出・育成事業）、保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成事業（みどり環境局）

横浜みどりアップ計画の一環として公共施設・公有地等において、敷地内の緑化及び緑地の維持管理を支援します。

22 みんなで花と緑のまちづくり事業 新規	R8 予算額	R7 予算額	増△減
	493 万 8 千円	431 万 5 千円	62 万 3 千円

緑地や農地の多い都筑区において、より一層花と緑にあふれるまちを目指し、区内の地域資源である公園や緑道などを維持管理する緑化活動団体や個人の活動支援に取り組むとともに、魅力ある豊かな環境資源を広く発信し、区民満足度や定住化の持続、ひいては Well-Being（ウェル・ビーイング）なまちの実現を目指します。

特に、令和9年3月に開幕する横浜グリーンエクスポに向け、来場意欲の醸成につながる広報を展開し、関心を高め行動変容の契機となることを目指します。

1 横浜グリーンエクスポ来場意欲醸成の取組【新規】

9年3月に開幕する横浜グリーンエクスポに、より多くの区民の方に来場いただき、素晴らしいコンテンツに直接触れていただけるよう、開幕半年前や100日前など節目をとらえたイベントの開催や、都筑区ならではの豊かな自然を活かしたプログラムの実施、屋外広告の掲示等を行い、来場意欲の醸成に取り組みます。



《区庁舎屋外階段ステップ装飾》



《区内歩道橋への横断幕掲出》

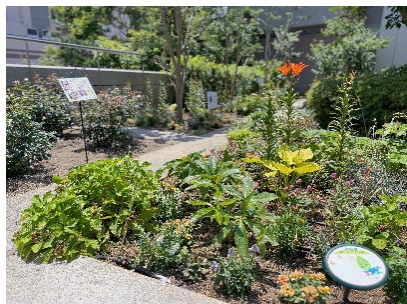


《横浜グリーンエクスポの
コンテンツ体験イベント》

2 都筑区花いっぱい運動の推進

区制30周年を記念して整備された「つづき彩りガーデン」を、区内の緑化活動団体と引き続き協力して管理するとともに、花や緑への関心・愛着を育む場として活用します。

また、緑が持つ多様な機能を発信することで、横浜グリーンエクスポの開催理念を伝えていきます。（通年）



《つづき彩りガーデン》



《緑化活動団体の維持管理》

3 「^{はやぶちがわ ろうばやと}早 湊 川・老馬 谷 ガーデン (HRG)」の維持・管理

地域及び東京都市大学と連携し、早湊川沿いの緑の拠点である HRG の維持・管理に引き続き取り組み、区民の花や緑を大切に作る心を醸成するとともに、身近な自然に親しむ機会から横浜グリーンエキスポへの興味関心につなげられるよう、地域との協働によるプロモーションを行います。(通年)



《地域と大学生による手入れ》



《HRG でのイベントの様子》



4 「都筑区水と緑の散策マップ」の活用

都筑区の貴重な水と緑の環境資源や歴史ある寺社などを巡る散策コースを計 15 コース収録した「都筑区水と緑の散策マップ」を、区ホームページへ掲載するとともに区役所 1 階売店等で販売（400 円）し、都筑区の環境資源の魅力を区民に PR します。



《散策マップ》

5 みどりとみちのパートナーの推進

身近な道路や公園等を清掃、維持管理するボランティア団体（ハマロード・サポーター、公園愛護会、水辺愛護会）や個人に対して花苗や清掃用具等を提供します。

また、パネル展（6 月 2 日～9 日 に区民ホールで開催）等での活動紹介や担い手を増やすための広報を行い活動の活性化を図るとともに、横浜グリーンエキスポの令和 9 年 3 月の開幕に向けて、ボランティア団体を中心により一層機運を高めていきます。

団体数：212 団体（ハマロード・サポーター 56 団体、公園愛護会 153 団体、水辺愛護会 3 団体）※ 8 年 8 月現在



《パネル展》



《横浜グリーンエキスポの機運醸成》



《ハマロード・サポーター》

【再配当事業】GREEN×EXPO 市発信・活動等事業（脱炭素・GREEN×EXPO 推進局）

横浜グリーンエキスポの開催年度となる8年度は、市内の大規模イベントで幅広い世代へのPRを行うとともに、横浜グリーンエキスポの最新情報や会場コンテンツを順次お伝えし、横浜グリーンエキスポへの期待感と来場意欲を一層高めていきます。都筑区でも、局と協力して、来場につながる取組を進め、新たな価値観や行動変容をもたらすきっかけとなることを目指すとともに、花やみどりの日常管理等を通じて、横浜グリーンエキスポを身近に感じられるよう、区内の緑化活動団体と連携したプロモーションを行います。

【再配当事業】＜横浜みどりアップ計画＞地域に根差した緑や花の楽しみづくり事業、子どもを育む空間での緑の創出・育成事業（みどり環境局）

市民、企業、団体など様々な主体と連携し、全市を挙げて「ガーデンネックレス横浜」を実施し、全市・地域で花と緑による街の魅力創出を進めます。都筑区では、「つづき みどりと花の名所25選」を巡るウォーキングの実施、つづき彩りガーデンや江川せせらぎ緑道、センター南広場、センター北広場での緑や花による場所づくりのほか、次世代を担う子どもたちが緑と親しめるよう保育園、小中学校でも芝生や花を楽しむ取組を進めます。

【再配当事業】ハマロード・サポーター事業（道路局）

自治会町内会、企業等のハマロード・サポーター各団体による市道の清掃、美化活動を支援するため、清掃用具の提供等により活動を支援します。

【再配当事業】公園愛護会活動等支援事業（みどり環境局）

公園の清掃等の日常管理や花壇づくり、利用者のマナー啓発等を行う、地域住民で組織する公園愛護会活動を支援するため、活動面積に応じた報償費等により活動を支援します。



※都筑区地域福祉保健計画啓発ロゴ

左) 都筑区マスコットキャラクター「つづき あい」

右) 都筑区地域福祉保健計画キャラクター「つづちゃん」

令和 9 年度都筑区個性ある区づくり推進費 予算編成の考え方について（案）

令和 9 年度個性ある区づくり推進費自主企画事業費の予算編成に当たり、次の考え方に基づいて取り組みます。

- 都筑区では、「中期計画 2026-2029」、「財政ビジョン」、「行政運営の基本方針」によって示されている中長期的な市政の方向性を基軸とし、区民の皆様をはじめ、自治会町内会や各種団体、企業、大学など、多くの皆様の声を丁寧にお聴きし、区民の皆様に喜んでいただける独自の取組を推進していきます。
- 都筑区運営方針で掲げた 4 つの柱の下、「命と暮らしを守る災害対策、防犯・交通安全施策」、「切れ目のない子育て支援やこどもの居場所の充実」、「歳を重ねながら自分らしく暮らせる地域づくり」、「にぎわい・活力のあるまちづくり」、「新たなグリーン社会の実現に向けた取組」等の課題やニーズに、迅速かつ、きめ細かく対応するための予算が自主企画事業費であるという認識のもと、区として行うべき取組を推進します。
- 特に、令和 9 年 3 月に開幕を迎える横浜グリーンエキスポについては、9 年度は、より一層の来場意欲醸成や、開催後のレガシー継承を見据えた取組を、地域の魅力を活かしながら進めます。
- 「中期計画 2026-2029」では、「市民の実感」を最上位目標に位置付けており、「データ駆動型経営」による施策の質の向上が示されています。区民の皆様のニーズにしっかり応えられる区民満足度の高い施策を実施するために、市民意識調査や区民意識調査、事業に関するアンケートやデジタルプラットフォームによるご意見、こどもたちの声など、各種データの活用をさらに進めます。また、「各事業が区民の皆様にとどのような効果をもたらすか」という視点で、客観的で測定可能なアウトカム指標を検討します。
- 限られた資源の中で、時代の変化や多様化するニーズに応えるため、これまでの事業評価の反映やスクラップ＆ビルドの徹底、さらには、多様な主体との協働・共創や AI などデジタル技術の活用に取り組みます。また、ホスピタリティ・マインドを持って一人ひとりに寄り添った質の高い行政サービスを公平公正に提供するとともに、様々な機会を通じて現場に出向き、地域の皆様と想いを共有し、一緒に考えることで、多くの皆様が生き生きと活躍できる環境づくりを進めます。
- さらに、区役所のリ・デザインの中で進められている、証明発行窓口の統合やライフイベント関連手続きのワンストップ化等を通じて、区民の皆様の利便性向上と効率的な窓口サービスの実現を図ります。また、職員一人ひとりが意欲と能力を最大限に発揮し、安心していきいきと活躍できる職場づくりを進めます。

これらの取組により、「「つながり」「活力と魅力」「安心」を実感できるまち、ふるさと都筑」を実現していきます。

【施策の柱】

都筑区運営方針で掲げた「4つの施策」を柱とし、令和9年度予算編成を進めます。

ア 誰もが安心・安全に暮らせるまち

震災や風水害への備えとして、災害時も安心・安全に過ごすための個人備蓄の促進や、各種訓練、関係団体との連携強化など、自助・共助の取組を支援し、地域防災力の向上を図ります。さらに、地域防災拠点の環境整備を進めます。また、地域の防犯意識向上に向けた取組や交通安全の啓発を引き続き、推進します。

イ 子育て世代をはじめ、あらゆる世代が住み続けたいと思えるまち

こどもたちの健やかな育ちを支える地域づくりの取組や、妊娠期から学齢期までの切れ目のない子育て支援策を展開することで、誰もが安心して子育てでき、こども自身がのびのびと成長できる環境づくりを進めます。また、第5期都筑区地域福祉保健計画を推進し、歳を重ねながら、誰もが安心して自分らしく健やかに暮らせるよう、地域の皆様や関係機関と連携・協力して地域の課題解決に取り組みます。さらに、人と人とのつながりを実感できるよう、自治会町内会の活動支援や地域活動団体との連携を支援します。

ウ 活力とにぎわい、魅力あふれるまち

まちの魅力や歴史を活かしたにぎわい創出や、多様な文化・芸術活動の振興、古くから続く伝統芸能等の普及・継承、多文化共生の取組を進めます。また、活発なスポーツ活動の推進や体験機会の創出に取り組みます。さらに、商店街やものづくり企業、区内農家等と連携し、区の魅力を活かしたまちづくりを推進します。

エ 花と緑にあふれ、豊かな環境を育むまち

開幕を迎える横浜グリーンエキスポを「見てみたい」、「ワクワクする」と思っただき、実際に来場していただけるよう、具体的な情報を発信していきます。また、横浜グリーンエキスポが目指すサステナブルなグリーン社会の実現に向け、区民一人ひとりの行動変容を促進します。引き続き、プラスチック資源をはじめとする資源とごみの分別啓発や、脱炭素行動の実践を促す取組も推進します。



横浜グリーンエキスポの来場意欲醸成の取組について

横浜グリーンエキスポのより一層の機運醸成を図るため、これまでに様々な認知度向上の取組を行ってまいりました。

開幕を迎える今年度は、実際に「行ってみたい」と思っていただき、会場で素晴らしいコンテンツに直接触れていただけるよう、日常の様々な場面で横浜グリーンエキスポに接する機会の創出や、来場につながる具体的な情報、参加に関するプログラムなどを発信してまいります。

特に、開催半年前や100日前などの節目をとらえた効果的なPRや情報発信を行い、「早く見てみたい」「ワクワクする」という来場意欲の醸成を図ってまいります。

また、横浜グリーンエキスポを通じて、サステナブルなグリーン社会の実現に向け、区民一人ひとりの行動変容を促進します。

1 令和8年度における今後実施予定の取組

9月19日に開催半年前、12月9日に開催100日前を迎えることを契機として、区内公共施設へのさらなるデザイン装飾の展開や、各種イベントや地域の環境活動団体と連携した情報発信、また、都筑区ならではの身近な自然を活かしたイベント開催や、開催会場となる上瀬谷エリアを巡るウォーキングツアーなどを実施していきます。

(1) 開催半年前を契機とした取組

取組名	時期(予定)	取組内容	
PRボックスリニューアル	8月18日 (火)	仲町台駅、都筑ふれあいの丘駅、北山田駅のPRボックスを横浜グリーンエキスポデザインにリニューアルしました。	
区庁舎屋外階段ステップ装飾	8月27日 (木)	区庁舎屋外階段ステップを横浜グリーンエキスポのデザインに装飾しました。	

区内歩道橋への横断幕の掲出	8月5日 (水) ～9月4日 (金)	区内の歩道橋(5か所)に横断幕を新たに掲出します。	
IKEA 横浜アニバーサリーイベントにおける都筑野菜出張朝市	9月20日 (日)	IKEA 横浜で開催されるアニバーサリーイベントの会場において、都筑野菜出張朝市を出展します。環境との共生を理念とする横浜グリーンエキスポの開催、さらにその先にあるサステナブルなグリーン社会の実現に向けた取組の一つとして、地元産農産物の販売・PRを通じた「地産地消」の推進を図ります。	
「キッズ」「学童」作品展との連携	9月10日 (木)～ 15日(火)	放課後キッズクラブや放課後児童クラブに所属する子どもたちが「幸せを創る明日の風景 (GREEN×EXPO 2027 のテーマ)」をテーマに制作した作品を区民ホールで展示します。	
横浜市総合防災訓練でのPR	10月4日 (日)	今年度都筑区で開催される横浜市総合防災訓練の会場で、ブースを出展し、横浜グリーンエキスポのPRを行います。	 ※イメージ写真
地域による応援イベントの開催	コキア祭 10月24日 (土) 里山まつり 10月25日 (日)	横浜グリーンエキスポ 応援イベント「コキア祭」及び「里山まつり」で、地域ならではの企画を環境活動団体と連携して展開します。	

(2) 開催 100 日前の取組

取組名	時期(予定)	取組内容	
100 日前イベントの実施	12月6日 (日)	開催 100 日前の節目にあたり、横浜グリーンエキスポの会場となる上瀬谷エリアを巡るウォーキングツアーを開催します。	

(3) その他の取組

取組名	時期(予定)	取組内容
各種イベントでのPR	随時	区民ホールでのイベントや区民まつり、その他区内で開催される大規模イベントで広報活動を実施します。



2 令和8年度におけるこれまでの取組

令和8年度は、区民の皆様に「実際に行ってみたい」と感じていただけるような取組を重視し、チケット情報の周知や会場内の配置図、都筑区からのアクセス方法を周知するなど、来場意欲の醸成を図る取組を進めてきました。

(1) 各種イベントによる広報

取組名	時期	取組内容
地域による応援イベントの開催	ネモフィラ祭 4月11日(土)	早渕川・老馬谷ガーデン運営委員会による横浜グリーンエキスポ応援イベント「ネモフィラ祭」が開催され、「自然と人が共存する暮らしの心地よさ」を感じられるような、地域ならではの企画が展開されました。
青少年指導員委嘱式による開催機運の醸成	4月17日(金)	委嘱される青少年指導員への委嘱物品として横浜グリーンエキスポの缶バッジを配布しました。 また、会場内外でパネル等を活用したPRを実施しました。
センター南春まつりでのPR	4月25日(土)	会場内でマスコットバルーンやパネル等を活用したPRを実施しました。
市民の森パネル展でのPR	4月30日(木)～ 5月7日(木)	会場内でパネル等を活用したPRを実施しました。
都筑中央公園と連携したPR	随時	5月17日(日)に開催されたバラまつりの会場内で、エアチューブやパネル等を活用したPRを実施しました。今後も、NPO法人都筑里山倶楽部様の御協力をいただき、継続的にグッズやちらしの配布を行っていきます。



つづき 3R 週間 での PR	6 月 18 日 (木) ~ 24 日 (水)	ブースを全面的にラッピングしたほか、 参加者へサンバイザーなどの啓発グッズ を配布しました。	
公園愛護会、ハ マロード・サポ ーター合同パ ネル展での PR	7 月 2 日 (水) ~ 8 日 (火)	会場内でパネル等を活用したPRを実施 しました。	
災害医療講演 会	7 月 12 日 (日)	会場内でパネル等を活用したPRを実施 しました。	
医療介護福祉 事業者向け研 修での PR	7 月 13 日 (月)	会場内でパネル等を活用したPRを実施 しました。また、参加者に対して、チケッ ト情報が掲載されたチラシを配布しまし た。	
食中毒予防キ ャンペーンで の PR	7 月 29 日 (水)	会場内でのぼりを活用したPRを実施し ました。	
各種撮影時の バックパネル による PR	通年	横浜グリーンエクスポデザインのバック パネルを写真撮影等に使用し、継続して PRを行っています。	
地域の緑化活 動団体と協働 したプロモー ション	随時	花やみどりを通じて、横浜グリーンエク スポを身近に感じられるよう、区内の緑化 活動団体と連携したプロモーションを行 います。	

(2) 庁舎内外での PR

取組名	時期	取組内容	
「B-COR i ビジョン」での動画放映	通年	市政、区政の重要な情報の発信を目的として令和 6 年度区民ホールに設置された「BCOR i ビジョン」で、横浜グリーンエキスポの魅力発信動画を放映しています。	
GREEN×EXPO2027 特別仕様ナンバープレート(自動車用)の取付	通年	横浜グリーンエキスポの機運醸成のため、利用頻度が高く、地域住民の目に触れやすい、区役所の公用車(8 台)に、特別仕様ナンバープレートの取り付けを実施しました。	
区庁舎入口での PR	通年	区庁舎入口にポスターとのぼりを掲出しています。	
災害救援自動販売機での PR	通年	区民ホールに設置されている災害救援自動販売機にPRステッカーを貼付しています。	
図書館前防火戸のラッピング	通年	都筑区総合庁舎 1 階図書館前の防火戸にPRステッカーを貼付しています。	
区民ホールへの連続旗の掲出	通年	区民ホールに連続旗を掲出しています。	
駅前や歩道橋等での PR	通年	区内の主要駅前(センター南駅、センター北駅、仲町台駅、つづきふれあいの丘駅)や歩道橋等10か所にフラッグや横断幕を掲出しています。	

横浜グリーンエクス ポ広報 PR 用デジタル サイネージの設置	6 月～	都筑区総合庁舎内（1 階～6 階、及び エレベーター内）に、計42台の横浜グリー ンエクスポ広報PR用デジタルサイネ ージを公民連携により設置しています。	
横浜グリーンエクス ポ機運醸成ステッカ ーの配布	8 月 3 日 (月) ～	市内の店舗や事業所、施設等で掲示い ただける「横浜グリーンエクスポ機運醸 成ステッカー」を区役所窓口にて配布中 です。	 ※イメージ写真

(3) 区内大学・商業施設と連携した機運醸成の取組

取組名	時期	取組内容	
ボッシュ ホール 全天候型広場 大型モニターを 活用した PR	通年	ボッシュ ホール屋外の「プラッツ (全天 候型広場)」大型モニターにて、横浜グリー ンエクスポの魅力発信動画を放映してい ます。	
区内商業施設の サイネージを活 用した PR	通年	港北TOKYU S.C. とノースポート・モール 内のサイネージにて、横浜グリーンエクス ポの魅力発信動画を放映しています。	
東京都市大学の 学食モニターや 校内サイネージ を活用した PR	通年	東京都市大学横浜キャンパス内の学食 のモニターやサイネージにて、横浜グリー ンエクスポの魅力発信動画を放映してい ます。	
ノースポート・ モールと連携し た PR	通年	区内大型商業施設であるノースポート・ モールと連携した館内装飾などのPRを実 施しています。	

(4) 広報媒体を活用した PR

取組名	時期	取組内容
広報よこはま 都筑区版紙面 での PR	通年	広報よこはま都筑区版では、毎月、特集面やトピックス面を通じて記事やコラムを掲載し、横浜グリーンエクスポへの関心を高める取組を進めています。
都筑区公式 X での PR	通年	トウunkトウunkのぬいぐるみを活用し、都筑区公式 X で身近な自然を紹介する「トウunkトウunkおでかけ日記」をシリーズで発信しています。
区連会等を通じた最新情報の発信	通年	横浜市やGREEN×EXPO協会が実施するボランティア募集や参加型プログラム等について、区民に届くよう、区連会等を通じて最新情報の発信を行っています。

